

# 目 次

圖 名	山浦浄水場免電機樓ほか建築工事 圖面目錄					No. A-0	
	縮尺 NON						
		課長		係長	設計		写 図
岡 山 市 水 道 局 配 水 部 施 設 整 備 課							





















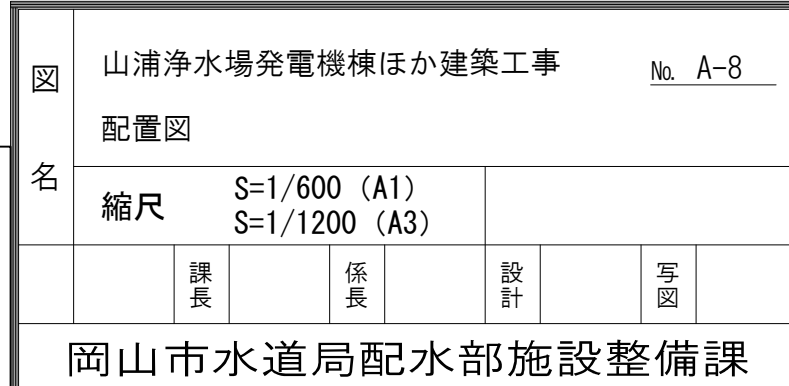




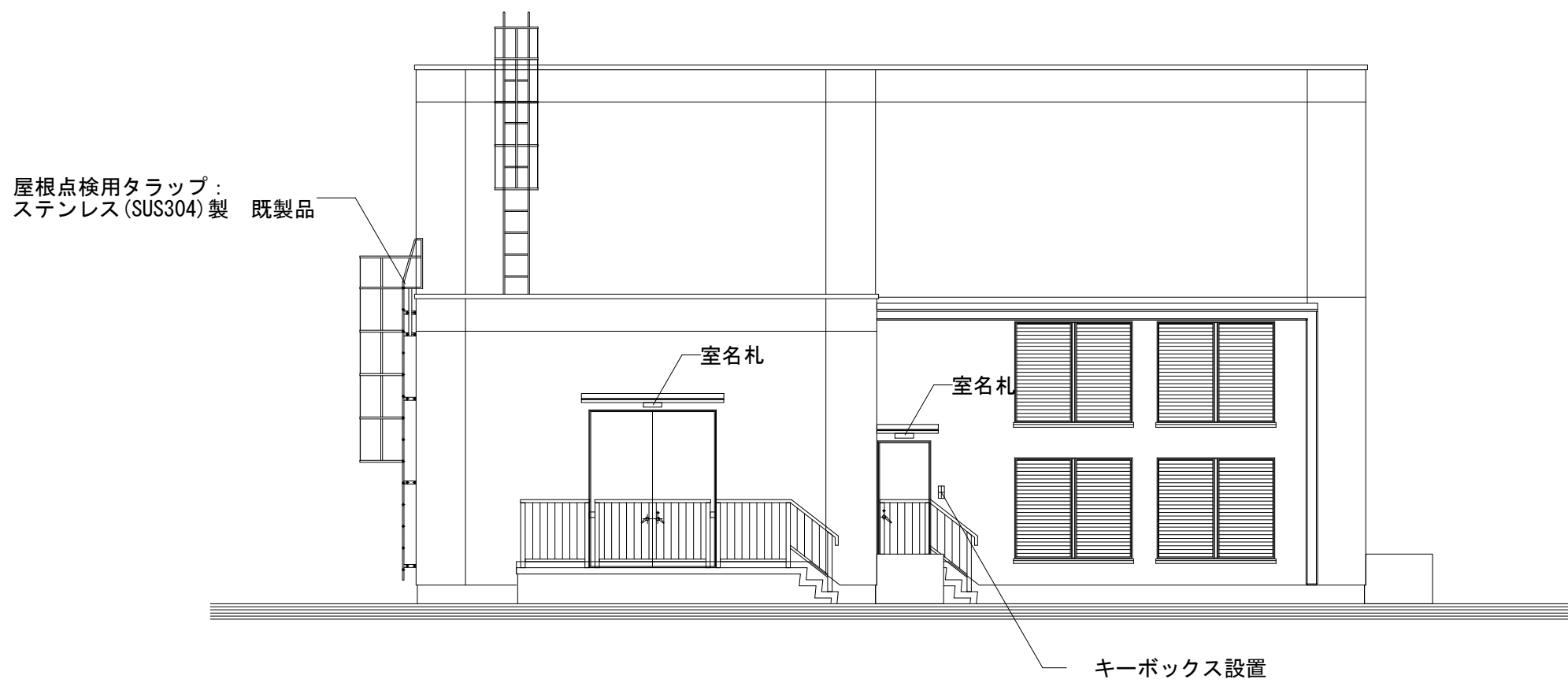






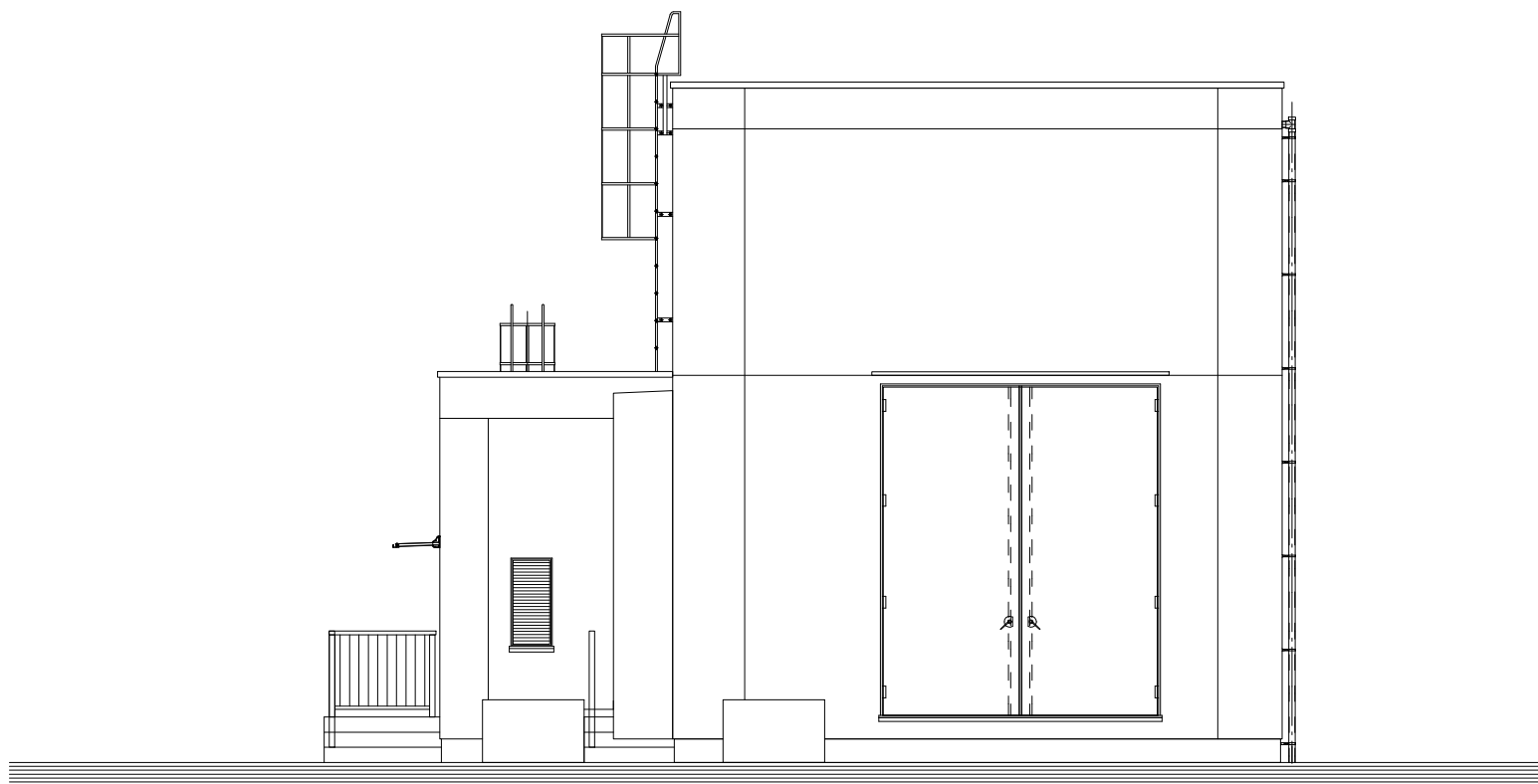




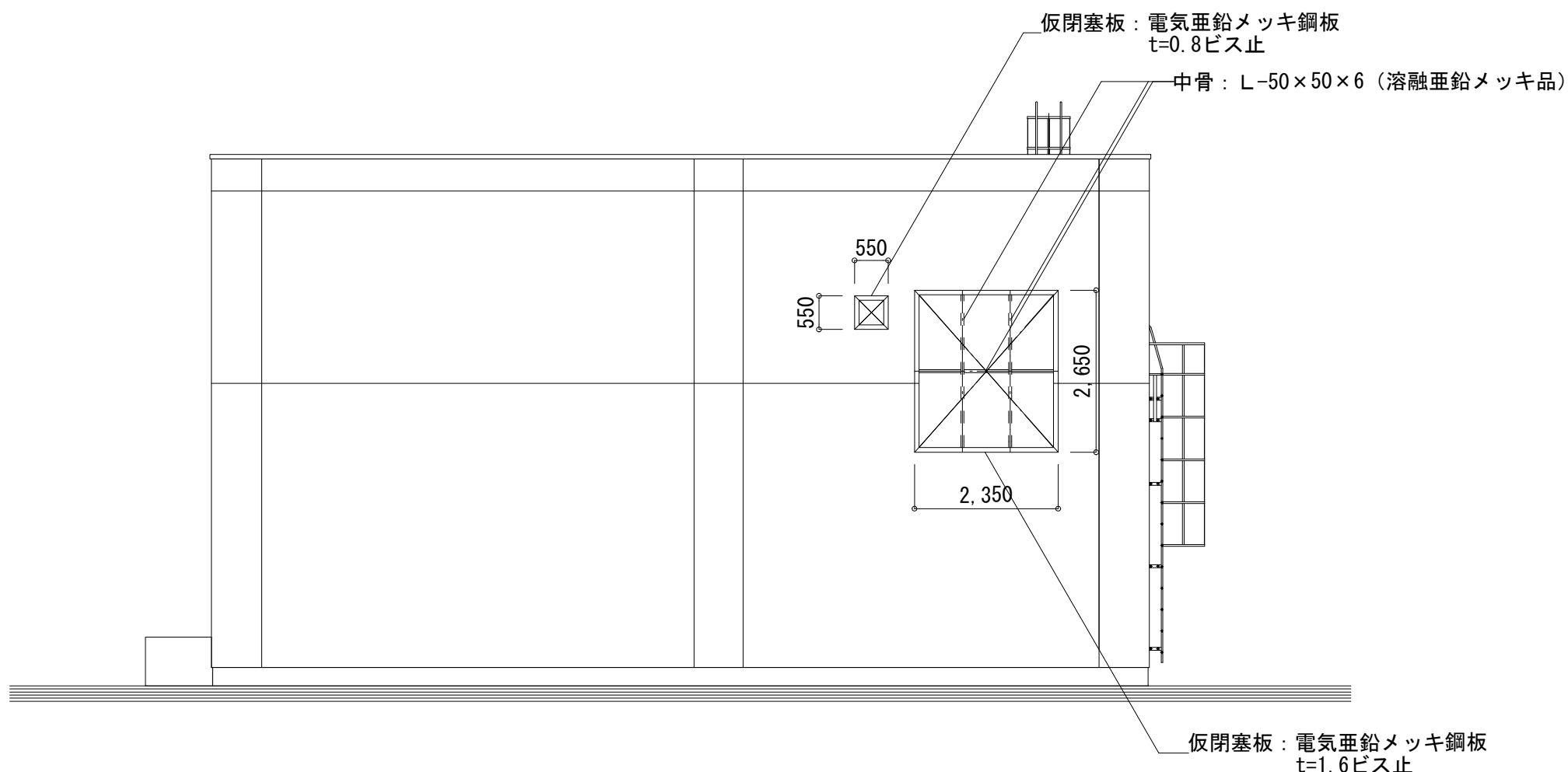


南側 立面図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)

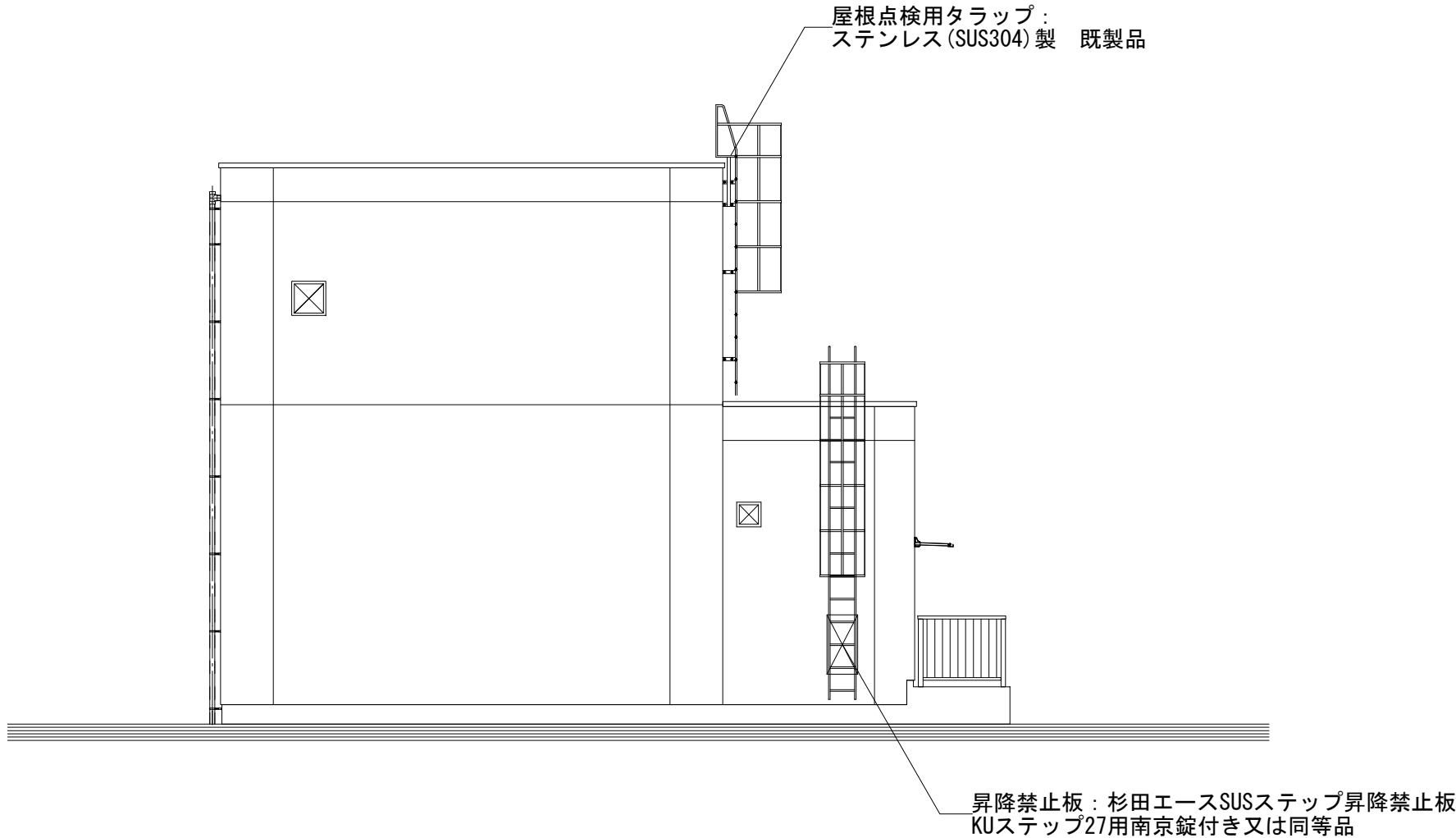
※ 室名札：杉田エース (株) 一般室名札AE-815-A又は同等品



東側 立面図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)



北側 立面図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)

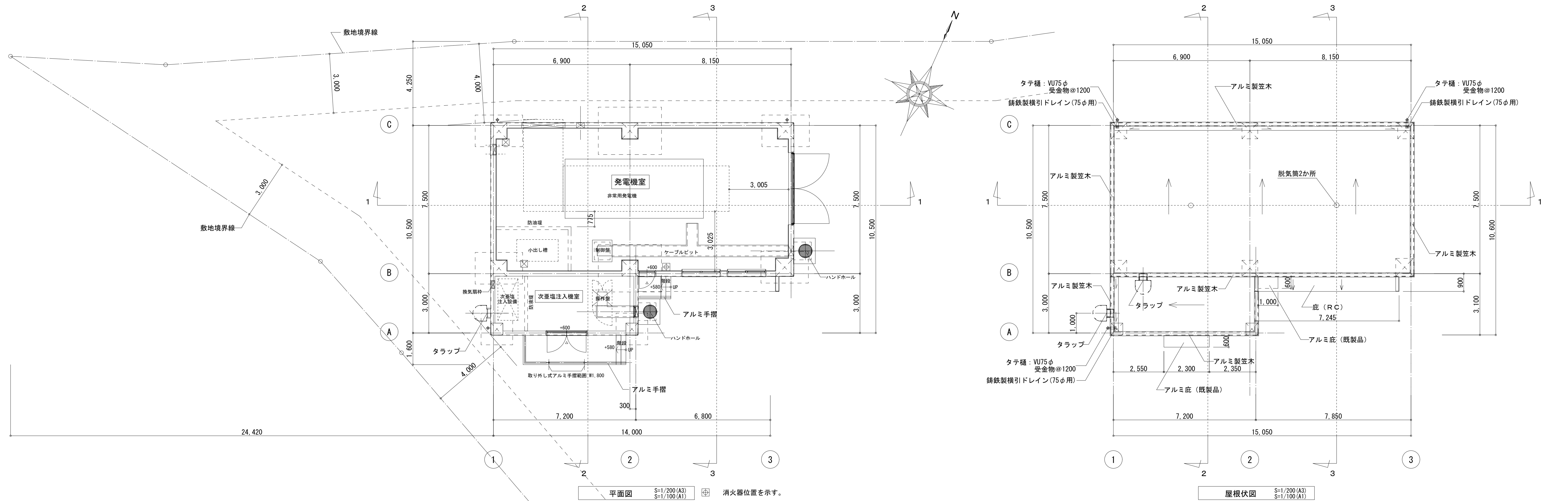


西側 立面図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)



外部仕上表		内部仕上表											
部位	仕上		階	室名	床	巾木 腰壁		壁	天井			備考	
							H			天井見切	CH		
屋根	コンクリートコテ押さえの上 ウレタンゴム系塗膜防水（X－1） 笠木：アルミ製		1 階	発電機室	無筋コンクリートコテ押えの上防塵塗装	コンクリート打放し補修の上		H=100	グラスウール吸音板t=25	グラスウール吸音板t=25	――	直天	設備基礎防塵塗装
					防油堤及び堤内無筋コンクリート（設備工事）	防塵塗装立上			ガラスクロスファスナー止、下部75mm角止め	ガラスクロスファスナー止			蓋付き（鋼製フェッカープレート溶融亜鉛メッキ）ケーブルボックス
外壁	コンクリート打放しの上（増打ちt=20）合成樹脂エマルジョン複層仕上塗材吹付けRE（以下吹付タイルとする） 巾木：コンクリート打放し 素地仕上			次亜塩注入機室	防油堤内：耐薬品塗装（設備工事）	防油堤内：耐薬品塗装（設備工事）		H=650	防液堤外側壁：防塵塗装立上げ（設備工事）	（梁型共）			
					無筋コンクリートコテ押えの上防塵塗装	コンクリート打放し補修の上		H=100			――	直天	
庇	コンクリートコテ押えの上塗膜防水（X－2） 軒裏小口：コンクリート打放しの上吹付タイル				防液堤及び堤内無筋コンクリート（設備工事）	防塵塗装立上			コンクリート打放し仕上	コンクリート打放し仕上			蓋付き（鋼製フェッカープレート溶融亜鉛メッキ）ケーブルボックス
					防液堤内：耐薬品塗装（設備工事）	防液堤内：耐薬品塗装（設備工事）		H=350	防液堤外側壁：防塵塗装立上げ（設備工事）	（梁型共）			換気扇枠
外部建具	出入口：鋼製ドア及び鋼製防音ドア ガラリ：アルミ製（電解着色）												
樋	縦樋：VU75φ（カラー） 受金物（SUS304）@1,200、屋上横引ドレイン												
外部階段・ポーチ	床、路面、蹴上：モルタルコテ押さえ、ノンスリップ；磁器質段鼻タイル、手摺：アルミ製												
SOP 合成樹脂調合ペイント NAD アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り DP-C(2-UE) 2液形ポリウレタンエナメル塗り DP 耐候性塗料塗り EP-G つや有合成樹脂エマルジョンペイント EP 合成樹脂エマルジョンペイント													
※ 内装仕上げ材は、ホルムアルデヒド規制に係る面積制限を受けずに（無制限に）使える製品を使用の事。（F☆☆☆☆）													

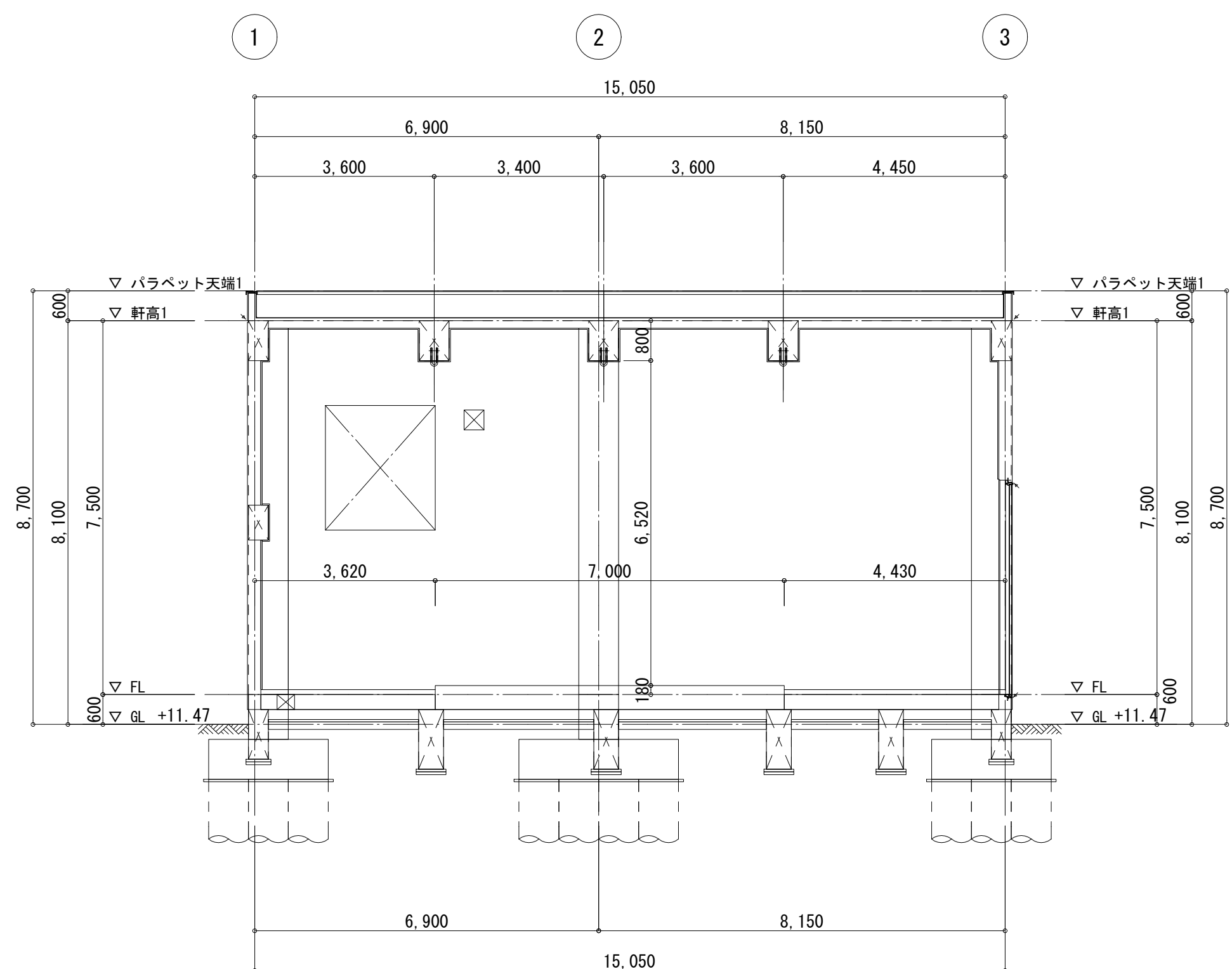
※塗床材は全てノンスリップタイプとする。（但し巾木、設備基礎は除く）



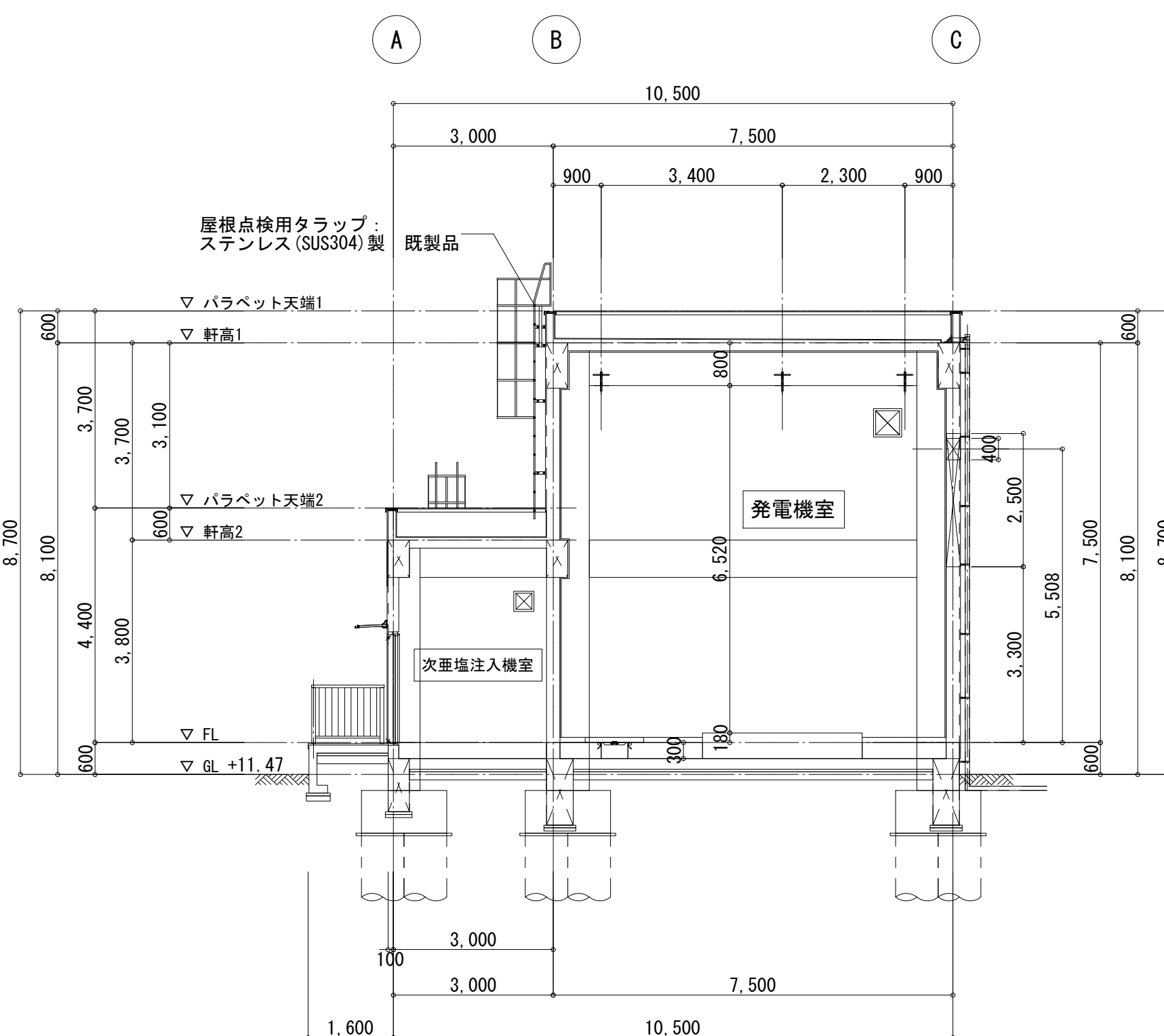
求積表

建築面積		
記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	15,050 × 7,500	112,875
2	3,000 × 7,200	21,600
合計面積		134.47
床面積		
記号	計算式 (m)	面積 (㎡)
1	15,050 × 7,500	112,875
2	3,000 × 7,200	21,600
合計面積		134.47

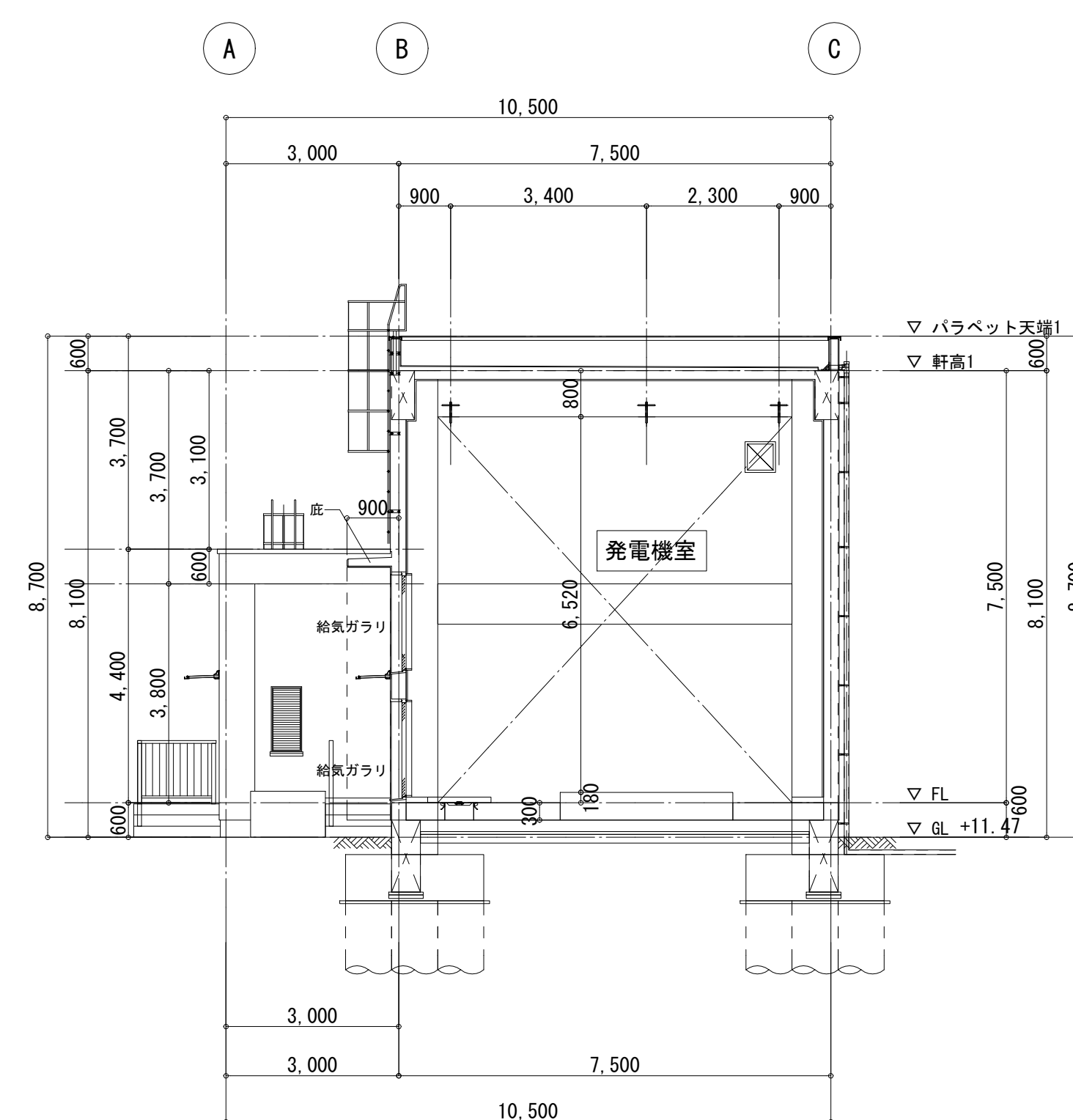




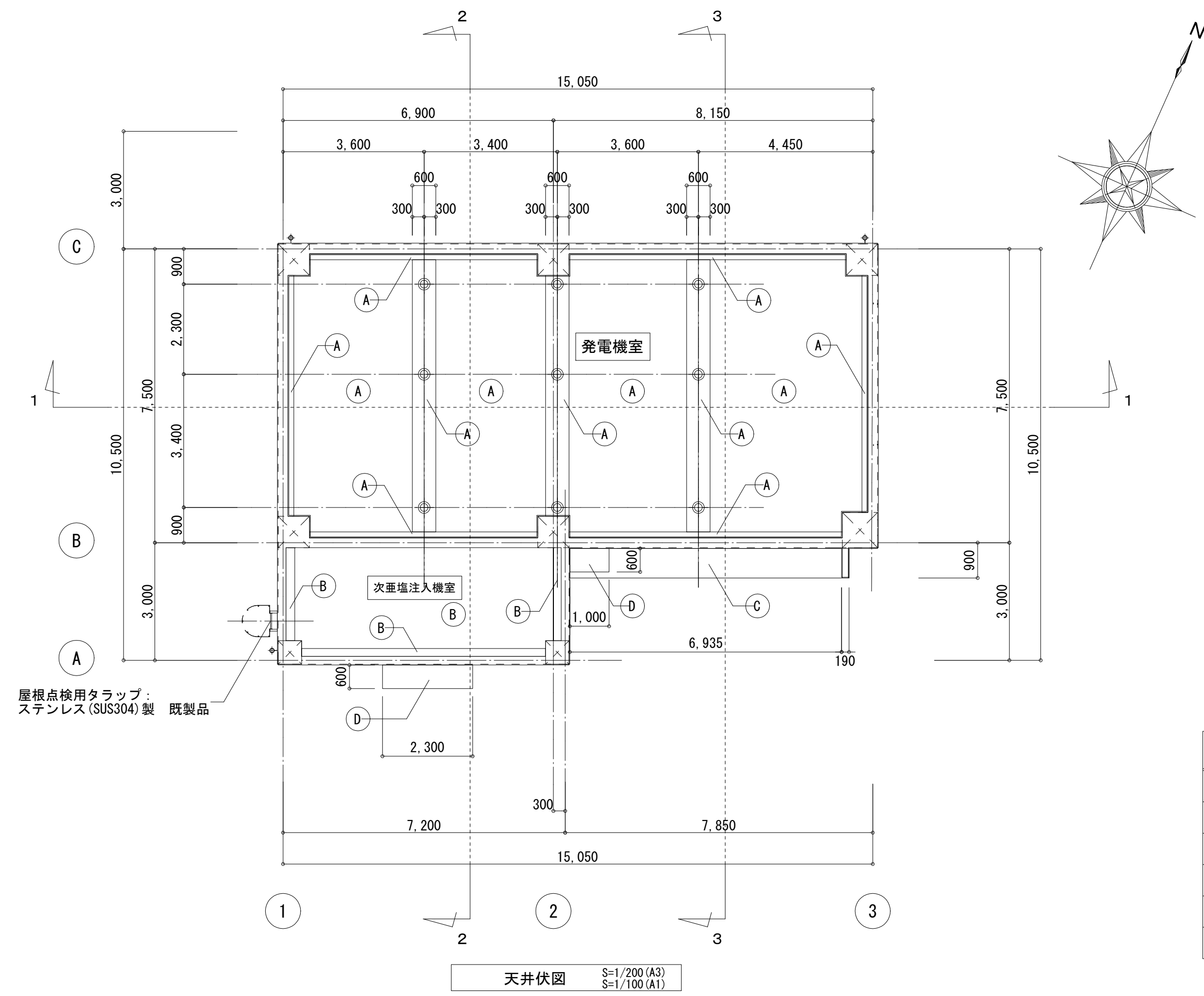
1-1 断面図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)



2-2 断面図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)



3-3 断面図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)



天井伏図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)

記号	天井仕上	天井見切
Ⓐ	グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止	
Ⓑ	コンクリート打放し仕上げ	
Ⓒ	コンクリート打放しの上吹付タイル	
Ⓓ	アルミ庇 (既製品)	
⊕	天井フック位置 (耐荷重3トン)	



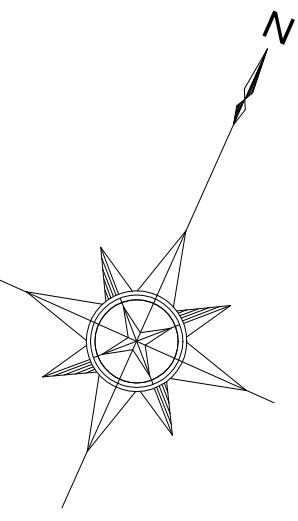
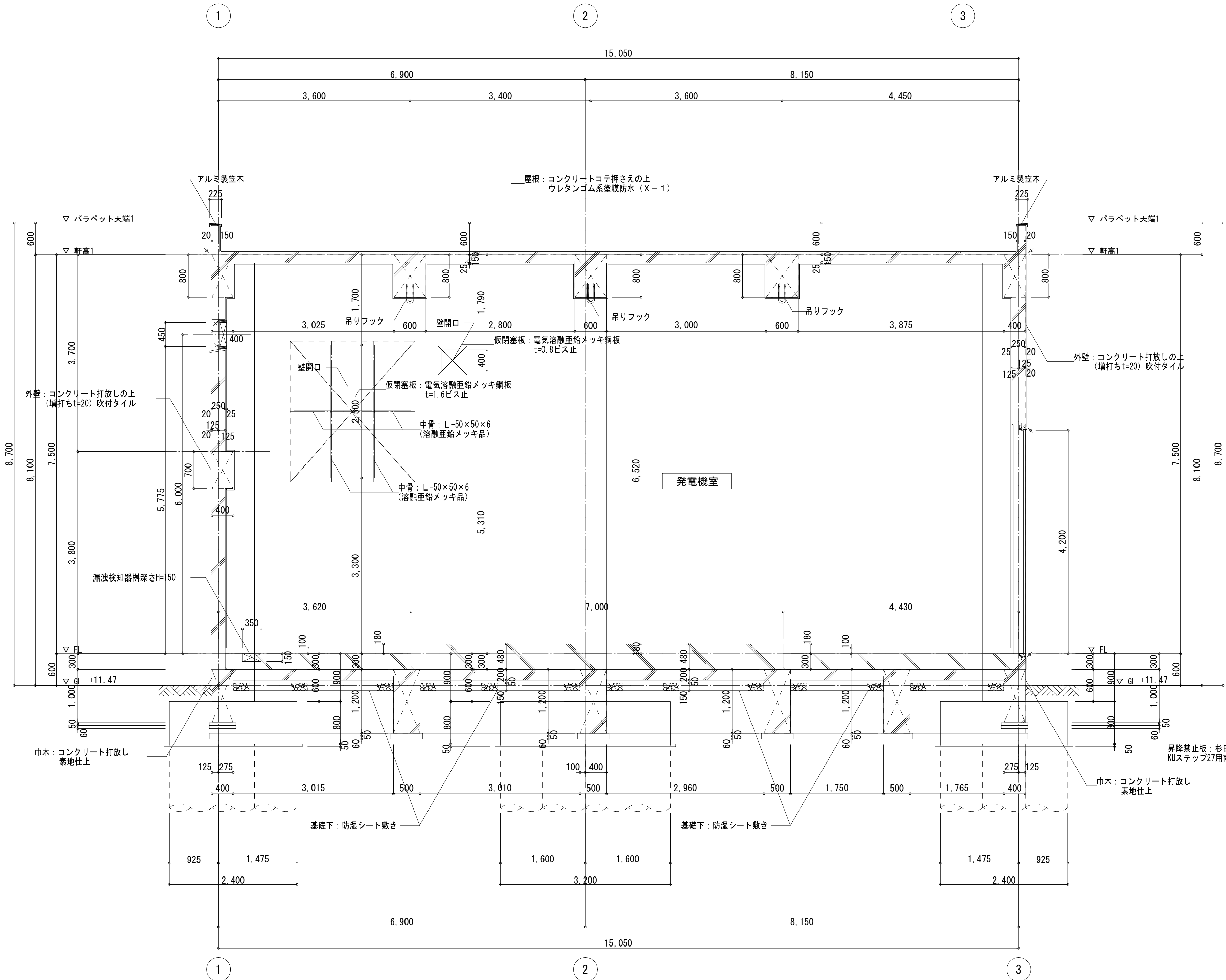
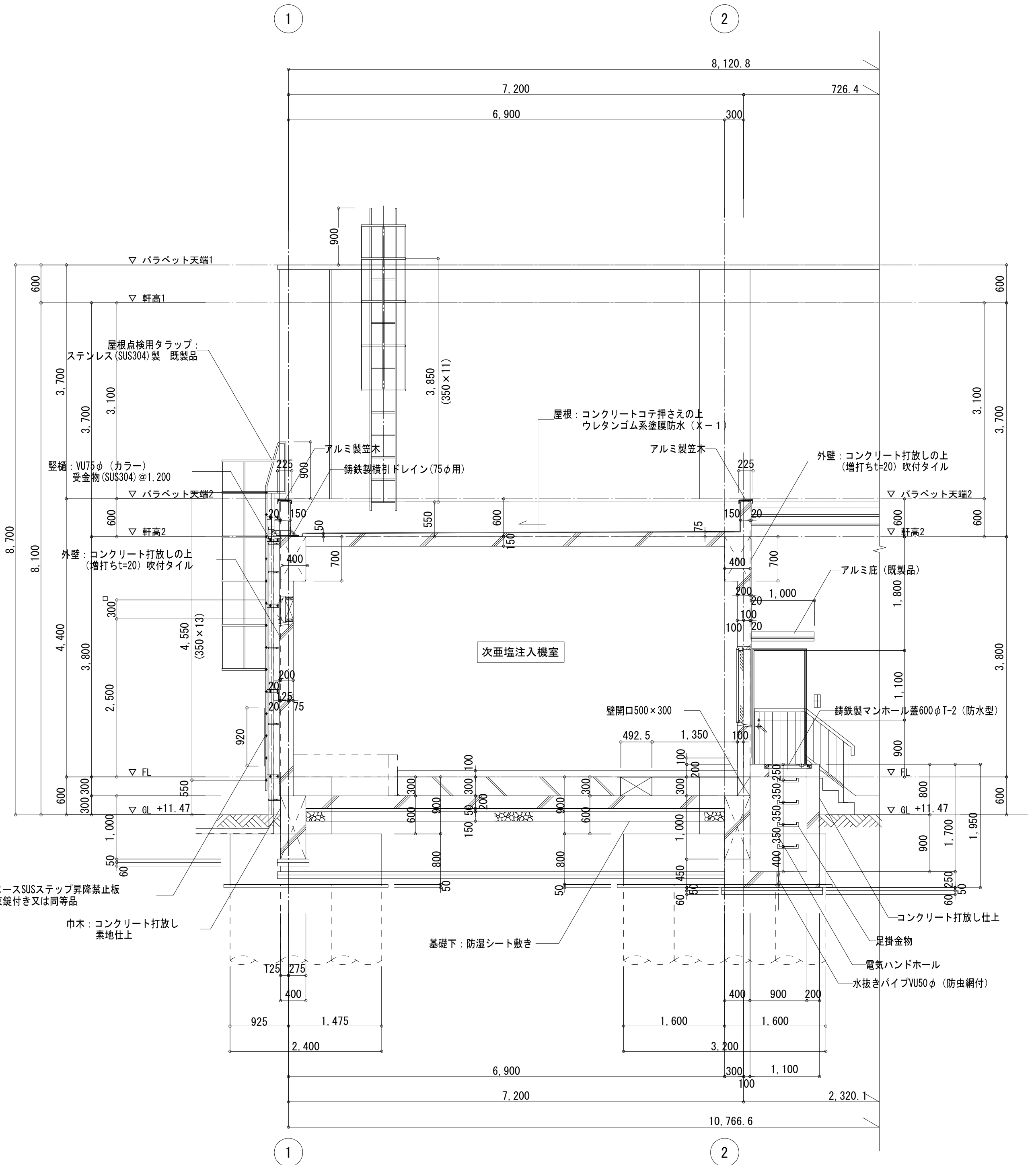


図 名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事				No. A-12	
	平面詳細図					
	縮尺					
	S=1/100 (A3) S=1/50 (A1)					
	課長	係長	設計	写真		
岡山市水道局配水部施設整備課						



A-A 断面詳細図  
※ 構造スリット仕様位置は構造図による

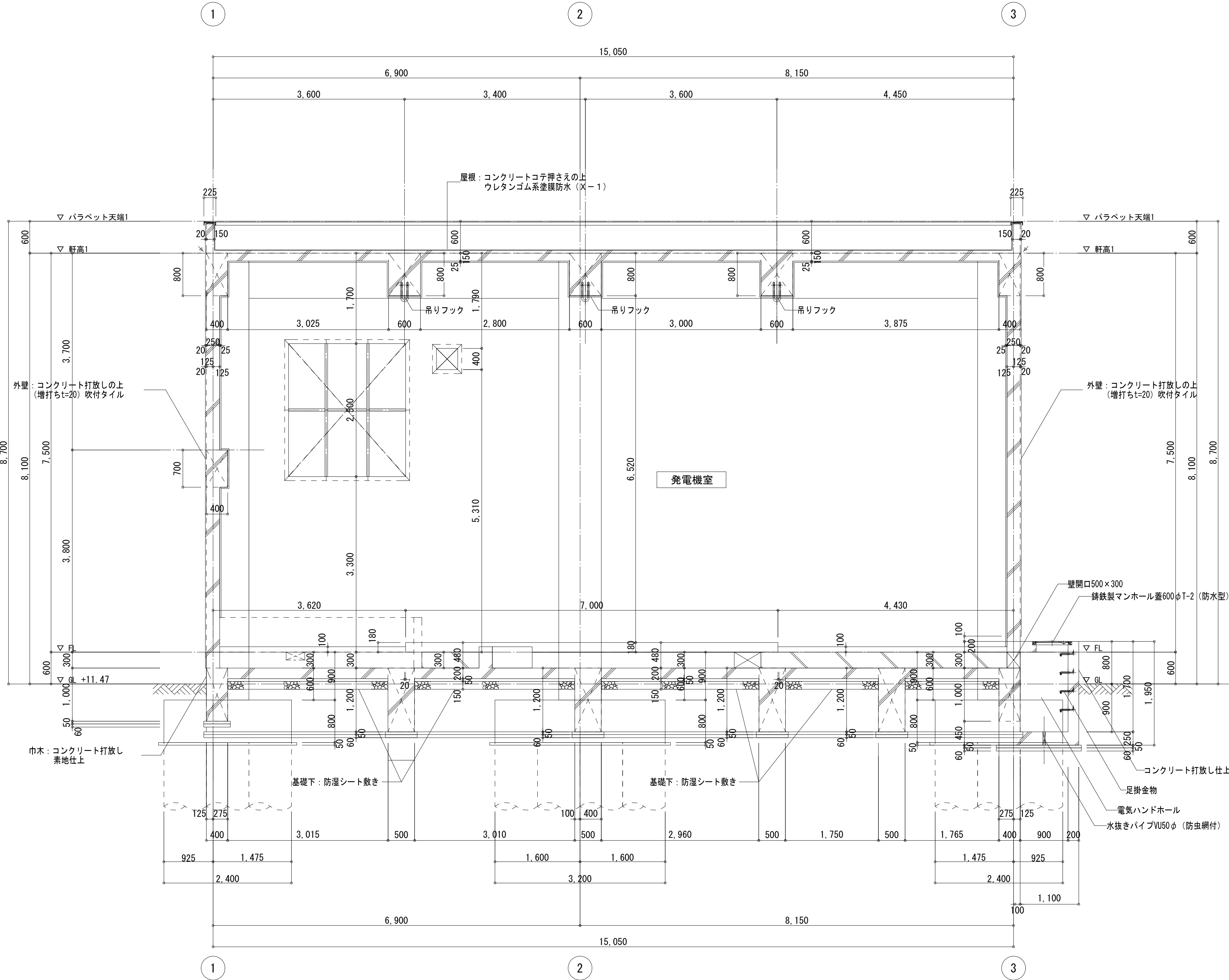
発電機室 室内仕上	天井：グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止（梁型共） 壁：グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止 下部アルミアングル止め 巾木：コンクリート打放し補修の上 防塵塗装立上 床：コンクリートコテ押えの上 防塵塗装
--------------	---



C-C 断面詳細図  
※ 構造スリット仕様位置は構造図による

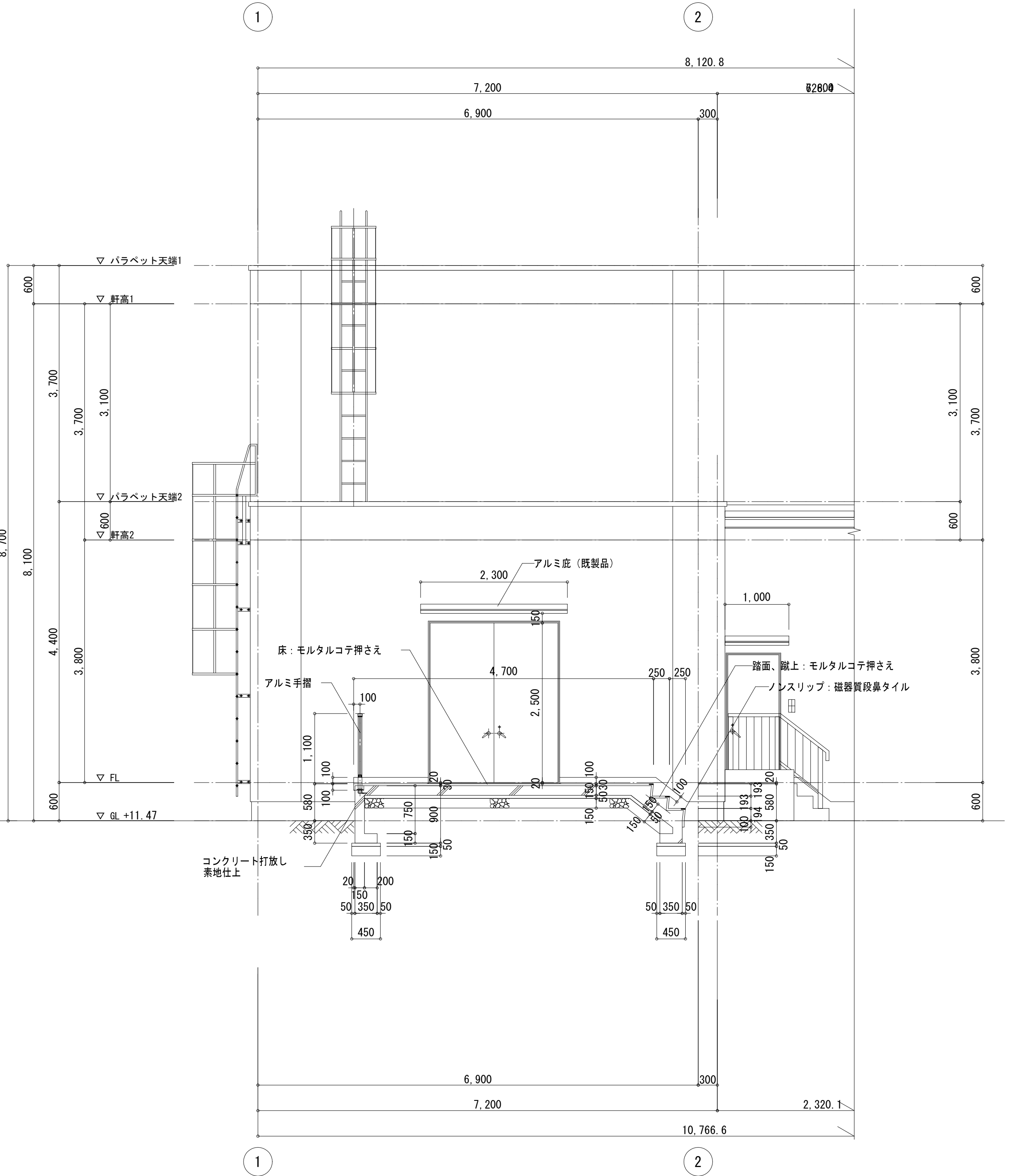
次亜塩素酸注入機室 室内仕上	天井：コンクリート打放し仕上（梁型共） 壁：コンクリート打放し仕上 巾木：コンクリート打放し補修の上 防塵塗装立上 床：コンクリートコテ押えの上 防塵塗装
-------------------	--



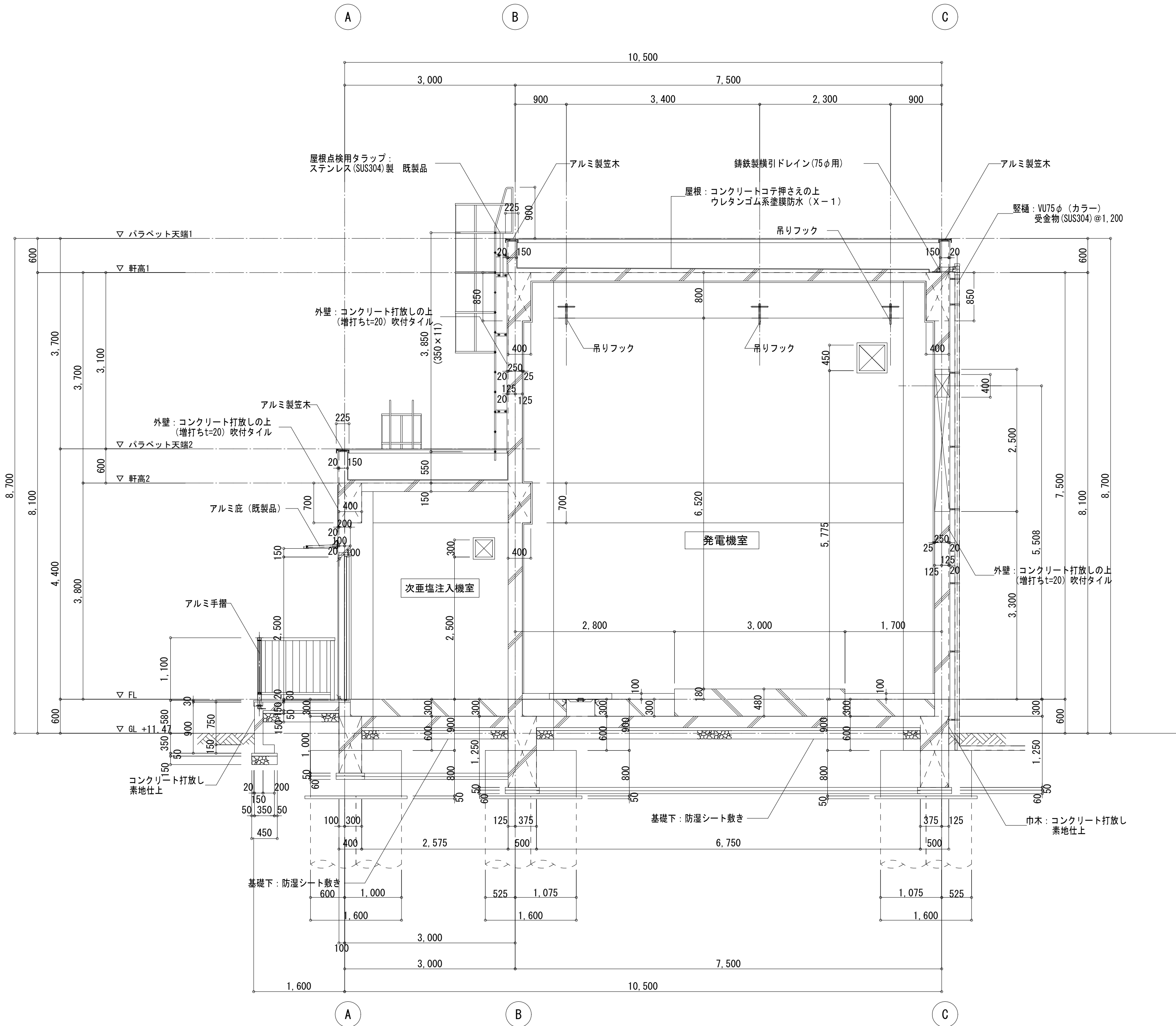


B-B 断面詳細図  
※ 構造スリット仕様位置は構造図による

発電機室 室内仕上	天井：グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止（梁型共）
	床：コンクリートコテ押さえの上 防塵塗装
	壁：グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止
	巾木：コンクリート打放し補修の上 防塵塗装立上 下部アルミアングル止め



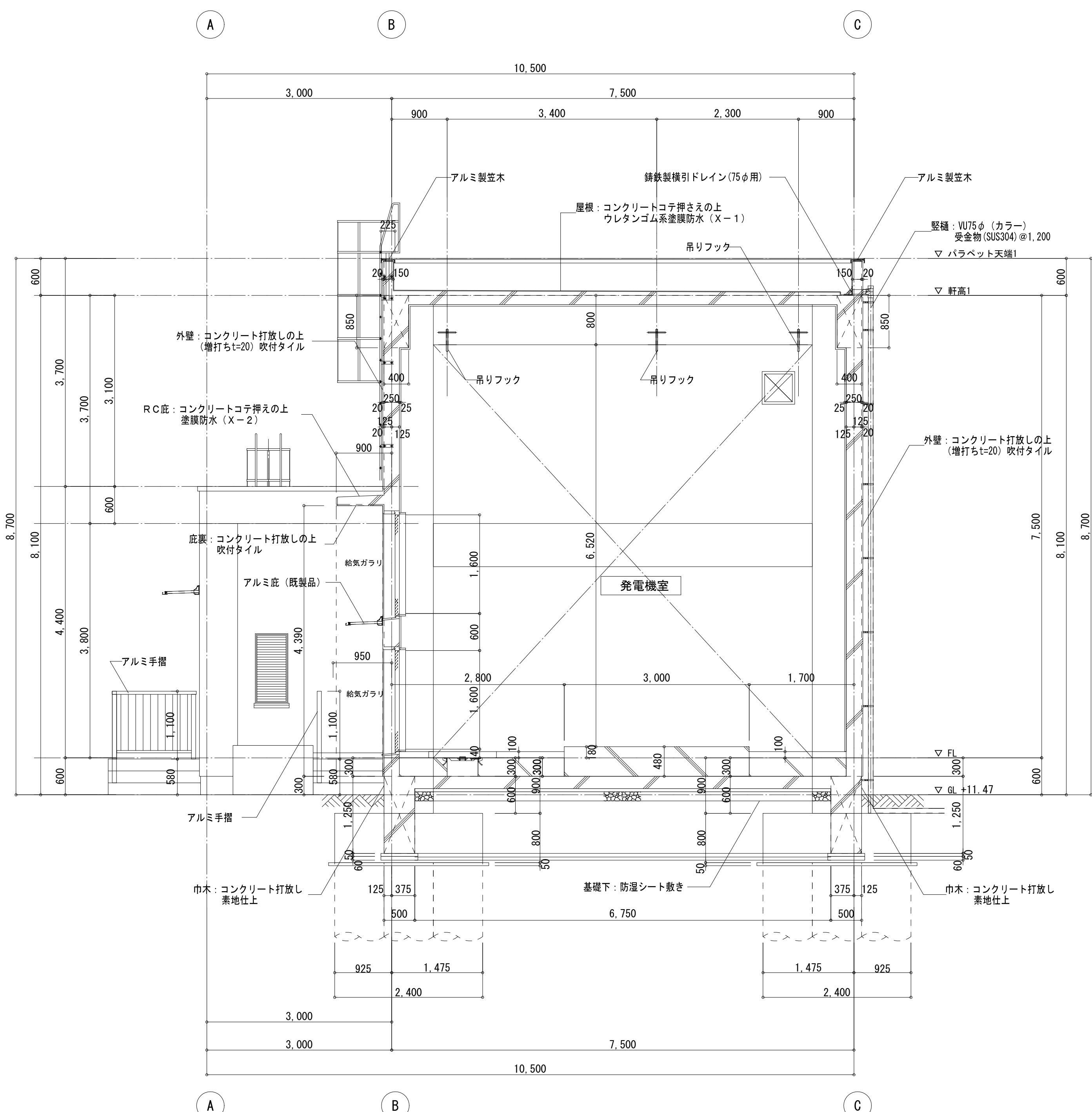
D-D 断面詳細図  
※ 構造スリット仕様位置は構造図による



次重塩注入機室 室内仕上	天井：コンクリート打放し仕上（梁型共）
	壁：コンクリート打放し仕上 巾木：コンクリート打放し補修の上 防塵塗装上 床：コンクリートコテ押えの上 防塵塗装

Ｅ－Ｅ 断面詳細図  
※ 構造スリット仕様位置は構造図による

発電機室 室内仕上	天井：グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止（梁型共）
	壁：グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止 下部アルミアングル止め 巾木：コンクリート打放し補修の上 防塵塗装上 床：コンクリートコテ押えの上 防塵塗装

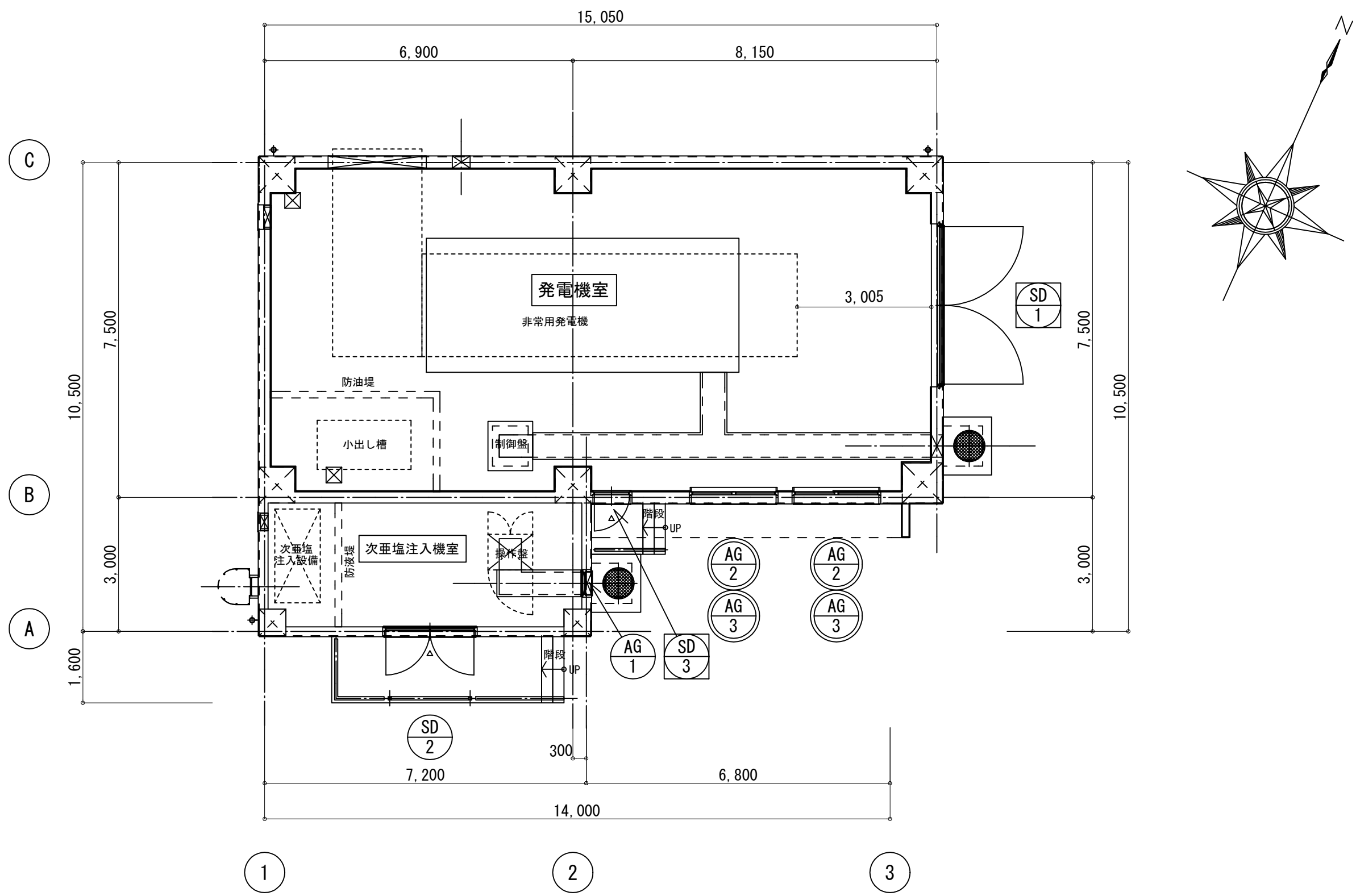


Ｆ－Ｆ 断面詳細図  
※ 構造スリット仕様位置は構造図による

発電機室 室内仕上	天井：グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止（梁型共）
	壁：グラスウール吸音板t=25 ガラスクロスファスナー止 下部アルミアングル止め 巾木：コンクリート打放し補修の上 防塵塗装上 床：コンクリートコテ押えの上 防塵塗装





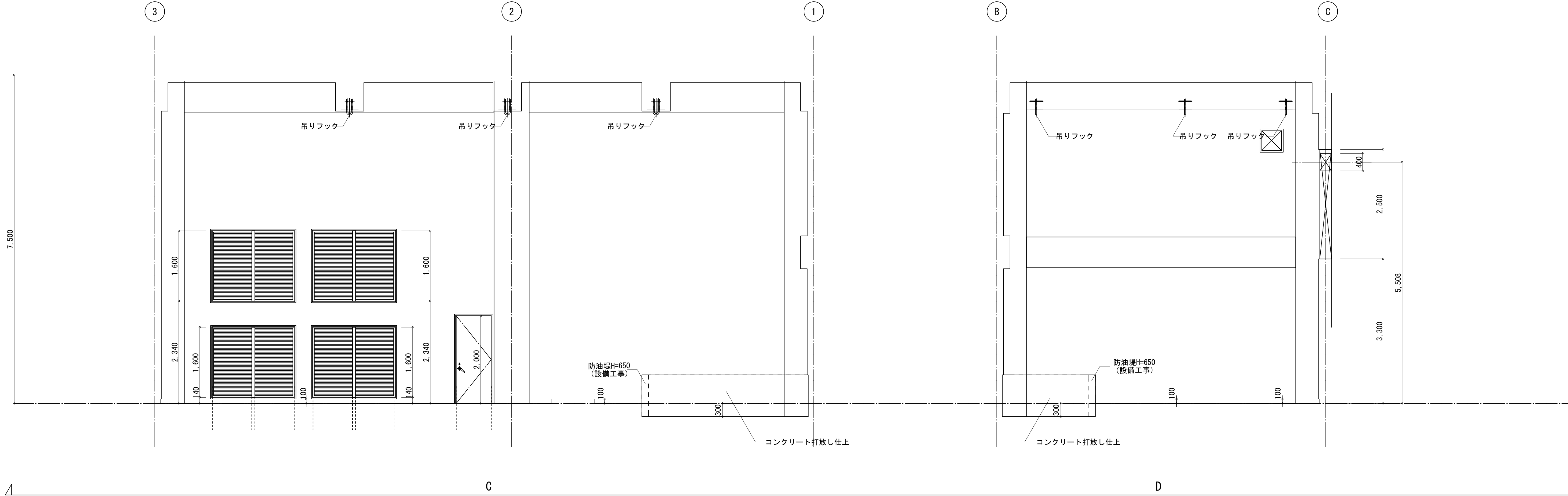
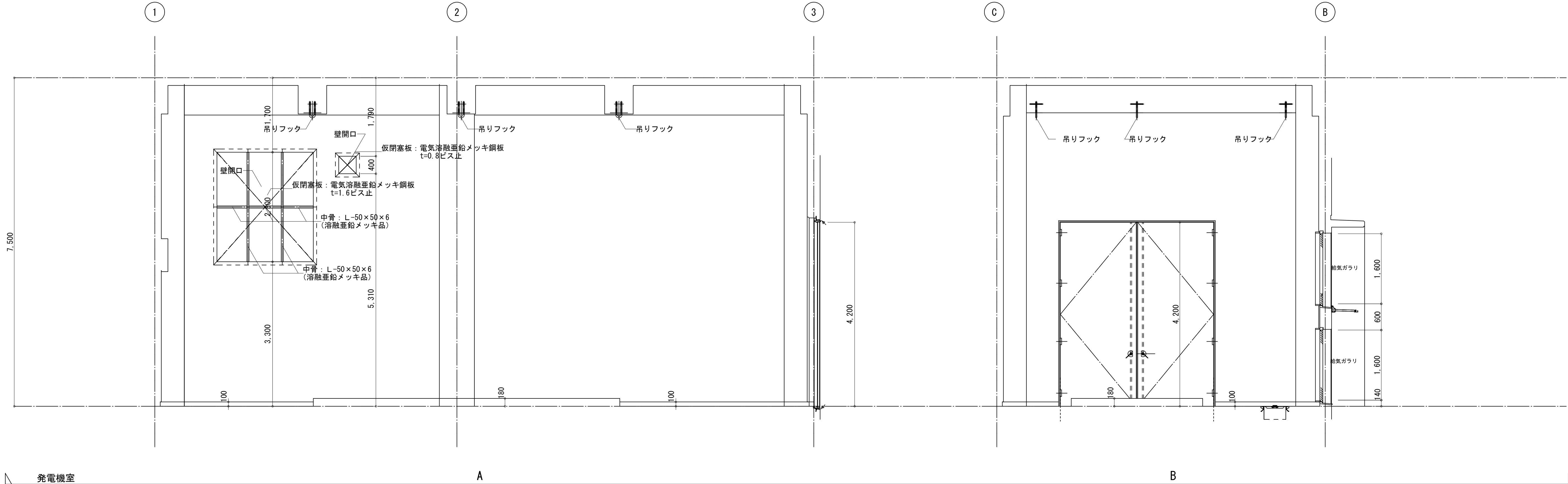


建具配置図 S=1/200(A3)  
S=1/100(A1)

凡例	
	特定防火設備
	防火設備
	一般建具

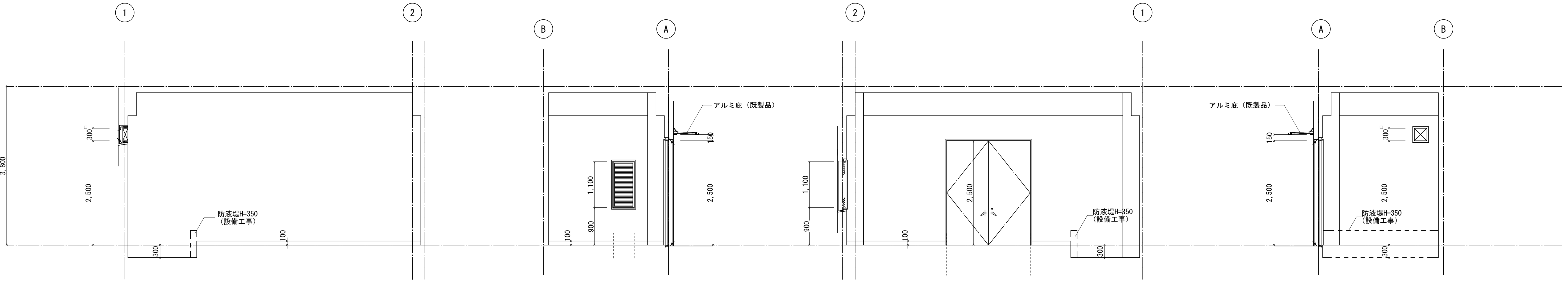
建具表		1/50																					
記号	数量	<div><div>SD</div><div>1</div></div> 特定防火設備	1	<div><div>SD</div><div>2</div></div>	1	<div><div>SD</div><div>3</div></div> 特定防火設備	1		<div><div>AG</div><div>1</div></div>	1	<div><div>AG</div><div>2</div></div> 防火設備	2	<div><div>AG</div><div>3</div></div> 防火設備	2									
姿図																							
	形式	両開き大型スチールフラッシュ防音ドア			両開き大型スチールフラッシュドア			片開きスチールフラッシュ防音ドア			アルミガラリ（開口率30%）			アルミガラリ（開口率50%）									
場所		発電機室			次垂塩注入機室			発電機室			次垂塩注入機室			発電機室									
材料	幹見込	スチール製 DP（ふっ素）塗		140	スチール製 DP（ふっ素）塗	120	スチール製 DP（ふっ素）塗	100	アルミ製（電解着色）	70	アルミ製（電解着色）	70	アルミ製（電解着色）	70									
	見込			80				50				40											
硝子		—			—			—			—			—									
金物		大型丁番、内藏型上げ落し、グレモンハンドル、シリンドー本締り錠			丁番、グレモンハンドル、シリンドー本締錠（サムターン）			丁番、グレモンハンドル、シリンドー本締錠（サムターン）			付属金物一式			付属金物一式									
		片面締りハンドル、ドアーチェック			ドアチェック、フランス落し			ドアチェック			アルミニ重水切			アルミニ重水切、防火ダンバ付									
備考		大型戸当り、扉内グラスウール充填			戸当り、あおり止め			戸当り、扉内グラスウール充填			網戸付（固定）			網戸付（固定）									
額縁仕様		EPDMパッキン			室名	寸法、仕上	材質		ヶ所	室名	寸法、仕上	材質		ヶ所	室名	寸法、仕上	材質		ヶ所				
		次垂塩注入機室			25×35—DP塗	スチール	4方片面	1ヶ所	発電機室	25×35—DP塗	スチール	4方片面	1ヶ所	発電機室	25×85—DP塗	スチール	4方片面	2ヶ所	発電機室	25×85—DP塗	スチール	4方片面	2ヶ所
<div>（注記）</div> <div>・ ドア下枠は全てステンレス製（SUS304）t=2.0とする。</div> <div>・ 網戸は全てステンレス製とする。</div>																							





発電機室	天井: グラスウール吸音板t=25	ガラスクロスファスナー止 (梁型共)
室内仕上	壁: グラスウール吸音板t=25	ガラスクロスファスナー止
	下部アルミアングル止め	
	巾木: コンクリート打放し補修の上	防塵塗装立上
	床: コンクリートコテ押えの上	防塵塗装

図名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事	No. A-18
展開図(1)		
縮尺	S=1/100 (A3) S=1/50 (A1)	
課長	係長	設計
写図		
岡山市水道局配水部施設整備課		



次亜塩素酸注入機室

次亜塩素酸 注入機室 室内仕上	天井	：コンクリート打放し仕上（梁型共）
	壁	：コンクリート打放し仕上
	巾木	：コンクリート打放し精修の上 防塵塗装立上
	床	：コンクリートコテ押えの上 防塵塗装



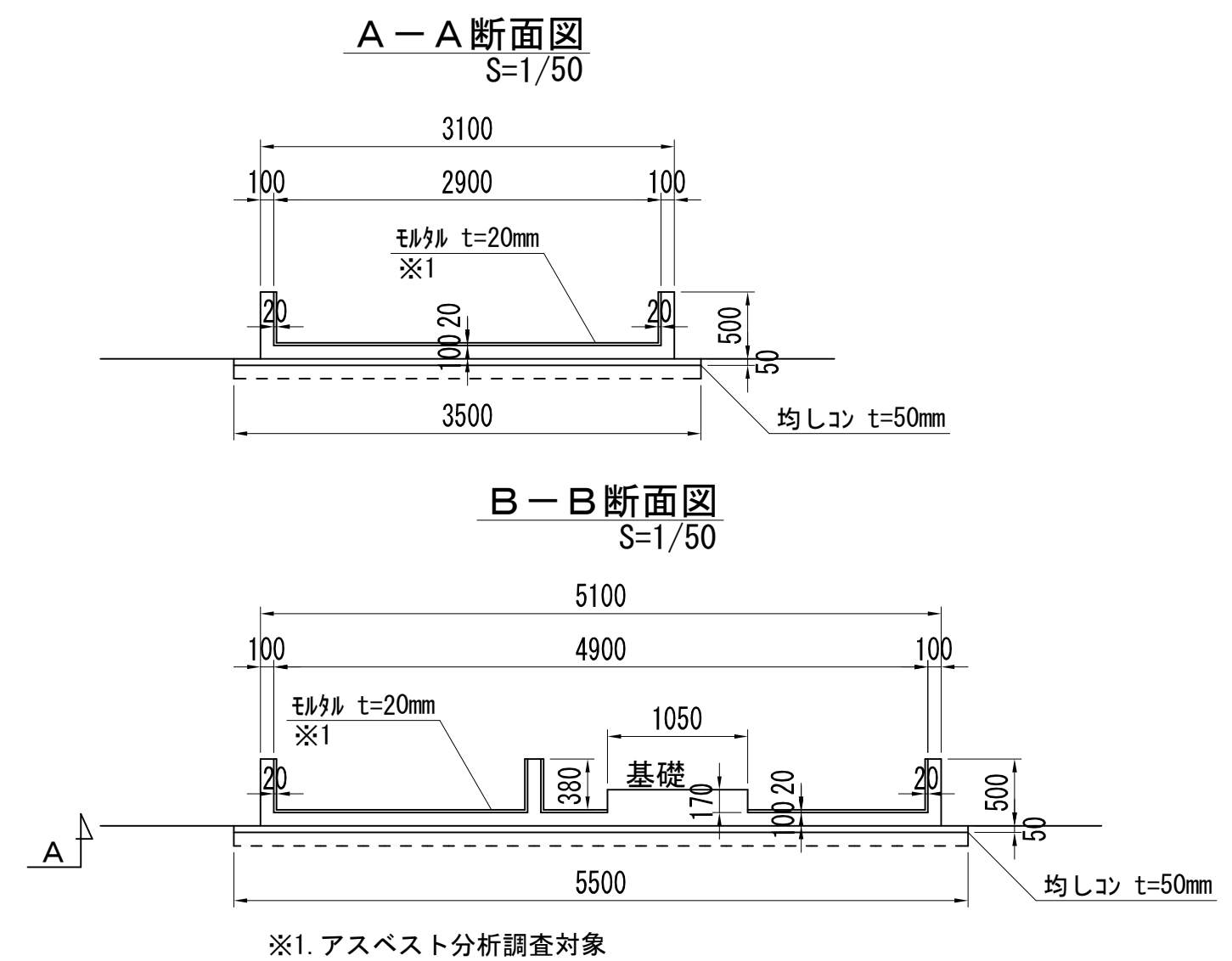
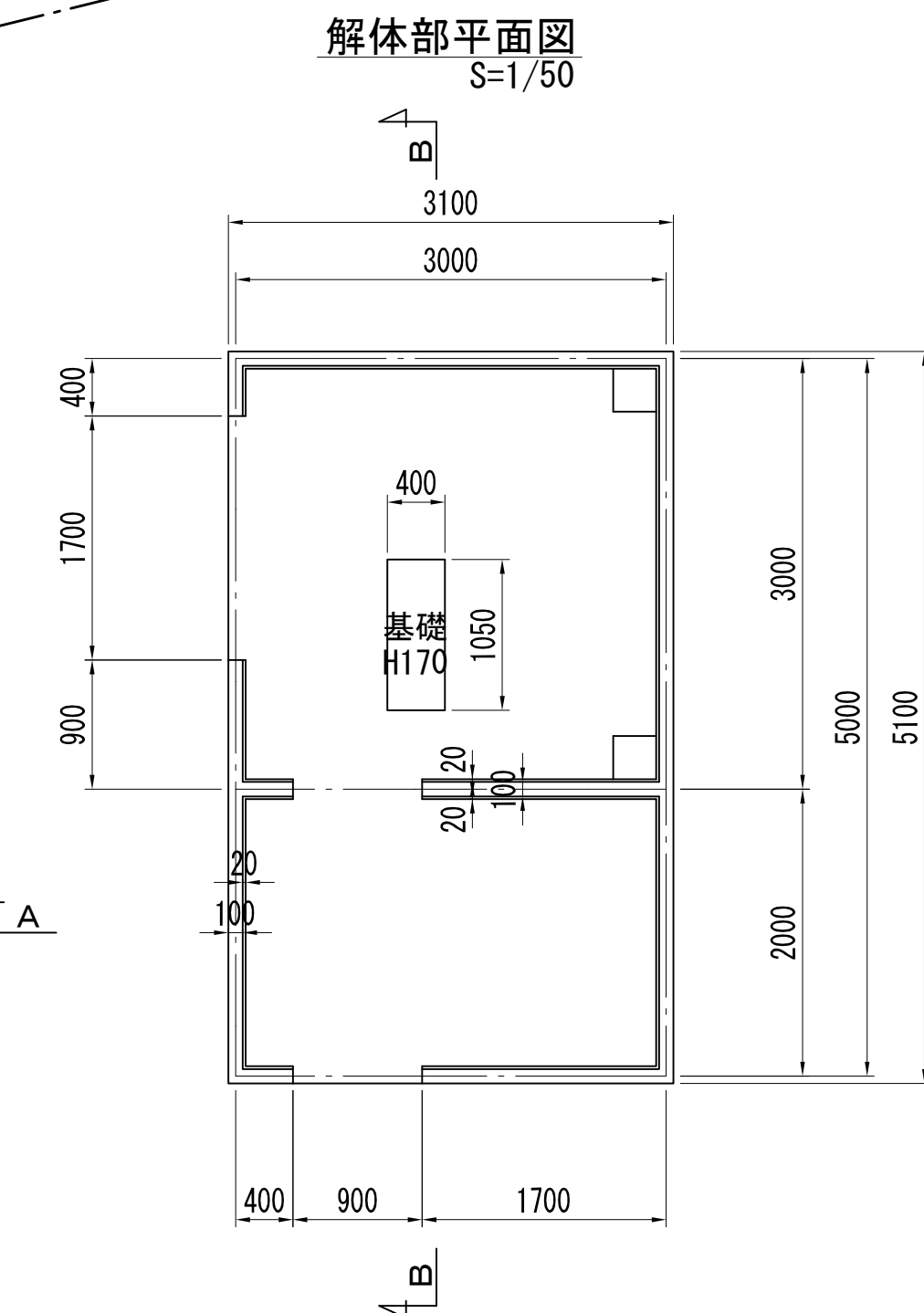
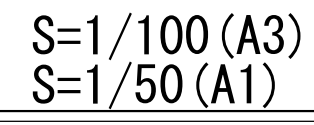


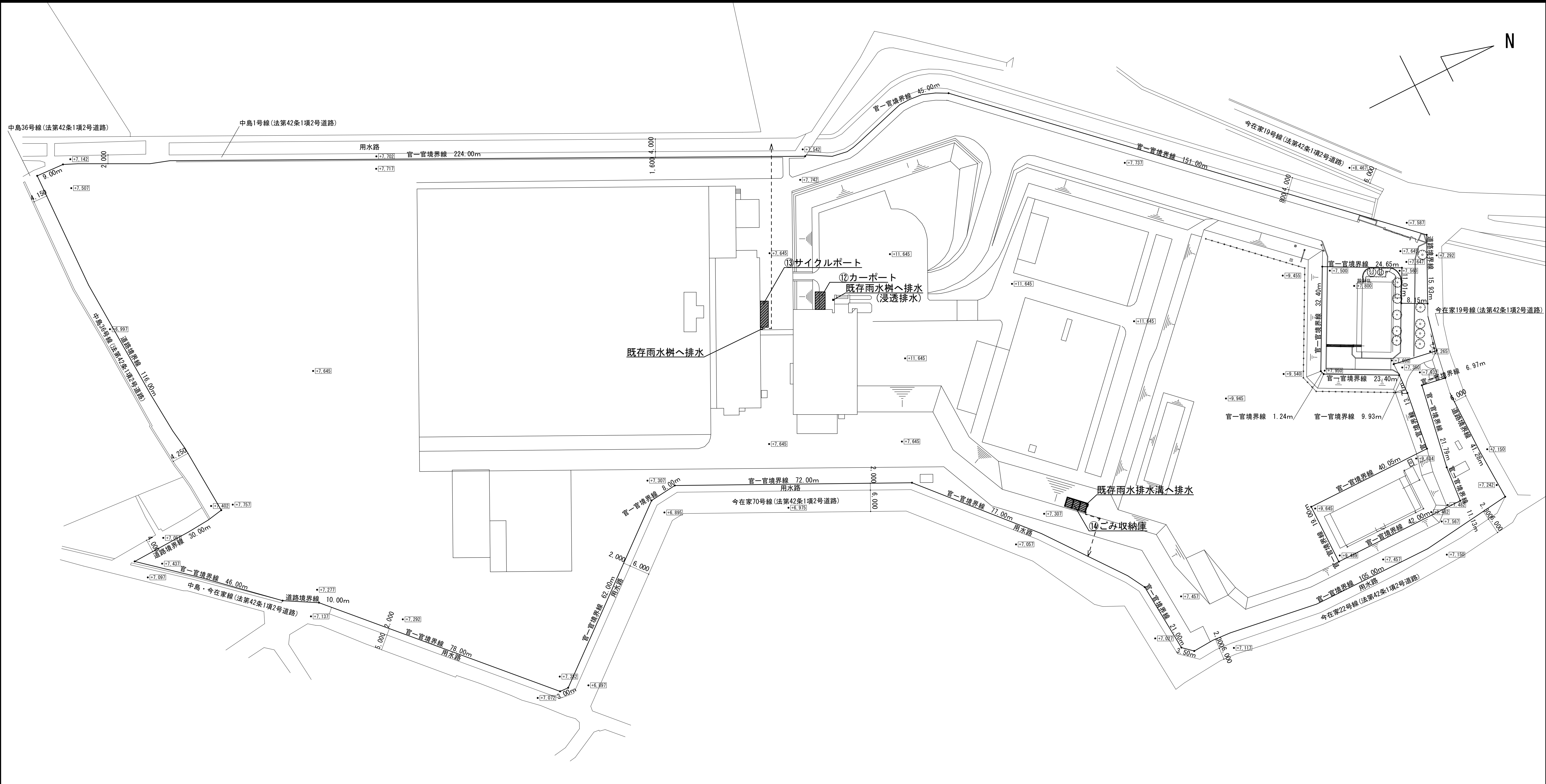
図 名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事				No. A-20	
	付帯構造図					
縮尺		S=1/100 (A3) S=1/50 (A1)				
	課長	係長		設計	写真	
岡山市水道局配水部施設整備課						











施設名称・構造	建築面積	延床面積	最高高さ	施設名称・構造	建築面積	延床面積	最高高さ
				⑫カーポート・軽量鉄骨造平屋建て	16.82㎡	16.82㎡	2.6849m
				⑬サイクルポート・軽量鉄骨造平屋建て	12.33㎡	12.33㎡	2.185m
				⑭ごみ収納庫・軽量鉄骨造平屋建て	3.99㎡×3基＝11.97㎡	3.99㎡×3基＝11.97㎡	2.186m

凡例

 : 今回工事対象を示す

図名

山浦浄水場発電機棟ほか建築工事

No. A-23

縮尺

1/600

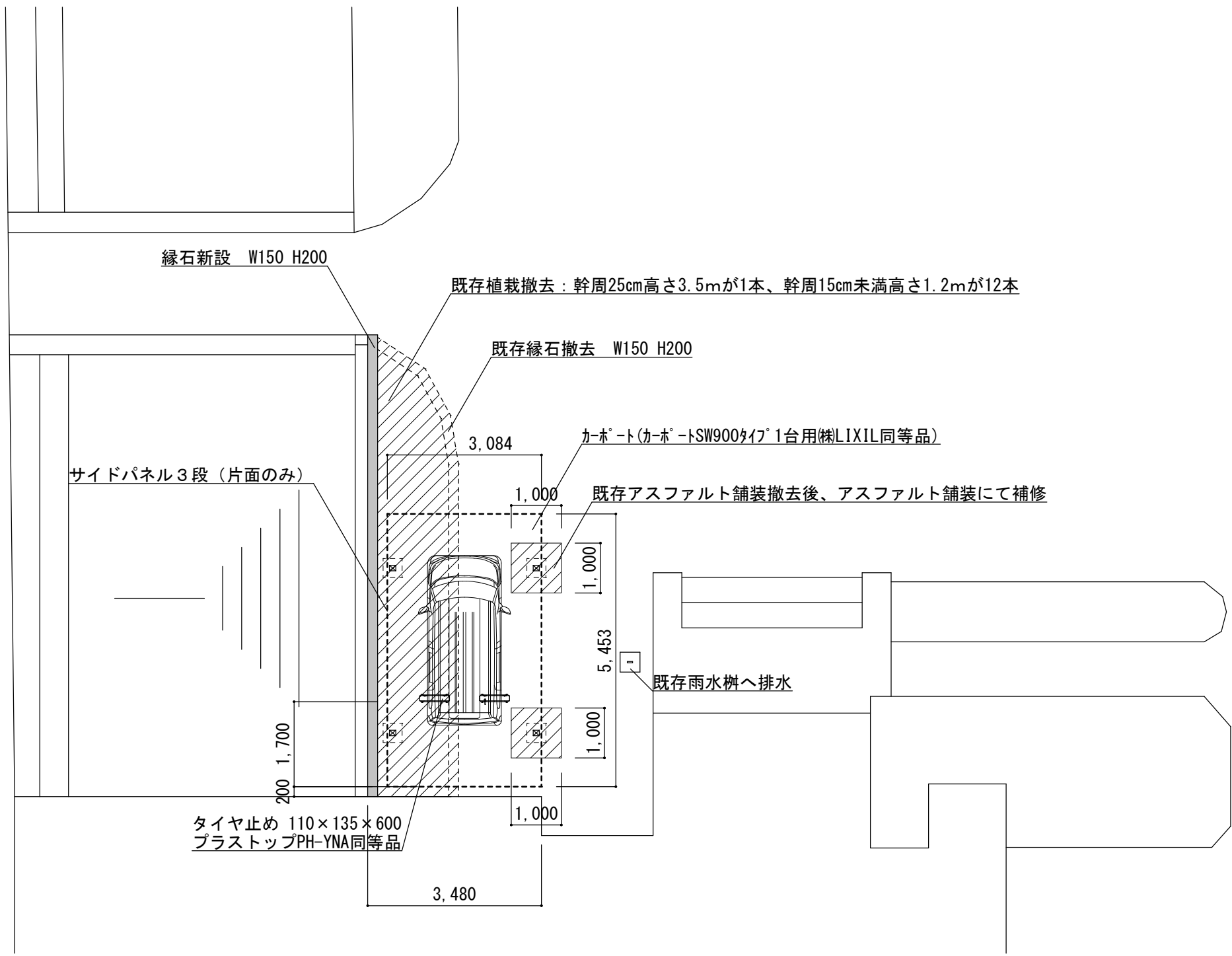
課長

係長

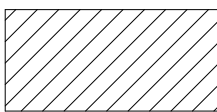
設計

写図

岡山市水道局配水部施設整備課

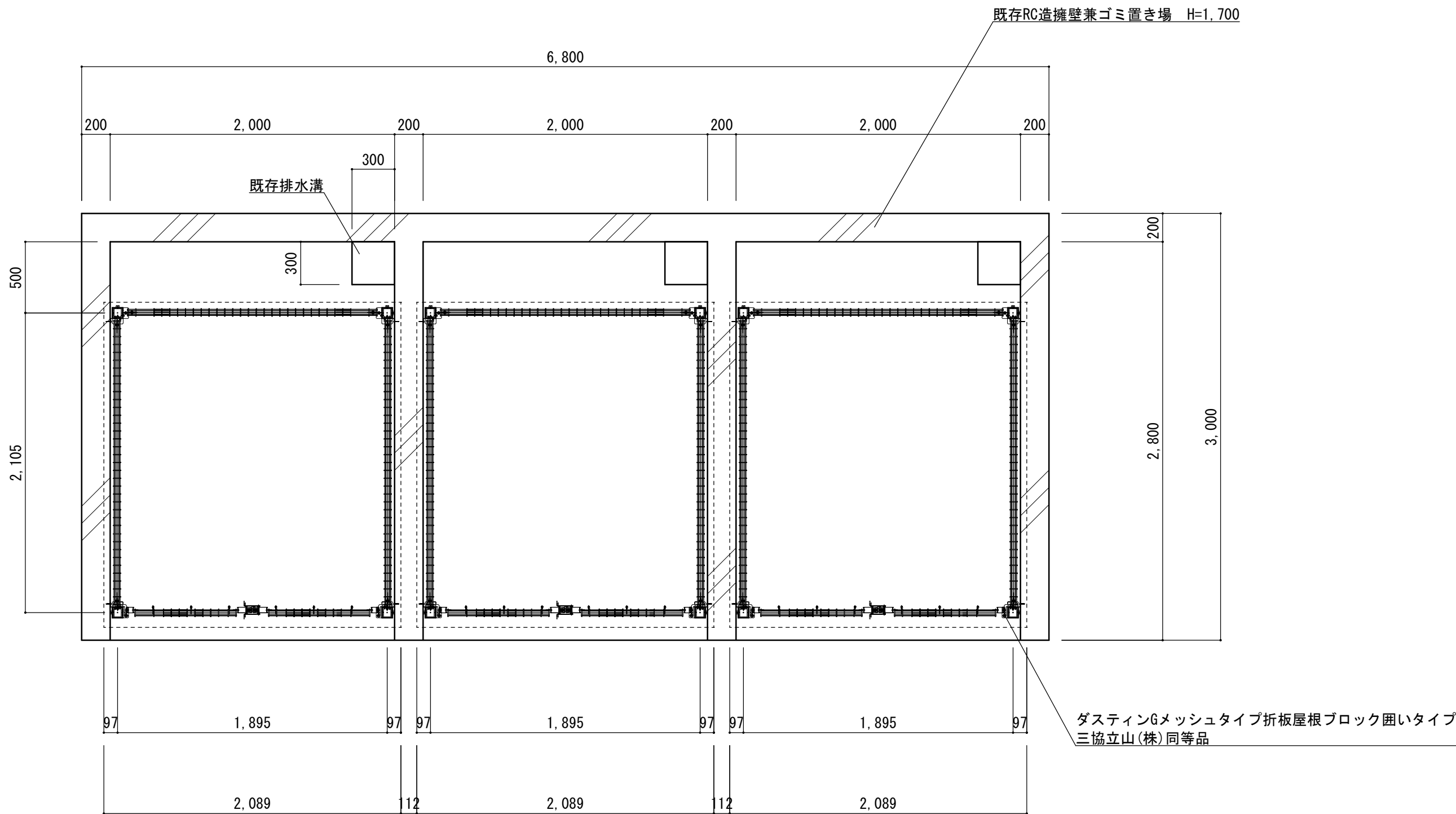


(凡例)

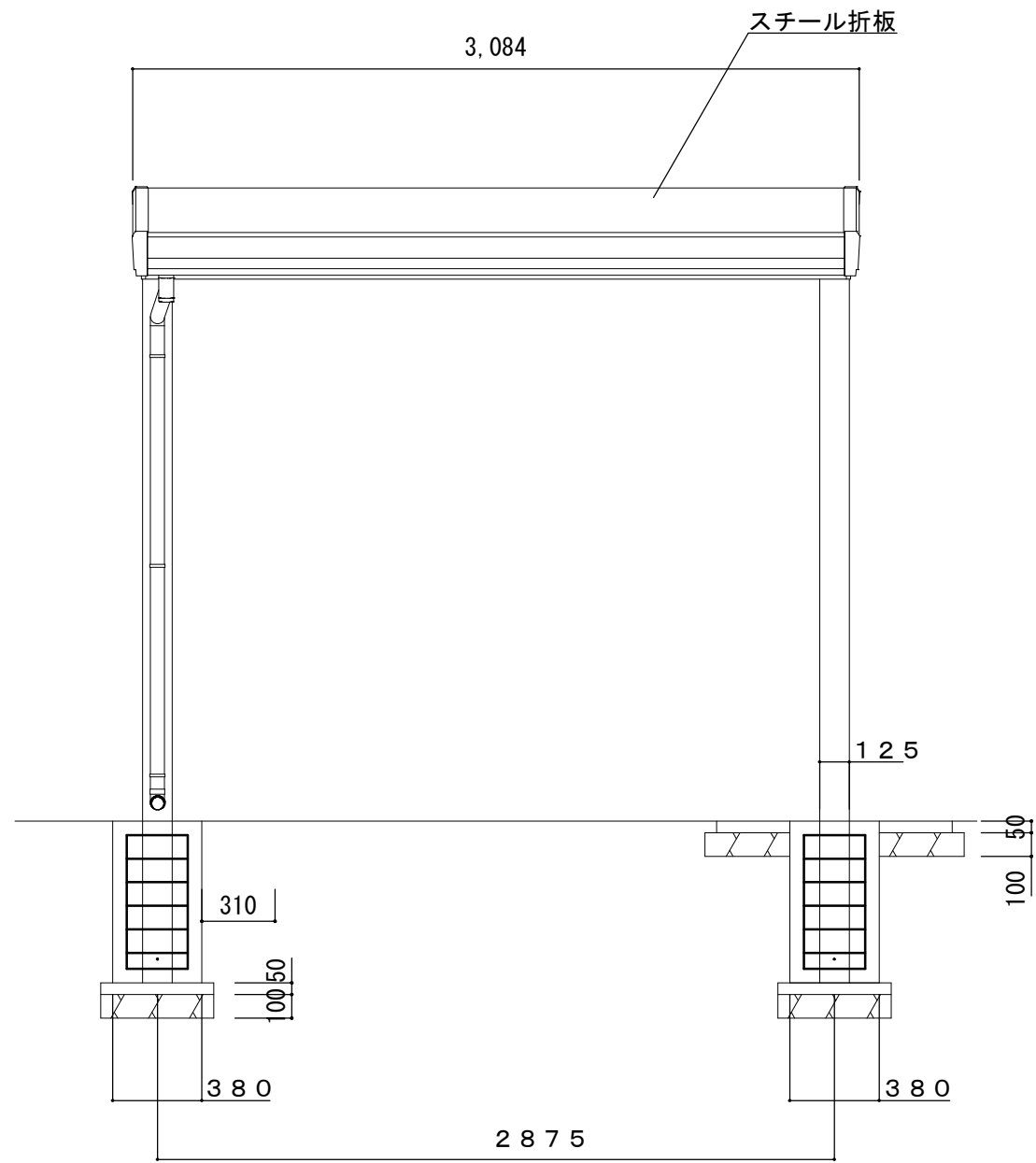


: アスファルト舗装範囲を示す

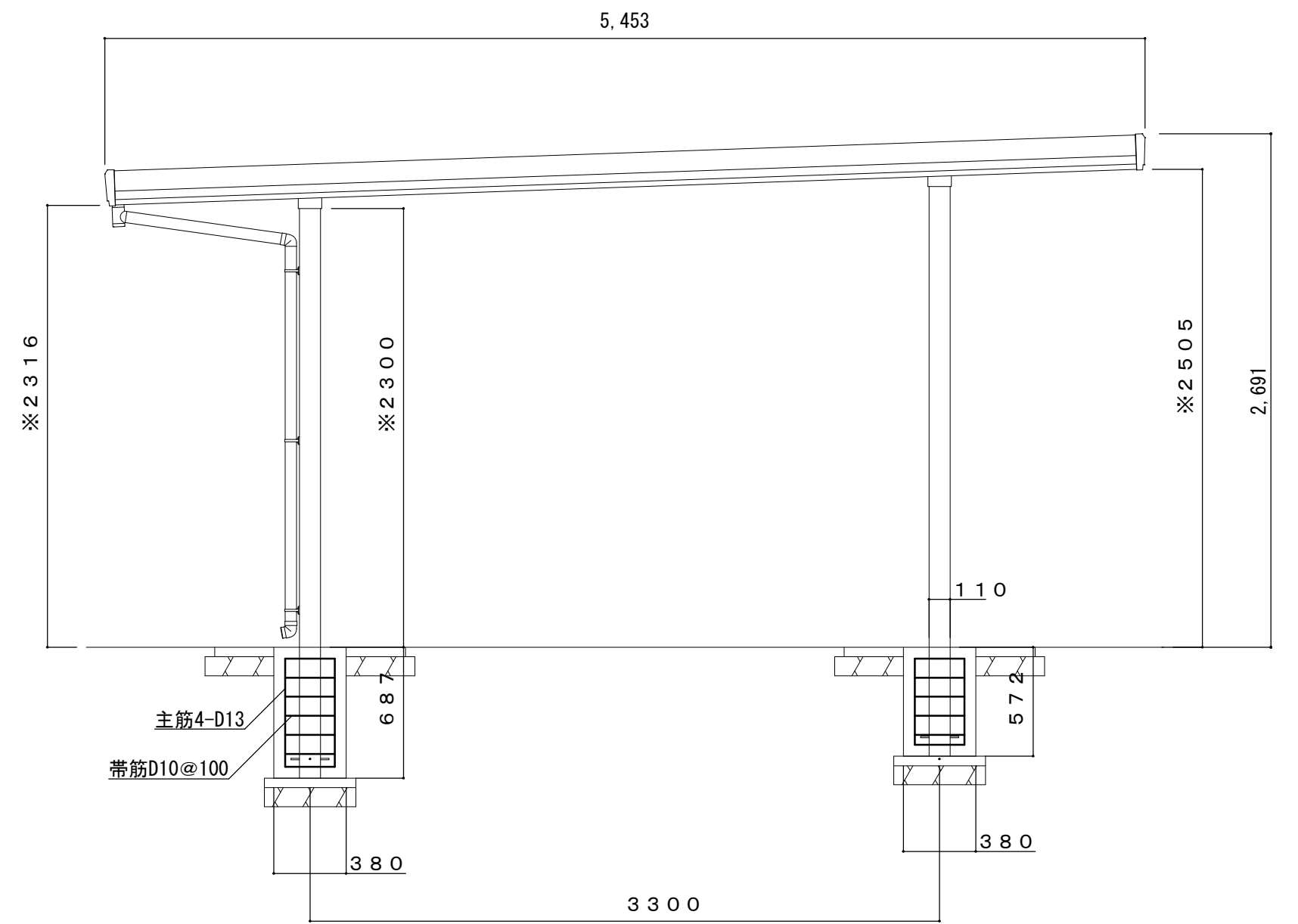
平面図 1/100



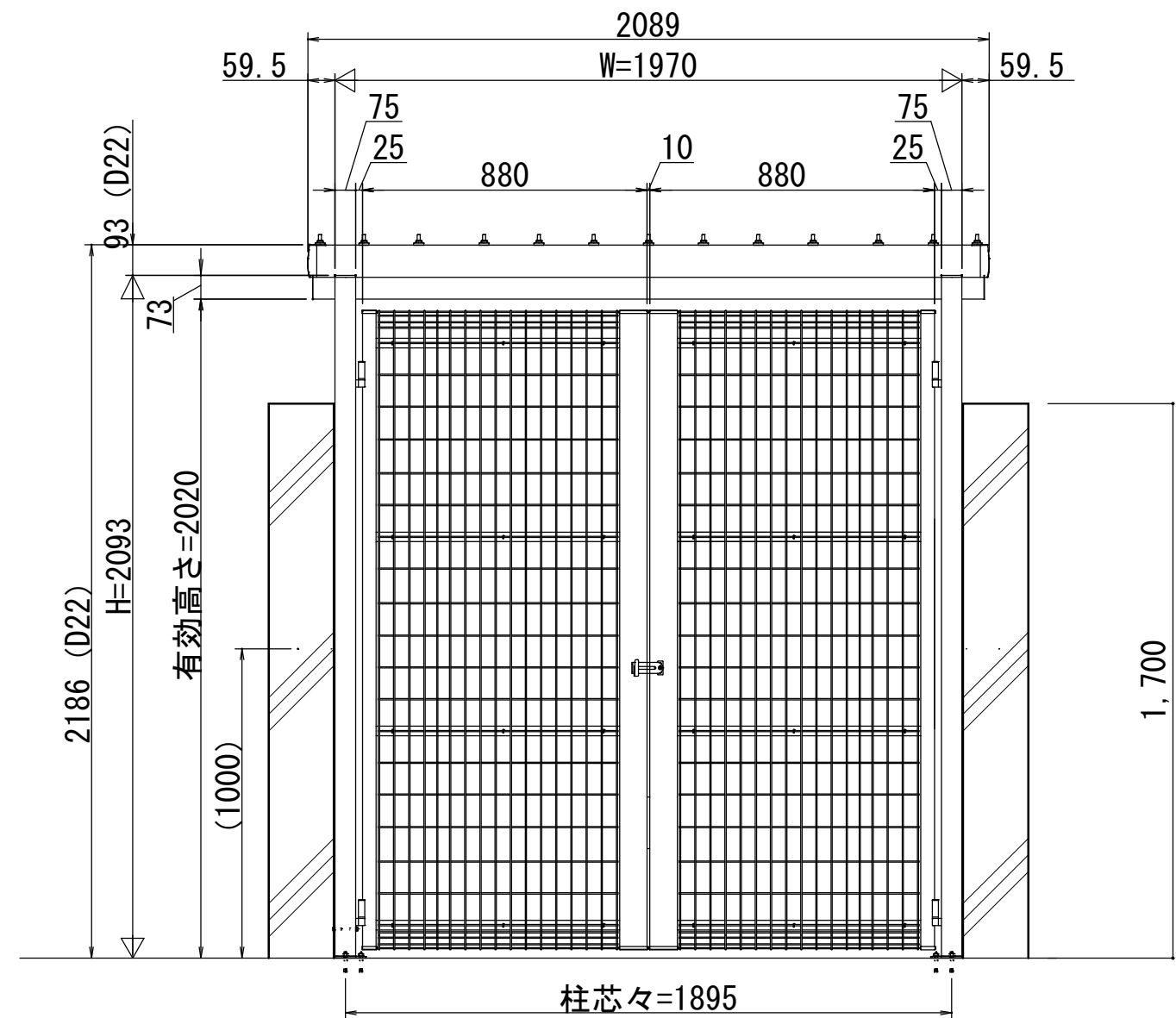
平面図 1/30



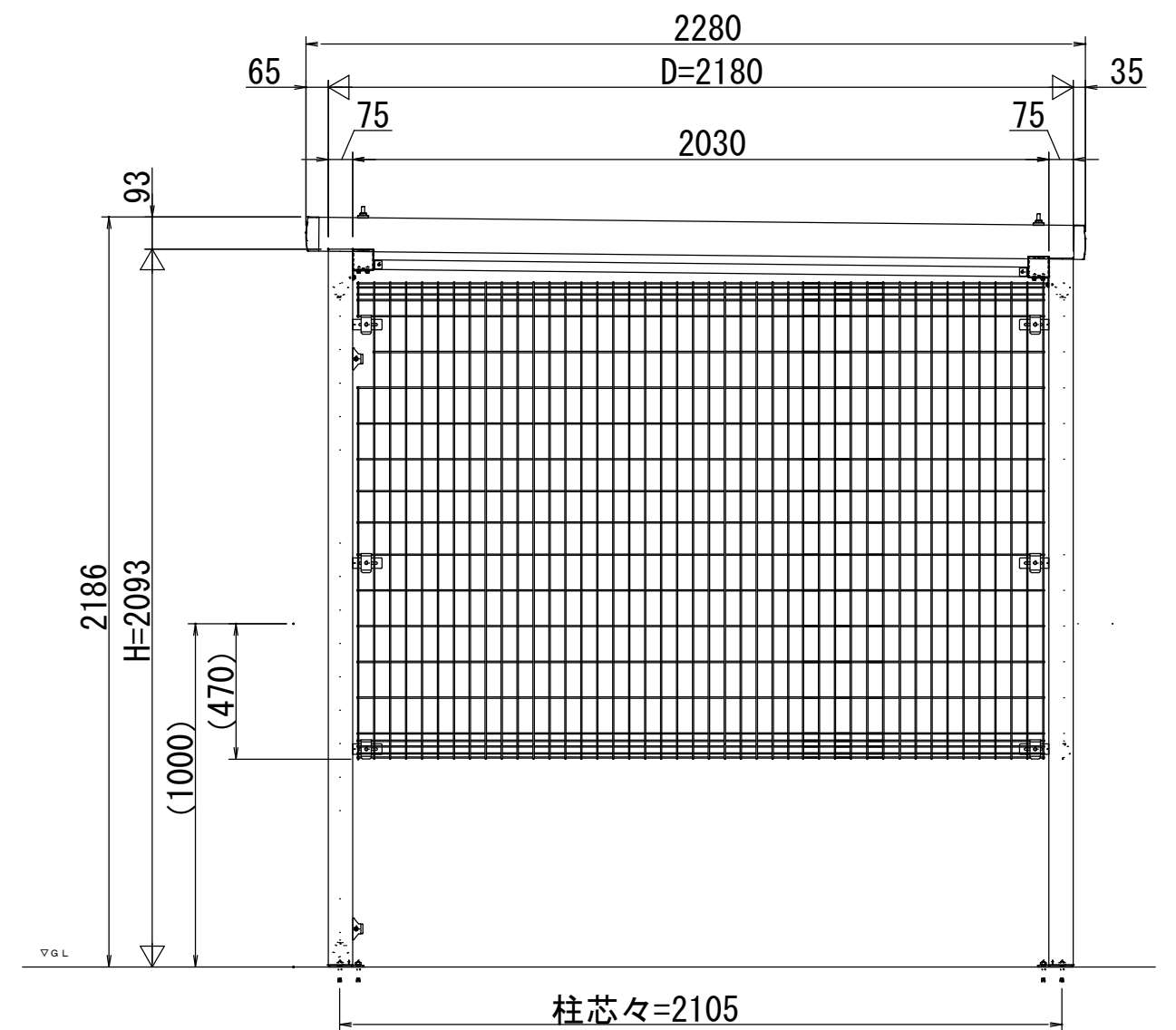
立面図① 1/30



立面図② 1/30



立面図① 1/20



立面図② 1/20

図名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事 No. A-24				
	【カーポート、ごみ収納庫】平面図、立面図				
	縮尺 1/100、30、20 (A1) 1/200、60、40 (A3)				
	課長		係長	設計	写図
岡山市水道局配水部施設整備課					

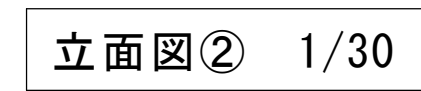
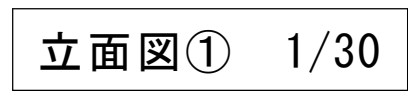


図 名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事				No. A-25	
	【サイクルポート】平面図、立面図					
	縮尺		1/30 (A1) 1/60 (A3)			
	課長		係長	設計		写図
岡山市水道局配水部施設整備課						



構造特記仕様書

§ 1 一般事項

選択項目は○ 印を適用し、● 印が無い場合は \* 印を適用する。  
○ 印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1 使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2 設計図書の優先順位は下記による。

1) 本特記仕様書

2) 設計図

3) 標準図

○鉄筋コンクリート構造配筋標準図

鉄骨工作標準図

鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

高強度せん断補強筋施工仕様書

鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

4) 仕様書

○公共建築協会

\*日本建築学会

5) 日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6 (最新版とする)

1-3 各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監理者の承諾を得る。

1-4 構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。  
第三者機関による検査・試験費用は工事費に (\*含む ●含まない)

1-5 設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監理者の承諾を得る。

1-6 梁貫通位置、径、及び箇所数は(○)意匠図 ● 構造図 ㊟設備図)による。

1-7 その他

§ 2 構造計算ルート

2-1

方 向

構造計算ルート

X

○ルート1 ●ルート2 ●ルート3 ●

Y

○ルート1 ●ルート2 ●ルート3 ●

2-2 鉄筋の継手  
構造計算ルート別による主筋又は、耐力壁の鉄筋の継手の重ね長さ  
○ 建築基準法施行令第73条第2項による仕様規定(以下令第73条の仕様規定)  
● 日本建築学会 JASS5 (2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説  
● 日本建築学会 RC規準2018  
XY両方向共ルート3及び限界耐力計算の場合は、令第73条の仕様規定によらずJASS5 (2018)、鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説及びRC規準2018とすることができる。

§ 3 仮設工事、土工事

3-1 山留め、根切り

3-2 埋戻し土、盛土、残土処分  
埋戻し土 ● 根切り土の中の良土 ● 搬入良土  
盛土 ● 根切り土の中の良土 ● 搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)  
残土処分 ● 場内地均し ● 場外搬出処分(\* 自由 ● 指定場所)

§ 4 地業工事

4-1 基礎及びスラブ下地業 (単位mm)

場 所

※(1)  
捨てコンクリート厚さ

A : 砕 石  
B : 割栗石

厚 さ

基 礎

独立・布

● 50 ● 60 ● 100

≡A ≧ B ≡

● 60 ● 100 ● 150 ●

ベ タ

● 50 ● 60 ● 100

≡A ≧ B ≡

● 60 ● 100 ● 150 ●

基 礎 梁

● 50 ● 60 ● 100

● A ● B

● 60 ● 100 ● 150 ●

土間スラブ

● 50 ● 60 ● 100

● A ● B

● 60 ● 100 ● 150 ●

土間コンクリート

屋内

● 50 ● 60 ● 100

● A ● B

● 60 ● 100 ● 150 ●

屋外

● 50 ● 60 ● 100

● A ● B

● 60 ● 100 ● 150 ●

注 (1)アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。  
(2)端部aは100以上とする。

a

基礎下部は捨てコンクリート+地盤改良とする。

4-2 設計地耐力 長期 350 kN/m<sup>2</sup> 短期 700 kN/m<sup>2</sup> 終局 kN/m<sup>2</sup>  
地耐力載荷試験 ● 行う ● 行わない

4-3 地盤改良 : 詳細は地盤改良特記仕様書による  
● 無筋コンクリート地業 ● 締固め工法 ● ソイルセメント杭  
● セメント系固化材攪拌 ● 圧密排水工法 ○ 深層混合処理工法  
[ ● 載荷試験 ● 一軸圧縮試験 ] ● 行う ( 箇所 ) ● 行わない  
[ ● 六価クロム溶出試験 ] ○ 行う ● 行わない

4-4 既製コンクリート杭、鋼管杭、その他特殊杭  
1) 杭種  
● PHC杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●  
● ST杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●  
● SC杭 t mm ● ● ● ●  
● PRC杭 ● I 種 ● II 種 ● III種 ● IV種  
● 節杭 ● A種 ● B種 ● C種 ●  
2) 工法  
● 打撃工法 ● 油圧ハンマー ● ディーゼルハンマー  
● 埋込み工法 ● ブレボーリングセメントミルク注入工法  
● ブレボーリング拡大根固め工法(認定工法)  
杭周固定液 ● あり ● なし  
● 中掘拡大根固め工法(認定工法)  
● 回転掘拡大根固め工法(認定工法)

3) 杭径、設計耐力、本数表

杭径(拡底部)mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )					
( )					
( )					
( )					

4) 杭の構成は設計図による。

5) 杭頭補強  
● かご筋 ● スタッド溶接 ● 杭外周溶接  
場所打鉄筋コンクリート杭、場所打鋼管コンクリート杭

4-5 1) 工法  
● アースドリル工法 ● 掘底アースドリル工法  
● リバース工法 ● オールケーシング工法 ( ● ペノト工法 ● )  
● BH工法 ●  
2) 杭径、設計耐力、本数表(拡底部は施工径を示す)

杭径(拡底部)mm	管厚 mm	長期kN	短期kN	終局kN	本数	備 考
( )						
( )						
( )						
( )						
( )						

3) 杭先端深さ ● GL- m ● 杭リストによる ● 杭伏図による

4) 孔壁測定 ( 2 方向 )  
● 行う ( ● 全数 ● % ) ● 行わない

5) 使用材料 コンクリートの仕様は設計図による。特記のない場合JASS5水中コンクリートによる。  
コンクリート Fc ( ● 普通ポルトランドセメント ● 高炉セメントB種 )  
鉄筋 ● D 以下 SD295A ● D 以上 SD345  
● D 以上 SD390  
鋼管(リブ付) ● SKK400 ● SKK490

4-6 杭打地業共通事項  
1) [ ● 試験杭 ● 試験掘 ] ● 行う ( 本 ) ● 行わない  
2) 載荷試験 ● 行う ( 箇所、長期設計耐力の3倍を確認する ) ● 行わない  
3) SL盛布 ● 行う ● 行わない

§ 5 鉄筋工事

5-1 材種

種 類	径	継 手
○SD295A	D16 以下	● 重ね継手 ● スパイラル ● 工場溶接
○SD345	D19 以上	● 重ね継手 ● ガス圧接 ● 溶接継手
● SD390	D 以上	● ガス圧接 ● 溶接継手 ● 機械継手( 級 )
● SD490	D 以上	● ガス圧接 ● 溶接継手 ● 機械継手( 級 )
● 溶接金網		● 重ね継手
● 高強度せん断補強筋	<div>● 1275級 P ● フック加工 ● スパイラル ● 工場溶接</div> <div>● 785級 K</div> <div>● 685級 U</div>	

5-2 ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)  
○ 抜き検査  
● 引張り試験 (JISZ3120)  
1 検査ロットにつき ● 3 本 ● 原則 柱・梁の径毎に3本  
○ 超音波探傷試験 (JISZ3062) ● 熱間押抜き試験  
1 検査ロットにつき ● 30 箇所 ●  
○ 不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。  
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3 溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。  
JIS Z 3063 (鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)  
JIS Z 3064 (鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4 梁貫通補強  
補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5 その他  
基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として ○ ①一般 ● ②地反力を受ける ● ③上載荷重が大きい場合 とする。  
梁の余長 $l_1$ の採用 大梁・小梁 \* D' (梁有効成) ● 端部上下筋15d 中央上下筋20d 基礎梁 \* min( D'、L<sub>2</sub> ) ● 端部上下筋15d 中央上下筋20d  
鉄筋の組立は適切な位置にスペーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。  
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。  
コンクリート打設前に工事監理者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§ 6 コンクリート工事

6-1 レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)

1) セメント ● 普通 $\text{ポルトランドセメント}$ JISR5210 ● 高炉 $\text{ポルトランドセメント}$ JISR5210 ●  
● 低熱 $\text{ポルトランドセメント}$ JISR5210 ●  
2) 粗骨材 ● 砂利 ● 碎石 ● 高炉 $\text{スラグ}$ 骨材 ● 人工軽量骨材 ● 再生骨材  
最大径(mm) ● 20 ● 25 ● 40  
3) 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup>) (使用区分は設計図の軸組図に示す)  
● 普通コンクリート  
● Fc18 ● Fc21 ○ Fc24 ● Fc27 ● Fc30 ● Fc ● Fc  
● 軽量コンクリート(\* 1種 ● 2種 気乾単位容積質量 \* 18.5 ● )  
● LFc18 ● LFc21 ● LFc24 ● LFc27 ● LFc30 ● LFc

4) 土間コンクリート ○ Fc21 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)

5) 捨てコンクリート ○ Fc18

6) 防水押さえコンクリート ○ Fc18 ● LFc (気乾単位容積質量 \* 18.5 ● )

7) かさ上げコンクリート ○ Fc18 ● LFc (気乾単位容積質量 \* 18.5 ● )

6-2 混和材 ○AE減水剤 ●高性能AE 減水剤 ● 躯体防水材 ● 膨張材  
注1. 混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。

6-3

箇 所	基礎、基礎梁	一 般	押え、土間コンクリート	備 考
スラブ	cm 15	15	15	
水セメント比 %	5 5 以下	5 5 以下	6 5 以下	60以下
単位水量 kg/m <sup>3</sup>	1 8 5 以下	1 8 5 以下	1 8 5 以下	185以下
単位セメント量 kg/m <sup>3</sup>	2 7 0 以上	2 7 0 以上	2 7 0 以上	270以上

※注1. スラブは特記なき限り施工者が決め監理者に報告する。

6-4 試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)  
1) 骨材 [ ● 塩分含有量 ○ アルカリシリカ反応性 ] ● 行う ● 行わない  
2) フレッシュコンクリート [ ○ スランプ ○ 空気量 ] ● 行う ● 行わない  
3) 躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ● 行う ● 行わない  
4) コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ● 行う ● 行わない  
5) マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) ● 行う ● 行わない  
6) 単位水量測定 ● 行う ○ 行わない

6-5 調査(補正値は工事費に含む)  
計画供用期間の級( )は耐久設計基準強度F<sub>d</sub>  
● 短期(18) ○ 標準(24) ● 長期(30) ● 超長期(36)  
調査管理強度 F<sub>m</sub>=Max (F<sub>c</sub>, F<sub>d</sub>) +S S=3~6  
材齢28日の調査強度Fは下記の両式を満足するものとする。  
F $\geq$ F<sub>m</sub>+1.73 $\sigma$  F $\geq$ 0.85F<sub>m</sub>+3 $\sigma$

6-6 せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁、柱、壁	スラブ下	梁 下
コンクリートの材齢による場合	<div>15℃以上 3 日</div> <div>5℃以上 5 日</div> <div>0℃以上 8 日</div>	<div>17 日</div> <div>25 日</div> <div>28 日</div>	<div>28 日</div>
圧縮試験による場合	5N/mm <sup>2</sup>	0.85Fcまたは12N/mm <sup>2</sup>	設計強度

6-7 住宅性能表示  
劣化等級 ● 等級2 ● 等級3  
劣化等級2又は3を指定する場合は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)2-7かぶり厚さが変わる為、かぶりを訂正又は、設計図に明示する

6-8 Fc36を超える高強度コンクリートは別記特記仕様書(JASS5等)による。

§ 7 鉄骨工事

7-1 材種及び使用箇所

規 格 名 称	鋼 材 名	柱	通 し 内	大梁	ブレス	小梁その他
一般構造用圧延鋼材	● SS400 ●					
溶接構造用圧延鋼材	● SM400A ● SM490A					
● SM400A ●						
建築構造用圧延鋼材	● SM400B ● SM490B					
● SM400C ● SM490C						
一般構造用角形鋼管	● STKR400 ● STKR490					
冷間成形角形鋼管	● BCR295 ●					
● BCP235 ● BCP325						
熱間成形角形鋼管	● SHC400B ● SHC400C					
● SHC490B ● SHC490C						
一般構造用炭素鋼管	● STK400 ● STK490					
● STKN400 ● STKN490						
一般構造用軽量形鋼	● SSC400 ●					
建築構造用圧延棒鋼	● SMR400					

7-2 高力ボルト

高 力 ボ ル ト の 種 類	使用 箇 所
トルシア形高力ボルト	● S10T 全般
JIS形高力ボルト	● F10T トルシア形が使用できない部分
溶融亜鉛メッキ高力ボルト	● F8T 母材が亜鉛メッキされている部分
超高力ボルト	● S14T 屋内環境

7-3 普通ボルト、アンカーボルト  
1) 材質 ● SS400 ● SS490 ( M 以上 )  
● ABR400 ● ABR490 ● ABM400 ● ABM490 (ABMはM24以上)  
2) 大臣認定柱脚(メーカー仕様による) ● 使用する ● 使用しない

7-4 頭付スタッド

径	長 さ(mm)	使用 箇 所
16 $\phi$	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
19 $\phi$	● 80 ● 100 ● 120 ● 150 ●	
22 $\phi$	● 100 ● 120 ● 150 ● ●	

7-5 溶接材料  
1) アーク溶接に使用する溶接棒、ワイヤ及びフラックスは母材の種類、寸法、及び溶接条件に相応したものを選定する。  
2) ガスシールドアーク溶接に使用するシールドガスは溶接に相応したものとする。

7-6 スカラップ形状 ● スカラップ工法 ● ノンスカラップ工法

7-7 継手

	柱	梁
フランジ	● 高力ボルト ○ 現場溶接	● 高力ボルト ● 現場溶接
ウェブ	● 高力ボルト ○ 現場溶接	● 高力ボルト ● 現場溶接

7-8 溶接手法及び管理  
1) 使用する溶接ワイヤー、入熱量及びバース間温度等の仕様については鉄建協又は全構協の仕様で、専任の溶接施工管理技術者により管理を行うこと。  
2) 本工事で代替タブを使用する場合は、代替タブ溶接技能者技量検定付加試験を ● 行う ● 行わない  
3) AW検定(工場・現場・代替タブ)の有資格者で、工事監理者の承諾を受けた者は技量検定付加試験を免除する。

7-9 デッキプレート (単位 mm)  
1) 床用 高さ ● 板厚 ●  
2) 合成スラブ用 高さ ● 板厚 ●  
3) 墊材用 高さ ● 板厚 ● 形版 タイプ  
4) 防蟻処理 ● プライマー ● 亜鉛メッキ ● Z12 ● Z27

7-10 塗装(工場塗 \* 2回 ● 1回、現場タッチアップ程度とする)  
1) 素地調整 ● ケレン ● プラスト  
2) 下塗り用塗料

適用	塗 料	種 別	標準膜厚
屋外	室内		
●	● 鉛、クロムフリー錆び止め	JISK5674	* 1種 * 2種 30 $\mu$ m
●	● 水系さび止めペイント	JASS18 M-111	30 $\mu$ m
●	● 変性エポキシ樹脂プライマー	JASS18 M-109	* 1種 ● 2種 40 $\mu$ m
●	● 有機ジノクチンプライマー	JISK5552	● 2種 15 $\mu$ m
●	● 構造物用さび止めペイント	JISK5551	A種 30 $\mu$ m

3) 溶融亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない  
4) 常溫亜鉛メッキ ● 行う ● 行わない  
5) 高耐食メッキ鋼板 (t3.2mm以下) ● 用いる ● 用いない

7-11 溶接部の検査(受入検査) ● 行う ● 行わない  
1) 受入検査を行う第三者検査機関は、建築主、設計者、工事監理者又は工事施工者(元請)との直接契約による。  
2) 第三者検査機関は(社)日本溶接協会によるC17検査事業者認定種別における超音波探傷検査部門の認定を取得した事業者とし、当該工事の鉄骨製作工場の社内検査を行っていない事業者とする。  
3) 受入検査は目視による外観検査と超音波探傷検査とし、社内検査完了後に行う。  
4) 外観検査の合否判定は国土交通省告示1464号による。ただし告示に定めのないものは日本建築学会「JASS6 鉄骨工事 2018 付則6. 鉄骨精度検査基準」の限界許差による。  
5) 超音波探傷検査は日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査規準・同解説」2018により、合否判定は7.2.1疲労を考慮しない溶接部のうち、引張応力が作用する溶接部の項を適用する。  
6) 溶接箇所数の数え方は「JASS6 鉄骨工事 2018」表10.1溶接箇所数の数え方による。  
7) 受入検査の抜き取り方法及び抜き取り率は以下による。  
a) 工場溶接の場合  
i. 検査ロットは各節、各工区毎に溶接箇所300箇所以内で構成する。  
ii. 抜き取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。  
iii. 大きさ20個のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30個のサンプルを抜き検査する。総計60個のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。  
b) 現場溶接の場合  
i. 全数検査とする。  
ii. 抜き取り数は各ロット毎に30箇所をランダムにサンプリングする。  
iii. 大きさ20個のサンプル中の不適合個数が1個以下のときはロットを合格とし、4個以上のときはロットを不合格とする。ただし、サンプル中の不適合数が1個を超え4個未満のときは、同じロットからさらに30個のサンプルを抜き検査する。総計60個のサンプルについての不適合個数の合計が4個以下のときはロットを合格とし、5個以上のときはロットを不合格とする。  
8) 検査により不合格と判定された溶接部はすべて補修を行い、再検査して合格とならねばならない。  
9) すれ・食い違いの補修方法は、独立行政法人 建築研究所監修「突き合せ継手の食い違い仕口のすれの検査・補強マニュアル」による。

7-12 鉄骨製作工場 下記○印のグレード認定工場の内、納期・製作能力・鉄骨数量を勘案して工場選択のこと

国土交通省大臣認定(グレード)					
S	H	M	R	J	

令第129条の2の3の事項 ※設計が該当する場合には、□にチェックを記入する。  
● 建築物に設ける建築設備にあっては、構造耐力上安全なものとして、以下の構造方法による。  
☑建築設備(昇降機を除く。)、建築設備の支持構造部及び緊結金物は、腐食又は腐朽のおそれのないものとする。こと。  
□屋上から突出する水櫃、煙突、冷却塔その他これらに類するもの(以下「屋上水櫃等」)は、支持構造部又は建築物の耐力上主要な部分に、支持構造部は建築物の構造耐力上主要な部分に緊結すること。  
□煙突の屋上突出部の高さは、れんが造、石造、コンクリートブロック造又は無筋コンクリート造の場合は鉄製の支枠を設けたものを除き、90cm以下とすること。  
□煙突で屋内にある部分は、鉄筋に対するコンクリートのかぶり厚さを5cm以上とした鉄筋コンクリート造又は厚さが25cm以上の無筋コンクリート造、れんが造、石造若しくはコンクリートブロック造とすること。  
☑建築物に設ける給水、排水その他の配管設備(給湯設備※を除く)は、  
☑風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。  
☑建築物の部分貫通して配管する場合においては、当該貫通部分に配管スリーブを設ける等有効な管の損傷防止のための措置を講ずること。  
☑管の伸縮その他の変形により当該管に損傷が生ずるおそれがある場合において、伸縮継手又は可換継手を設ける等有効な損傷防止のための措置を講ずること。  
☑管を支持し、又は固定する場合においては、つり金物又は防振ゴムを用いる等有効な地震その他の震動及び衝撃の緩和のための措置を講ずること。  
□法第20条第一号から第三号までの建築物に設ける屋上水櫃等にあつては、平成12年建設省告示第1389号により、風圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して構造耐力上安全なものとする。こと。  
□給湯設備※は、風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。満水時の質量が15kgを超える給湯設備については、地震に対して安全上支障のない構造として、平成12年建設省告示第1388号第5に規定する構造方法によること。  
※「給湯設備」：建築物に設ける電気給湯器その他の給湯設備で、屋上水櫃等のうち給湯設備に該当するものを除いたもの

図 山浦浄水場発電機棟ほか建築工事 No. B-1

名 構造特記仕様書

縮尺 S=NON

課長

係長

設計

写図

岡山市水道局配水部施設整備課

(販売元) 一般社団法人日本建築構造設計事務所協会連合会

http://fasa-net.jp

(発行元) 一般社団法人関西建築構造設計事務所協会

TEL (06) 6763-8205 FAX (06) 6763-8206

http://www.kse-web.com/

1-1	<div data-bbox="246 212 638 218" style="text-align: center;">§ 1 一般事項</div>
基本事項	
1-2 その他	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 使用材料、工法等は構造特記仕様書による。</li> <li>2. 設計図書に記載なき場合は本標準図に準ずるものとする。 また本標準図に明記なき場合は構造特記仕様書 1-2-4 に指定した共通仕様書及び日本建築学会「JASS5(2018)」及び「鉄筋コンクリート造筋筋指針・同解説」による。</li> <li>3. 本標準図は異形鉄筋を対象とし、dは呼び名に用いた数値とする。</li> <li>4. 本標準図に示す単位は特記なき限りすべてmmとする。</li> </ol>

2-1  
鉄筋の  
表示記号

鉄筋の表示記号及び最大径は下表による。

記号	○	×	●	◇	◎	⊕	⊗	⊙			
呼び径 d	D10	D12	D16	D22	D25	D28	D32	D35	D38	D41	
最大径 D	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46

○ フックのない場合  
○ フックのある場合  
○ 本鉄に底がある場合  
○ 機械式継手表示  
○ ガス圧接、溶接継手表示

多い 少ない

折曲げ 角度	図	鉄筋の使用 箇所による呼称	鉄筋の 標準の 寸法	鉄筋の 径による 区分	鉄筋の折 曲げ内法 寸法 (d)
180°		柱・梁主筋 基礎主筋	SD295	D16以下	3d以上
135°		梁筋 おびら筋 スライラ筋	SD345	D19～ D41	4d以上
90°		スラブ筋 配筋	SD390	D41以下	5d以上
			SD490	D25以下	5d以上
				D29～ D41	6d以上

族株の 種類	コンクリ の設計量	重荷重車の 長さ		定着の長さ			
		一 般		小梁・風スラブ		上端筋	下端筋
		上層筋 L <sub>1</sub> 下層筋 L <sub>2</sub>	上層筋 L <sub>1</sub> 下層筋 L <sub>2</sub>	上層筋 L <sub>1</sub> 下層筋 L <sub>2</sub>	上層筋 L <sub>1</sub> 下層筋 L <sub>2</sub>		
SD295 SD345 (注)はSD345 を示す	18	45d(50d) 35d	40d 30d, 20d	15d (20d)	上筋筋 L <sub>1</sub> 下筋筋 L <sub>2</sub>	上筋筋 L <sub>1</sub> 下筋筋 L <sub>2</sub>	
	21	40d(45d) 30d	35d 20d, 15(20)d				
	24~27	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d), 15(20)d				
	30~36	35d 25d	30d 20d, 15d				
	39~45	30d(35d) 20d(25d)	25d(30d) 15d(20d), 15d				
	48~60	30d 20d	25d 15d, 15d				
SD390 (SD400) (注)は適用外	21	50d(-) 35d(-)	40d(-) 30d(-), 20d(-)	20d (-)	上筋筋 L <sub>1</sub> 下筋筋 L <sub>2</sub>	上筋筋 L <sub>1</sub> 下筋筋 L <sub>2</sub>	
	24~27	45d(55d) 35d(45d)	40d(45d) 30d(35d), 20(25)d				
	30~36	40d(50d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 20(25)d				
	39~45	40d(45d) 30d(35d)	35d(40d) 25d(30d), 15(20)d				
	48~60	35d(40d) 25d(30d)	30d(35d) 20d(25d), 15(20)d				

Figure 1 illustrates four examples of reinforcement bar connection methods:

- (a) 直継定着 (Straight bar connection): A bar of length  $L_d$  is shown.
- (b) 90°フック付き定着 (90° hooked bar connection): A bar with a 90° hook. Dimensions include  $L_a$ ,  $L_b$  (採用寸法  $L$ ),  $L_h$ , and  $L_d$  (6d以上).
- (c) 135°フック付き定着 (135° hooked bar connection): A bar with a 135° hook. Dimensions include  $L_h$  and  $L_d$  (6d以上).
- (d) 180°フック付き定着 (180° hooked bar connection): A bar with a 180° hook. Dimensions include  $L_h$  and  $L_d$  (4d以上).

- 2 - 5  
鉄筋のフック

2-6  
鉄筋のあき

2-7  
かぶり厚さ

### 3 - 1 主筋の継手

1. ( ) 内の数値は最小かぶり厚さを示す。
2. 仕上げあり とは、鉄筋の耐久性上有効な仕上げのある場合とする。
3. ※1 品質・施工法におじ、工事監理者の承認で10%の値とすることが  
できる。
4. ※2 軽量コンクリートの場合は、これに10加算する。
5. 柱・梁の主筋のかぶり厚さは主筋径の1.5倍以上とする。

設計圧压、溶接、機械式継手

重ね継手

約0.5L

※D

※最下階柱間には柱径D以上。

3-3  
帶筋  
副帶筋

3 - 4  
補助筋

- パネルソーの帯鋸は設計図によるが、明記なき場合は下記による。ただし、帯鋸量 (mm) は 0.25 以上とする。
- ※ 1. 設計ビットの 1.5 倍以上とする。□ 彫以上の場合は同径鋼材貫で  
□ 彫 60 以下とする。
- ※ 2. 草履梁部分は、厚径で □ 彫 50 以下とする。
- スパイラル鋸の末端処理及び鎌手は下記のとおりとする。
1. 末端は 1.5 巻以上の巻きをし、図 A のフックをつける。
  2. 鎌手は重ね長 504 以上とし、図 A と図 B のフックをつける。

- 図 a**
- 
- 図 b**
- 
- c**: 片面溶接の場合  
10d 以上  
両面溶接の場合  
5d 以上  
ただし D16 以下

- 
- Figure 1 consists of four diagrams labeled (a) through (d).  
 (a) 135°フック: A rectangular cross-section with width  $b$  and height  $d$ . It shows a 135° hook reinforcement at the bottom corner. The angle of the hook is labeled as  $\angle 50d$  以上. Dimensions  $b$  and  $d$  are indicated.  
 (b) 90°フック: A rectangular cross-section with width  $b$  and height  $d$ . It shows a 90° hook reinforcement at the bottom corner. The angle of the hook is labeled as  $\angle 50d$  以上. Dimensions  $b$  and  $d$  are indicated.  
 (c) 135°フック: A circular cross-section with diameter  $\phi$ . It shows a 135° hook reinforcement. The angle of the hook is labeled as  $\angle 50d$  以上. The diameter  $\phi$  is indicated.  
 (d) 90°フック: A circular cross-section with diameter  $\phi$ . It shows a 90° hook reinforcement. The angle of the hook is labeled as  $\angle 50d$  以上. The diameter  $\phi$  is indicated.

- Figure 1 illustrates three examples of reinforcement layout for a rectangular section. (a) Top reinforcement: shows a rectangular section with top reinforcement bars. Labels include '4d 以上' (4d or more) for the top bar length, '1d 以上' (1d or more) for the lap length, and '巾止筋' (stop bar). (b) Bottom reinforcement: shows a rectangular section with bottom reinforcement bars. Labels include '4d 以上' (4d or more) for the bottom bar length, '1d 以上' (1d or more) for the lap length, and '巾止筋' (stop bar). (c) Lap reinforcement: shows a rectangular section with lap reinforcement bars. Labels include '4d 以上' (4d or more) for the lap length, '1d 以上' (1d or more) for the lap length, and '巾止筋' (stop bar).

- 4-1  
主筋の継手

## 外柱

中 柱

4 - 3  
あばら筋  
副あばら筋

- 
- a スパイラル帯筋 860~75 (有効間隔 50 程度)  
 b 密接閉鎖型帯筋 860~75 (有効間隔 50 程度)

図 14-10 梁の設計図

○ 印内に継手中心部を設けることを原則とする。(告示平 12 第 1463 号  
 使用基準参照) 溶接継手の場合でも柱面より 500 以上はなすこと、  
 ○ 足形形状を下記以外とする場合は設計図書による。

- ④ 1/4 以上 ⑤ 1/4 以上 ⑥ 1/4 以上 ⑦ 1/4 以上 ⑧ 1/4 以上 ⑨ 1/4 以上 ⑩ 1/4 以上 ⑪ 1/4 以上 ⑫ 1/4 以上 ⑬ 1/4 以上 ⑭ 1/4 以上 ⑮ 1/4 以上 ⑯ 1/4 以上 ⑰ 1/4 以上 ⑱ 1/4 以上 ⑲ 1/4 以上 ⑳ 1/4 以上 ㉑ 1/4 以上 ㉒ 1/4 以上 ㉓ 1/4 以上 ㉔ 1/4 以上 ㉕ 1/4 以上 ㉖ 1/4 以上 ㉗ 1/4 以上 ㉘ 1/4 以上 ㉙ 1/4 以上 ㉚ 1/4 以上 ㉛ 1/4 以上 ㉜ 1/4 以上 ㉝ 1/4 以上 ㉞ 1/4 以上 ㉟ 1/4 以上 ㊱ 1/4 以上 ㊲ 1/4 以上 ㊳ 1/4 以上 ㊴ 1/4 以上 ㊵ 1/4 以上 ㊶ 1/4 以上 ㊷ 1/4 以上 ㊸ 1/4 以上 ㊹ 1/4 以上 ㊺ 1/4 以上 ㊻ 1/4 以上 ㊼ 1/4 以上 ㊽ 1/4 以上 ㊾ 1/4 以上 ㊿ 1/4 以上

## L:

- 
- 3/4径以上かつLa  $\phi_1$ 以上
- 最上端  $a_1/a_2 \leq 1/6$
- 筋筋は上筋柱から全長し
- $\phi_1$ 以上  $a_1/a_2 > 1/6$
- $\phi_2/4$   $\phi_2$ 以上
- 3/4径以上かつLa
- 外柱の下端筋は上向きの方が望ましい。
- 3/4径以上かつLa
- 一 筋 筋
- ※ 余長 $\phi_1$ は構造特記仕様書「D」項によるが、設計図に記載があれば、設計図を優先する。

- 梁主筋は原則として通し筋とするが、拘束筋をあら筋と同径同ピッチで落とし込む。

- 断面が異なる場合

2 置き

(水平に定置してもよい)

$a/D \leq 1/6$

$a/D > 1/6$

- 第一あばら筋
- 支 30
- 縦筋
- 設計ピッチ以下
- ※ ねじれ応力を受ける縦筋は定着長きとする。
- 第一あばら筋は柱裏に入れその間を設計ピッチ以下に密に付ける。
- あばら筋の加工は下図(1)又は(8)による。
- ②③⑤⑥⑧は両新引込みのスラブ付の場合に要する。
- (9)⑩は梁成の大きい場合。
- (11)はピッチ2dで交互配置とする。
- 135°フックは180°フックでも可とする。
- ⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿

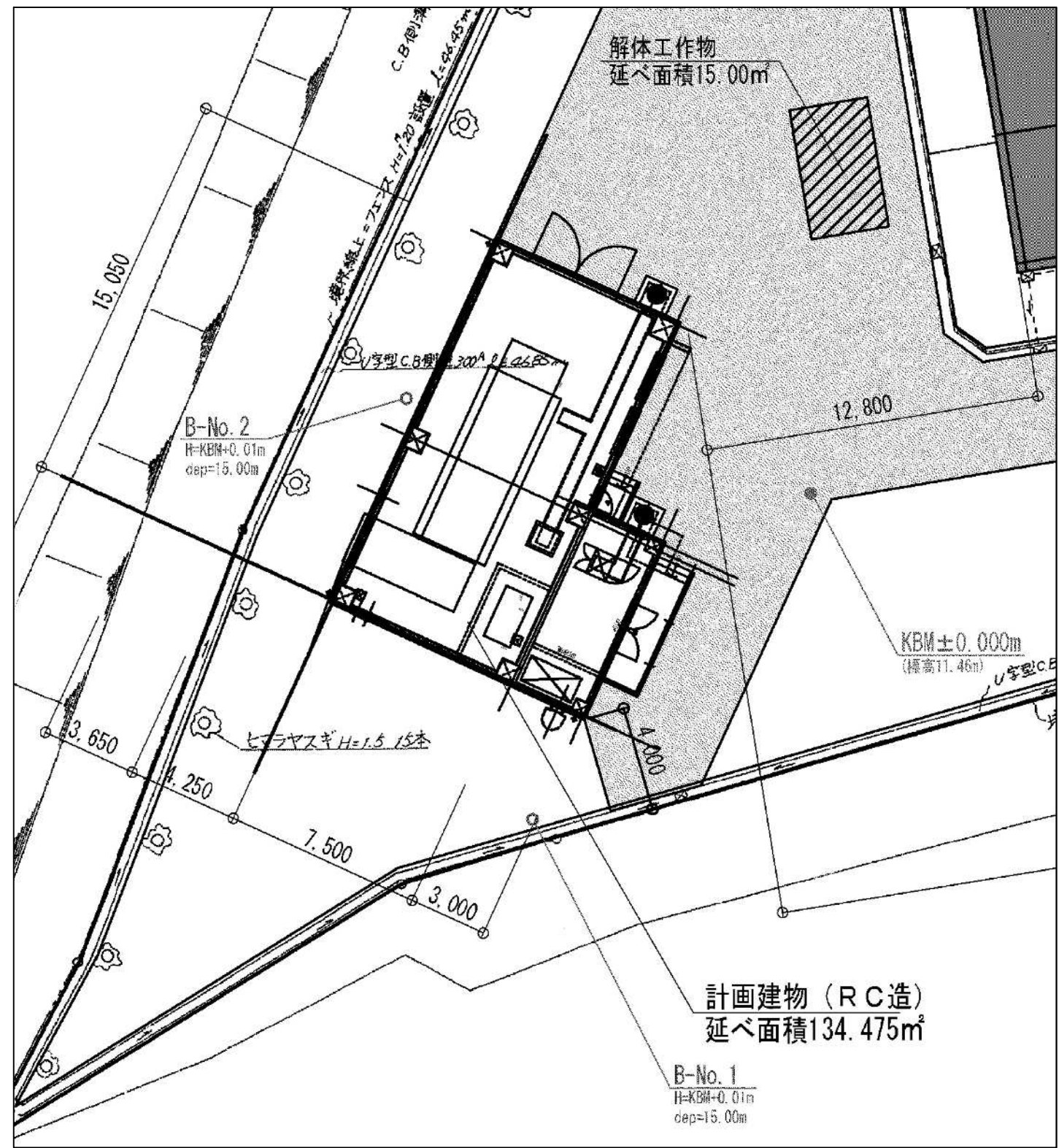
- ①はピッチ 2p で交互配置とする。
- 135° フックは 180° フックでも可とする。

- 
- ⑩は、溶接溶接または重ね溶接のどちらからとする。
- ※ 柱置きり完成の範囲は、180° フック又は 135° フックが望ましい。









調 査 名 山 浦 浄 水 場 ほ か 地 質 調 査 業 務 委 託

[illegible]

事業・工事名

シート No

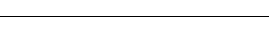
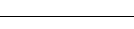

ボーリング名	B-No. 1		調査位置		岡山県岡山市中区祇園地内外 山浦浄水場内					北緯 34° 42' 16.97"	
発注機関	岡山市水道局				調査期間	2023年 7月 3日 ~ 2023年 7月 5日				東経 133° 57' 15.66"	
調査業者名	株式会社 日本都市工務設計 電話 ( 086-230-7011 )		主任技師	永井 宏昌	現代場人 理 人	永井 宏昌	鑑定者	永井 宏昌	ボーリング 責任者	仲田 大祐	
孔口標高	KBM +0.01m	角 180° 上 下 90° 0°	方 北 270° 西 180° 東 90° 南	地盤勾配 鉛直 水平 0° 90°	使用機種	東邦地下製 D1-C型		ハンマー 落下用具	半自動落下型		
総掘進長	15.00m	度	向	エンジン	ヤンマー製 NFD-12型		ポンプ	東邦地下製 BG3型			

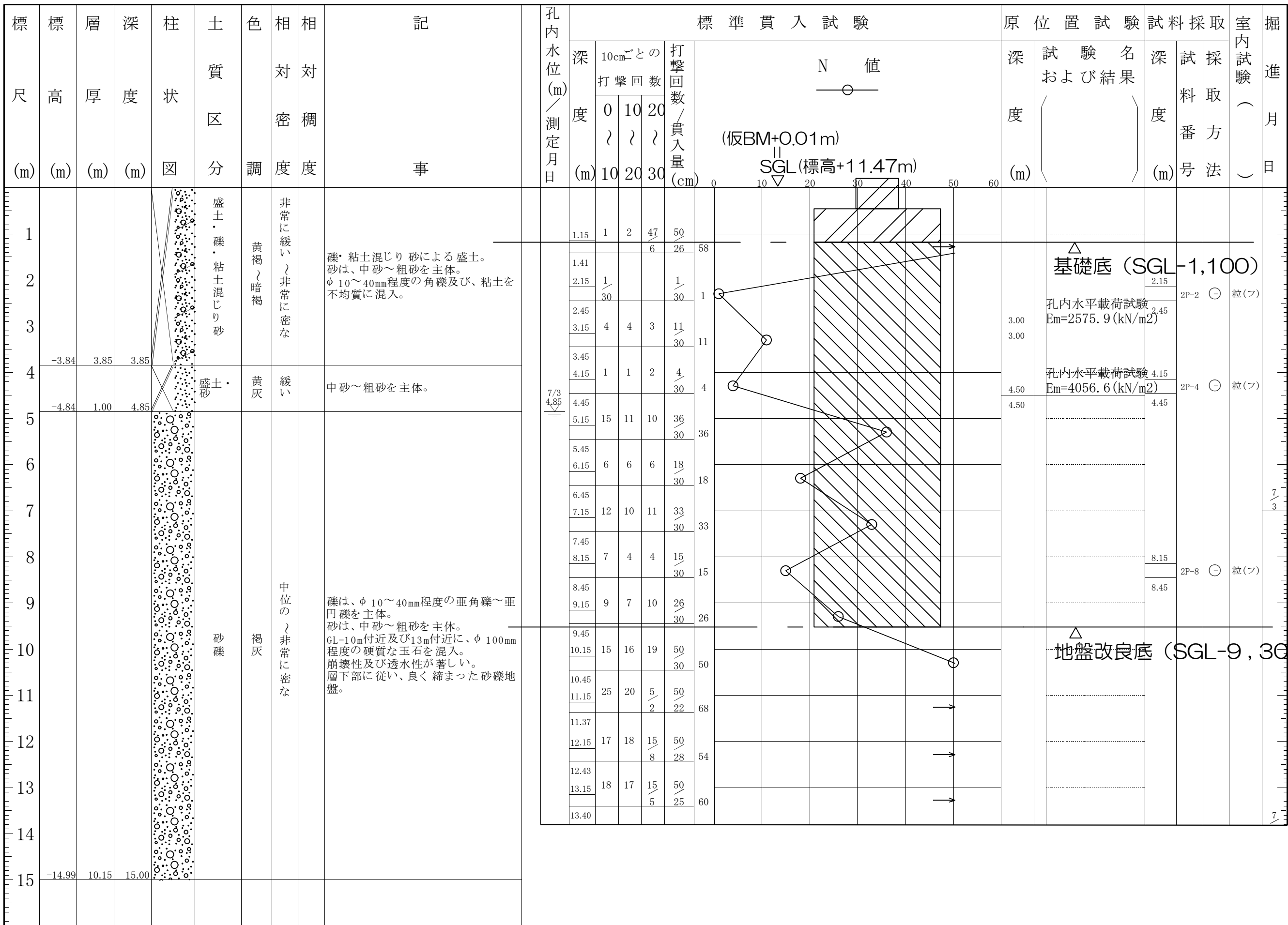
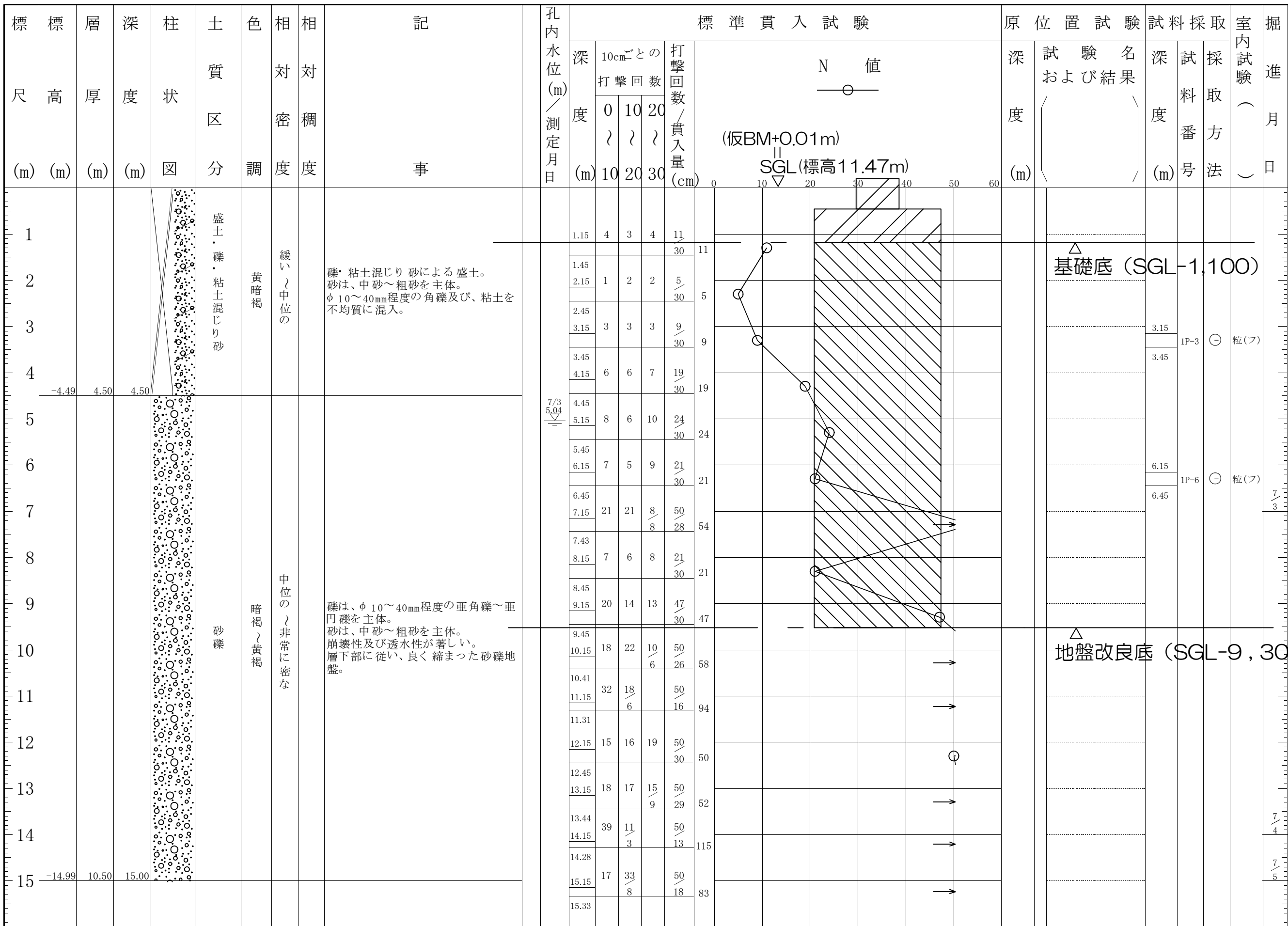
調 査 名 山 浦 浄 水 場 ほ か 地 質 調 査 業 務 委 託

[illegible]

事業・工事名

シート No

ボーリング名	B-No. 2		調査位置		岡山県岡山市中区祇園地内外 山浦浄水場内					北緯 34° 42' 17.44"						
発注機関	岡山市水道局				調査期間		2023年 7月 3日 ~ 2023年 7月 6日			東経 133° 57' 15.72"						
調査業者名	株式会社 日本都市工務設計 電話 (086-230-7011)		主任技師		永井 宏昌		現代人場 代理人		永井 宏昌 鑑定者		永井 宏昌 ボーリング 責任者		坂口 昌士			
孔口標高	KBM +0.01m	角			地盤勾配				使用機種		東邦地下製 D1-C型		ハンマー 落下用具		半自動落下型	
総掘進長	15.00m	度			エンジン		ヤンマー製 NFD-12型		ポンプ		東邦地下製 BG3型					



改良長 8.20m

図 名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事					M B-4	
	土質柱状図						
	縮尺 S=NON						
	課長		係長		設計	写図	
岡山市水道局配水部施設整備課							

# 地盤改良特記仕様書

## 1. 工事概要

本地業は、スラリー状のセメント系固材（以下、固材液と称す）を地盤に注入しながら、共回り防止翼を装着した攪拌装置を用いて、原地盤土と機械的に攪拌混合し、固材の固材反応により所要の強度を持つ改良柱体（以下、コラムと称す）を築造するものである。

## 2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか「2018年版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針」（日本建築センター）（ペタリービング）および「建築工事標準仕様書・同解説 JASS4 杭・地業および基礎工事」（日本建築学会）による。

### 3. 特記事項

- (1) コラムの径、掘削深度（設計コラム長＋空掘長）、本数配置等は設計図書による。ただし、コラムの径・長さ・本数・位置及び固化材液の配合等について土質や地盤状況により変更した方が適切だと判断される場合は、監督員の承認の下に変更することができる。
- (2) コラムの設計基準強度は  $F_c = 1600 \text{ kN/m}^2$  ( $1.6 \text{ N/mm}^2$ ) とする。
- (3) 設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理および品質検査を実施する。
- (4) 本工事工法は、技術審査証明取得工法とする。又、事前にその証明書を監理者に提出し、承認を得ることとする。

#### 4. 施工計画

- (1) 施工計画書
- 工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書は、次の事項を明記する。

- |   |  |   |                     |
|---|--|---|---------------------|
| ① | 工事件名及び工事場所   | ⑥ | 施工機器                |
| ② | コラム仕様及び数量<br>〔コラム径・掘削深度（設計コラム長＋空掘長）・本数<br>・設計基準強度〕 | ⑦ | 固化材配合条件             |
| ③ | 工事期間及び工程   | ⑧ | 施工管理（立会い、管理項目、施工記録） |
| ④ | 工事の組織（建築請負業者の本工事責任者、コラム施工業者名<br>及び責任者、各種作業の主たる従事者） | ⑨ | 品質検査                |
| ⑤ | 施工手順   | ⑩ | 安全衛生対策              |
|   |  | ⑪ | 地盤概要（土質柱状図）         |
|   |  | ⑫ | コラム伏図               |
|   |  | ⑬ | 技術審査証明書（写）          |

## 5. 施工

- (1) 作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないよう養生する。
- (2) 基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が出現した場合は、別途検討する。
  - a. 攪拌混合装置をコラム心に合わせる。
  - b. 固化材液を吐出せずに、空掘り部を所定の深度まで掘進する。
  - c. 固化材液を吐出しながら掘進・攪拌混合する。
  - d. 注入掘進工程が終了したら、固化材液の吐出を停止し先端部の練り返しを行う。
  - e. 先端練り返し工程が終了したら、攪拌軸を逆回転引上げ攪拌混合する。
- (3) 設計図書に示された支持地盤に着底する長さを実施コラム長という。
- (4) 本工事により排出される発生残土は場内処分とする。

## 6. 施工機械

- (1) 共回り現象を防止する機構を有し、固化材と原位置土を確実に攪拌混合できる攪拌装置を用いること。
- (2) 所定の施工管理項目を計測、記録できる管理装置を用いること。
- (3) 改良機本体は本工事の施工仕様を満足させる施工制御機器を装備したもので、自走式とする。
- (4) ミキシングプラントは、所定吐出量を十分供給できるものとする。

## 7. 配合管理

- (1) 固化材液に使用する材料は、セメント又はセメント系固化材とする。
- (2) 配合強度  
変動係数を25%と想定し、9項に規定する抜き取り箇所数N、合格確率 80%とした下表を用いて設定する。

N	1	2	3	4~6	7~8	9
$\alpha$	2.163	1.918	1.815	1.719	1.651	1.594

$$X_f = \alpha \times F_c \quad [\alpha : \text{割り増し係数、} X_f : \text{配合強度}]$$

- (3) 室内配合試験
- 固化材液の配合（W／C）と使用量（添加量）は、室内配合試験の結果に基づいて、現場室内強度比を考慮して、配合強度を満足するように決定する。あるいは正確に土質を把握し、かつその土質に対する既存データがある場合は、その結果を用いて添加量を決定する。

## 8. 施工管理

- (1) 施工の安定性を確保するため下記に示す項目について施工管理する。
- |         |          |                           |
|---------|----------|---------------------------|
| ① 形状・寸法 | 鉛直性      | 改良機本体のリーダー内に設置された傾斜計で管理する |
|         | コラム心     | 事前にコラム心にマークを設ける           |
|         | 掘削深度     | 深度計で計測し記録する               |
|         | コラム径     | 攪拌装置の形状・寸法を記録する           |
| ② 固化材   | 材料計量     | 水、固化材の重量                  |
|         | 固化材液の密度  | マッドバランス等                  |
|         | 固化材液の添加量 | スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する    |
| ③ 攪拌混合度 | 攪拌混合回数   | スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する    |
| ④ 支持地盤  | 仕事量      | スーパーシステムにて施工管理を行い、記録する    |
- (着底判定仕事量は、試験コラムの施工状況により、監督員と協議して決定する)
- (2) コラムの芯ズレ
- コラムの芯ズレが許容値を超えた場合は、監督員（監理者）と協議し、設計検討により応力照査を行った上、安全であると判断した場合、設計図書で示された仕様を満足しているものとする。
- (3) 施工の立会い
- 建築工事の請負者は、本地業責任者（請負業者の中から選定）及び施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

## 9. 品質検査

- (1) 検査対象群、検査対象層及び調査箇所数
- ① 検査対象群は概ねコラム300本を1単位とする。土層毎に検査対象層を決めるが、最小層厚を0.5mとする。
- ② 検査対象層は 盛土、砂礫、          であり、設計対象層を盛土とする。  
ただし、設計対象層以外の平均強度が設計対象層の平均強度より小さい場合は、  
最も小さい平均強度の層を設計対象層とする。
- ③ 調査箇所数
- 頭部コア 100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所  
深度コア 100コラムを1単位とし、1単位毎に1ヶ所
- (2) コア採取率による調査
- コアボーリング調査の内、検査対象群に1ヶ所の割合でコア採取率を調査する。  
コア採取率が、全長に対して粘性土で90%、砂質土で95%以上、深さ1m毎に粘性土85%以上、砂質土で90%以上あることを確認する。
- (3) 可否の判定
- ① 設計対象層についての抜取箇所数をNとする。1ヶ所あたりは3個の供試体を採取し、その平均強度をその箇所の強度とする。
- ② 一軸圧縮試験は公的機関あるいは検査員立会いの下に行うものとする。
- ③ 検査手法は品質のバラツキを想定する場合の検査手法Aによる。
- ④ 検査手法Aによる品質検査
- 可否の判定は検査対象層におけるNヶ所（抜取箇所数）の一軸圧縮試験結果が下式を満足すれば合格とする。

$$XN \geq XL = Fc + ka \cdot \sigma$$

$XN$  :  $N$ ヶ所の一軸圧縮強度の平均値 (N/mm<sup>2</sup> , kN/m<sup>2</sup> )  
 $XL$  : 合格判定値 (N/mm<sup>2</sup> , kN/m<sup>2</sup> )  
 $Fc$  : 設計基準強度 (N/mm<sup>2</sup> , kN/m<sup>2</sup> )  
 $ka$  : 合格判定係数  
 $\sigma$  : 標準偏差 (N/mm<sup>2</sup> , kN/m<sup>2</sup> )                      =  $v \cdot \overline{q}_{ud}$                       (  $v$  : 変動係数、品質確認書により想定する  
 $\overline{q}_{ud}$  : 想定した平均一軸圧縮強さ (N/mm<sup>2</sup> , kN/m<sup>2</sup> ) )

抜き取りヶ所数N	1	2	3	4~6	7~8	9
合格判定係数 ka	1.9	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3

## 10. 報告

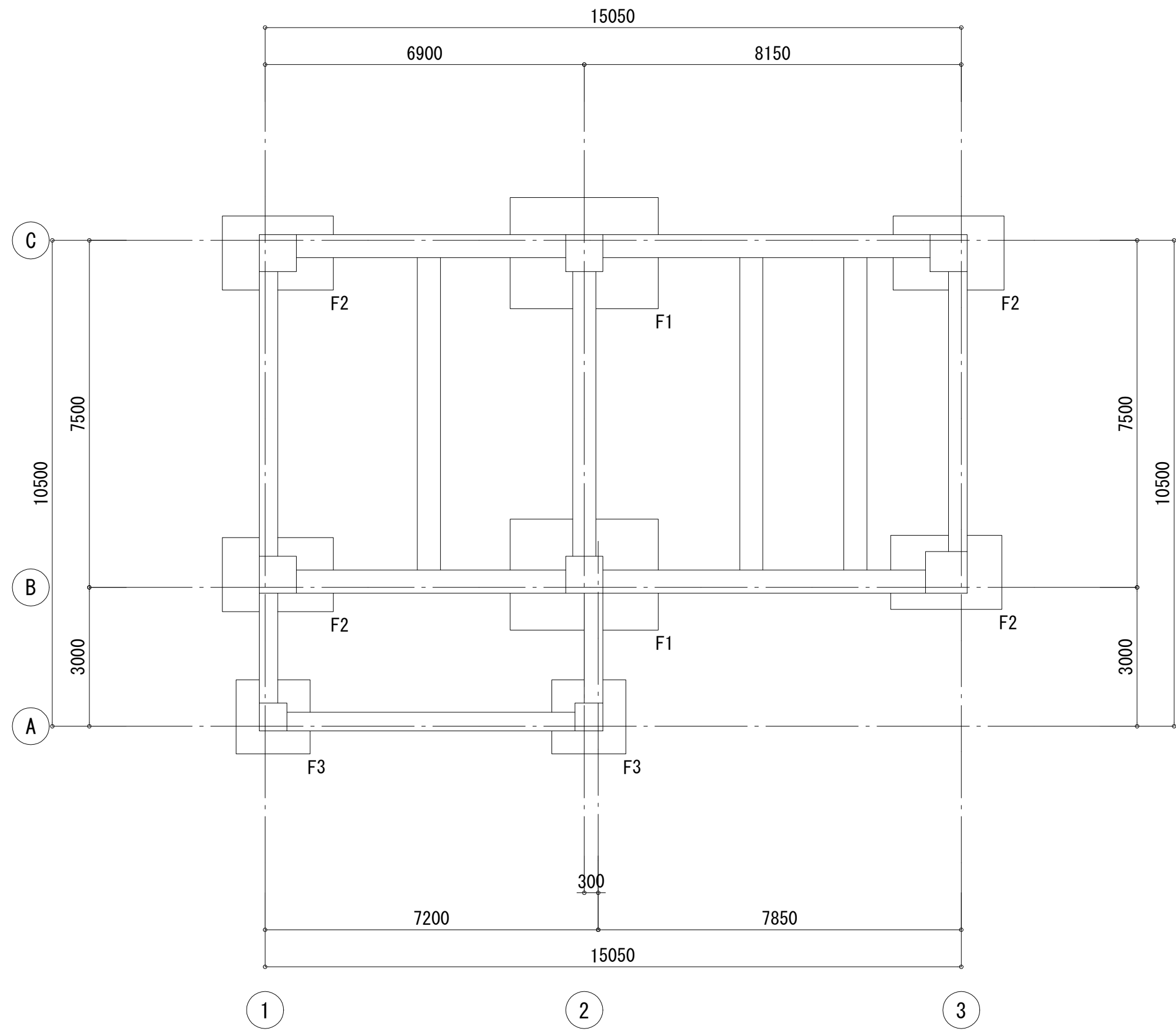
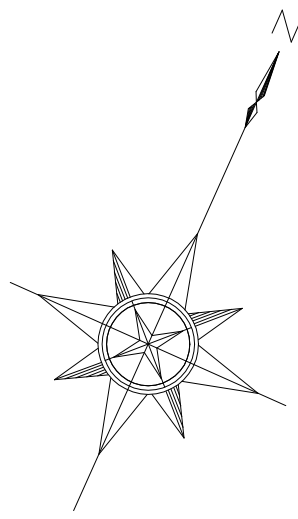
工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に3部提出する。

- |   |               |   |                                    |
|---|---------------|---|------------------------------------|
| ① | コラムの伏図及び番号    | ⑥ | 仕事量                                |
| ② | コラムの施工日       | ⑦ | 固化材液の配合と固化材の使用量                    |
| ③ | コラムの径及び実施コラム長 | ⑧ | コア供試体の一軸圧縮強度試験結果及びボーリングコアを用いたコア採取率 |
| ④ | 掘削深度          | ⑨ | 合否判定結果                             |
| ⑤ | 攪拌混合回数        |   |                                    |

## 11. その他

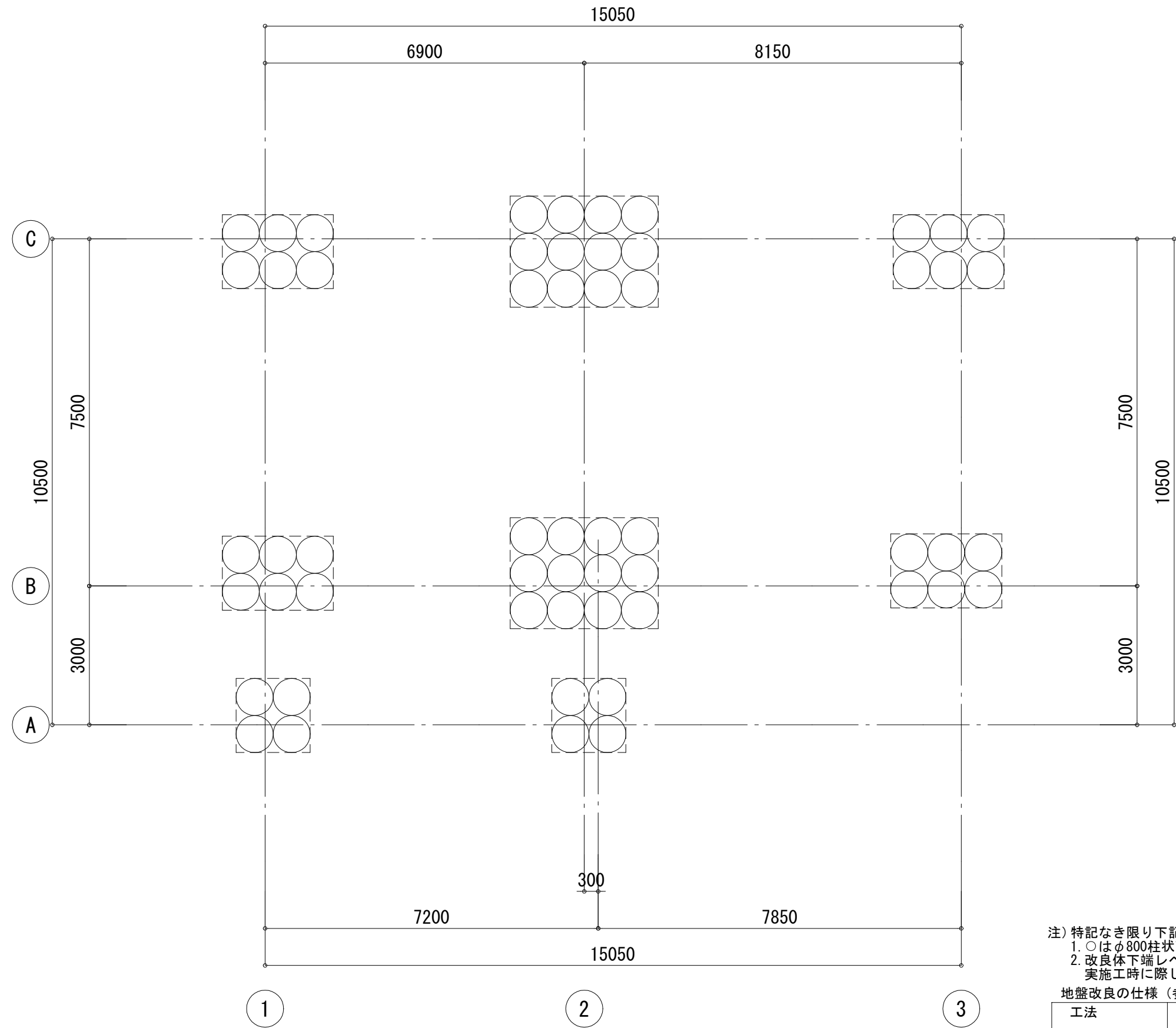
施工に当たっては、セメント系固化材からの六価クロムの溶出試験を実施し、環境庁告示第46号の基準値を満足するよう必要な措置を講じること。試験方法、試験個数等に関しては、平成13年4月20日付国官技第16号国営建第1号「セメント及びセメント系固化材を使用した改良土の六価クロム溶出試験実施要領（案）の一部変更について」による。

図 名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事				No. B-5	
	地盤改良特記仕様書					
	縮尺		S=NON			
	課長		係長	設計	写図	
岡山市水道局配水部施設整備課						



基礎伏図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)

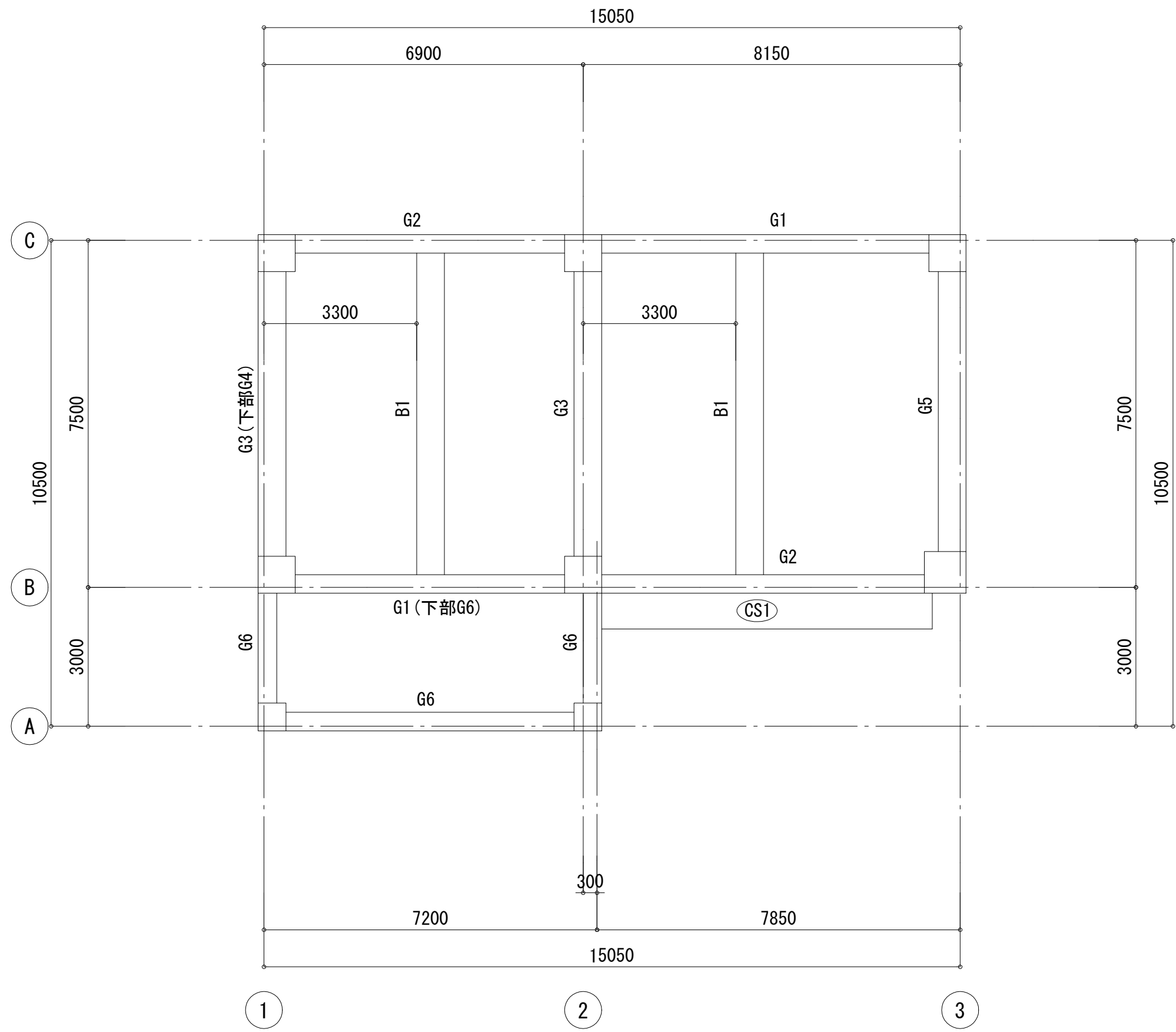
注) 特記なき限り下記による。  
1. SGL=標高11.47m, IFL=SGL+600とする。  
2. 基礎底レベル=SGL-1100とする。(基礎リスト参照)



地盤改良伏図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)

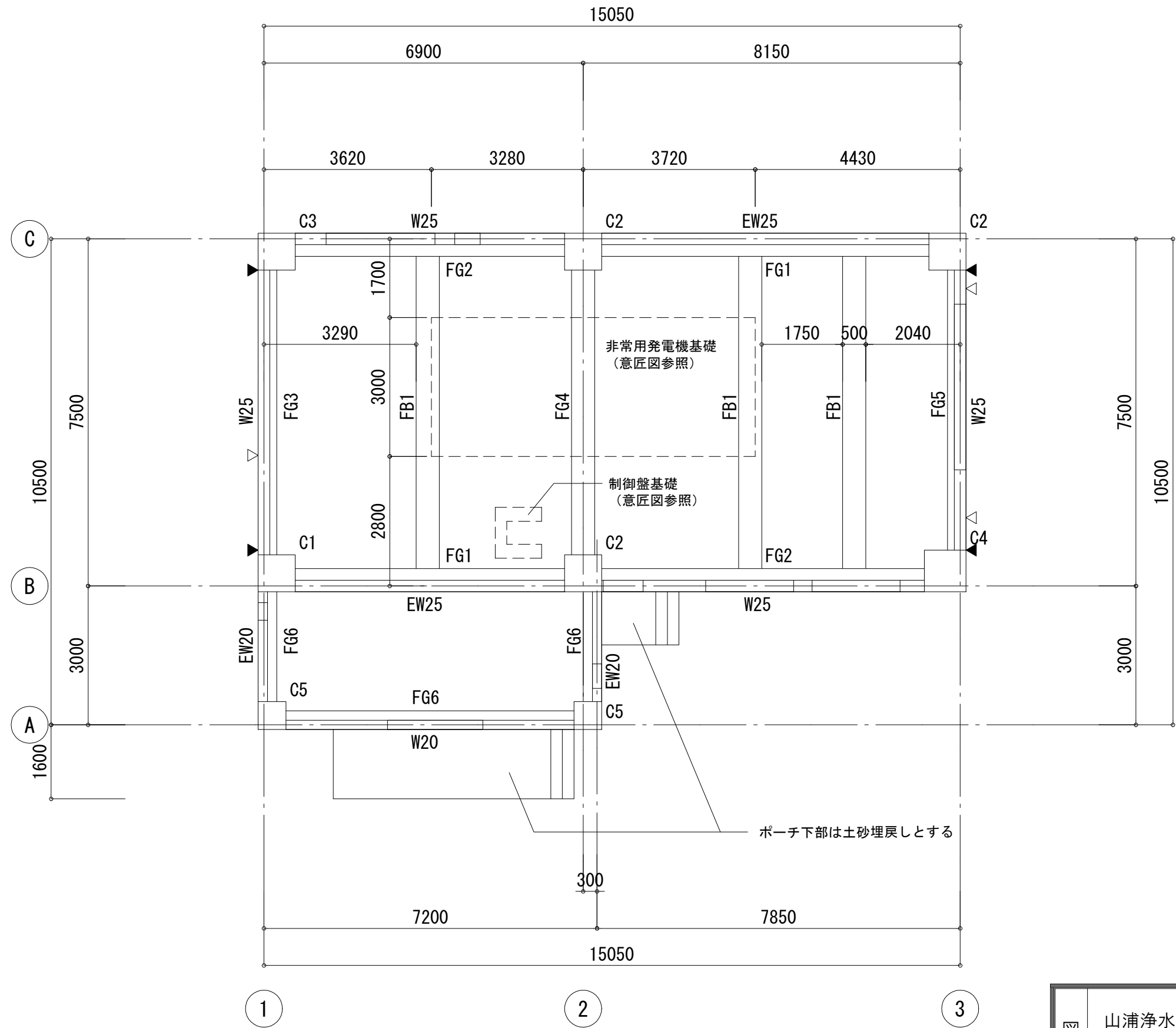
注) 特記なき限り下記による。  
1. □はφ800柱状改良体を示す。  
2. 改良体下端レベルはSGL-9.30m程度の砂礫層とするが、実施工時に際し現地で再確認のこと。

地盤改良の仕様 (参考)	
工法	テノコラム工法同等工法 ((一財)先端建設技術センター技術証第202001号)
改良径	φ800mm
本数	56本
改良天端SGL-	1.10m
改良長	8.20m
改良下端SGL-	9.30m
設計基準強度	F <sub>c</sub> =1600KN/m <sup>2</sup>
設計地耐力	長期 350KN/m <sup>2</sup> , 短期 700KN/m <sup>2</sup>



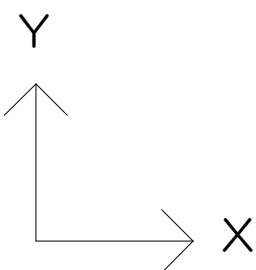
屋根伏図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)

注) 特記なき限り下記による。  
1. 屋根スラブ符号は(S1)とし、水勾配は上部増打ちによる。  
2. 3t吊りフック位置は意匠図による。

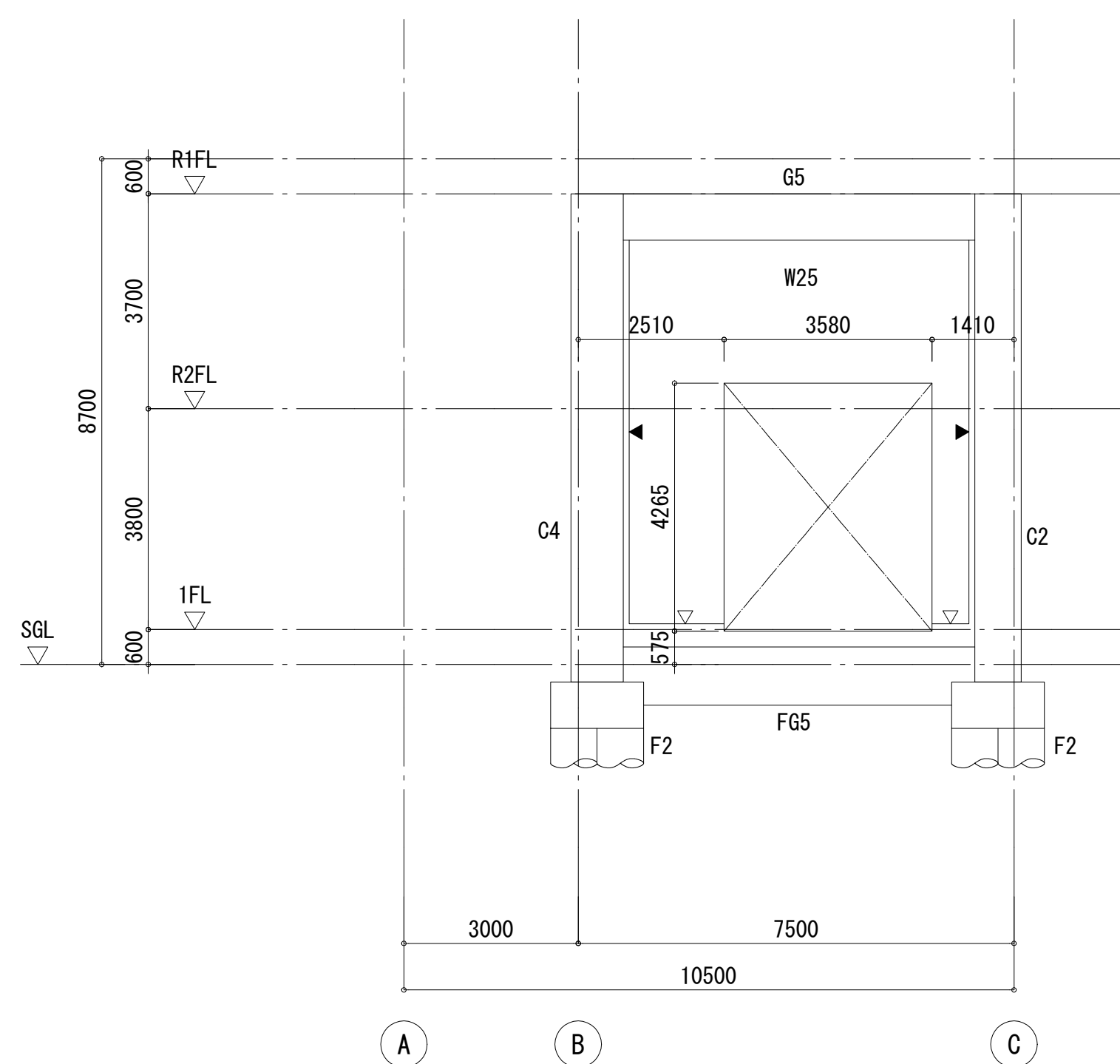
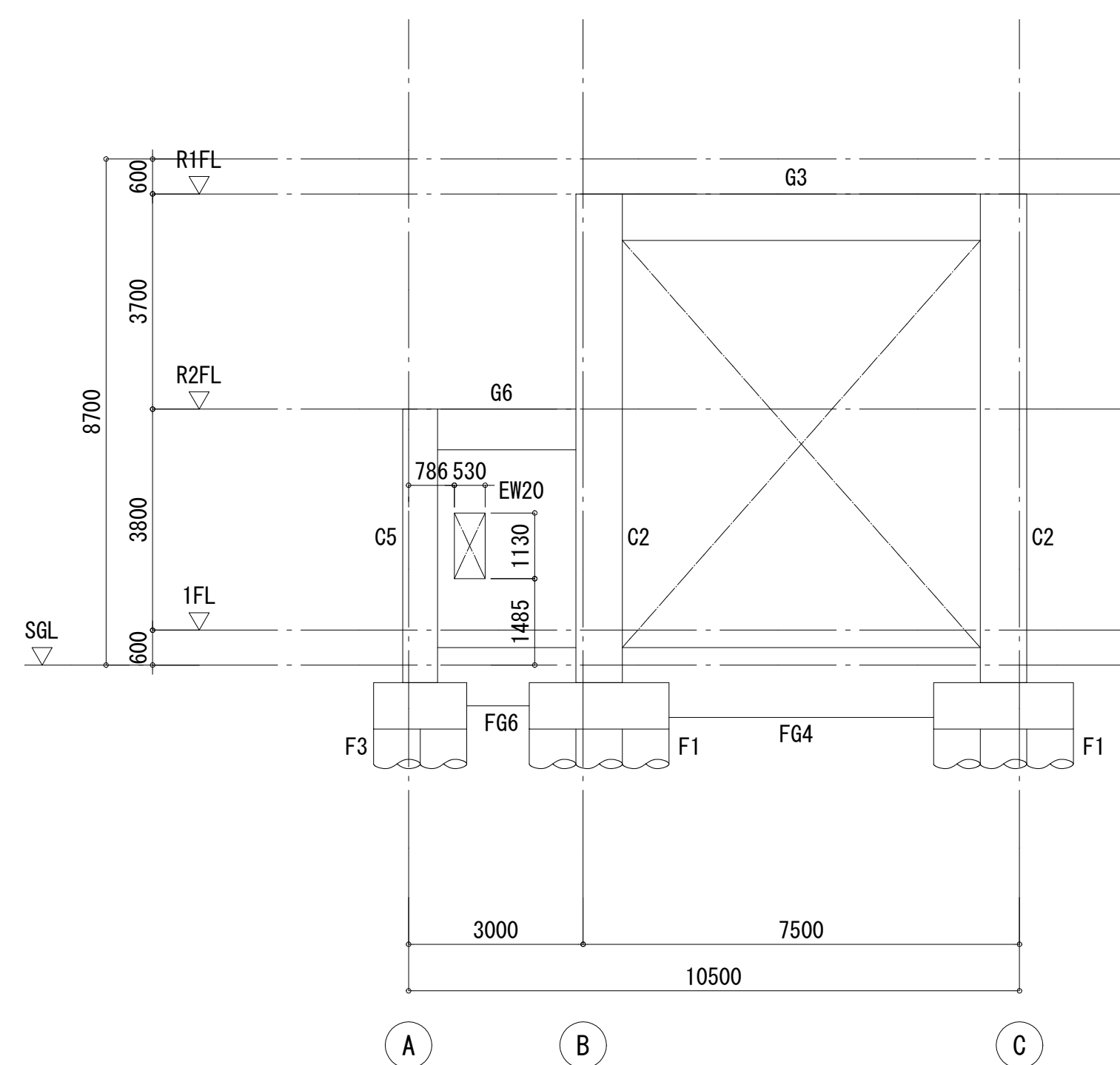
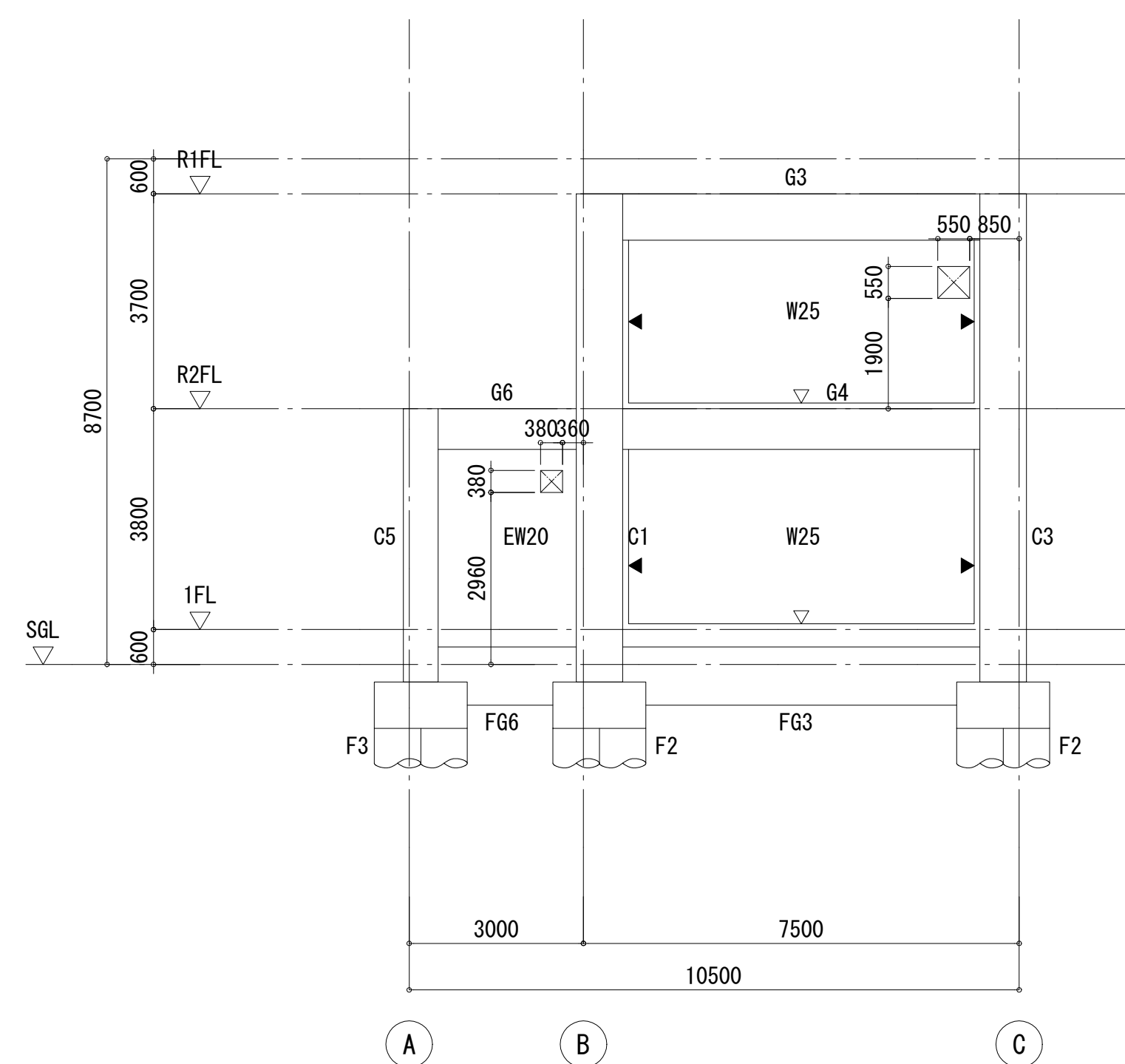
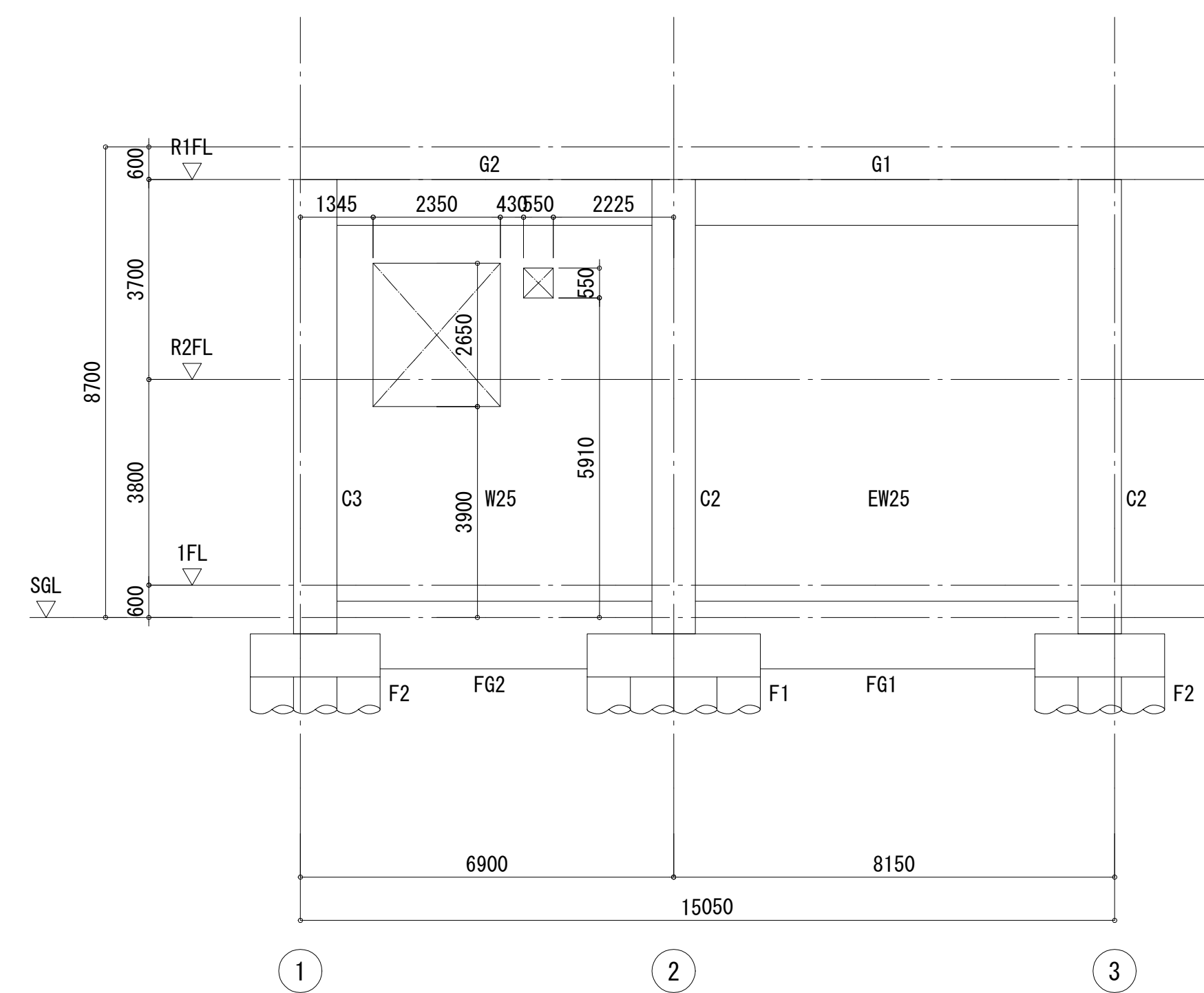
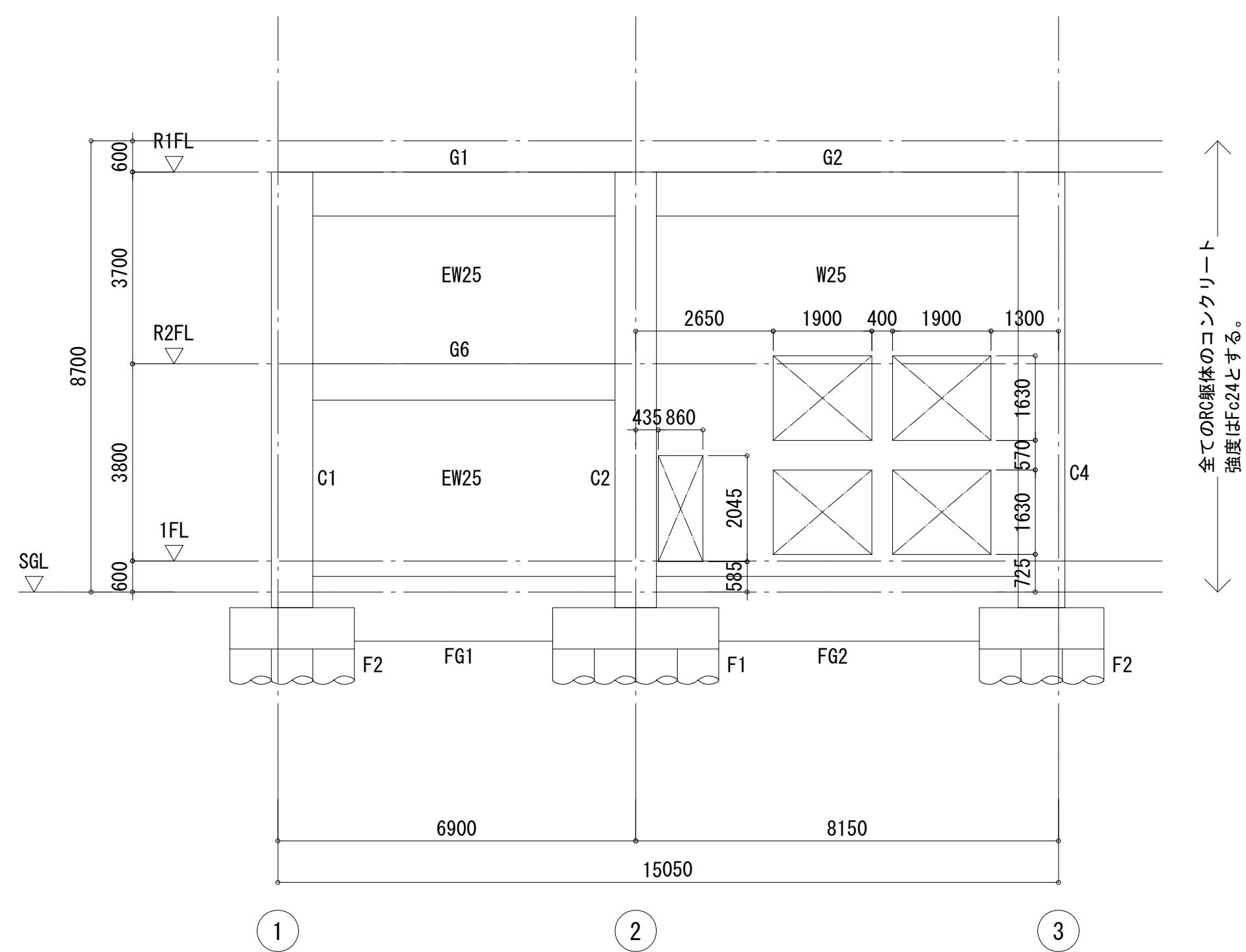
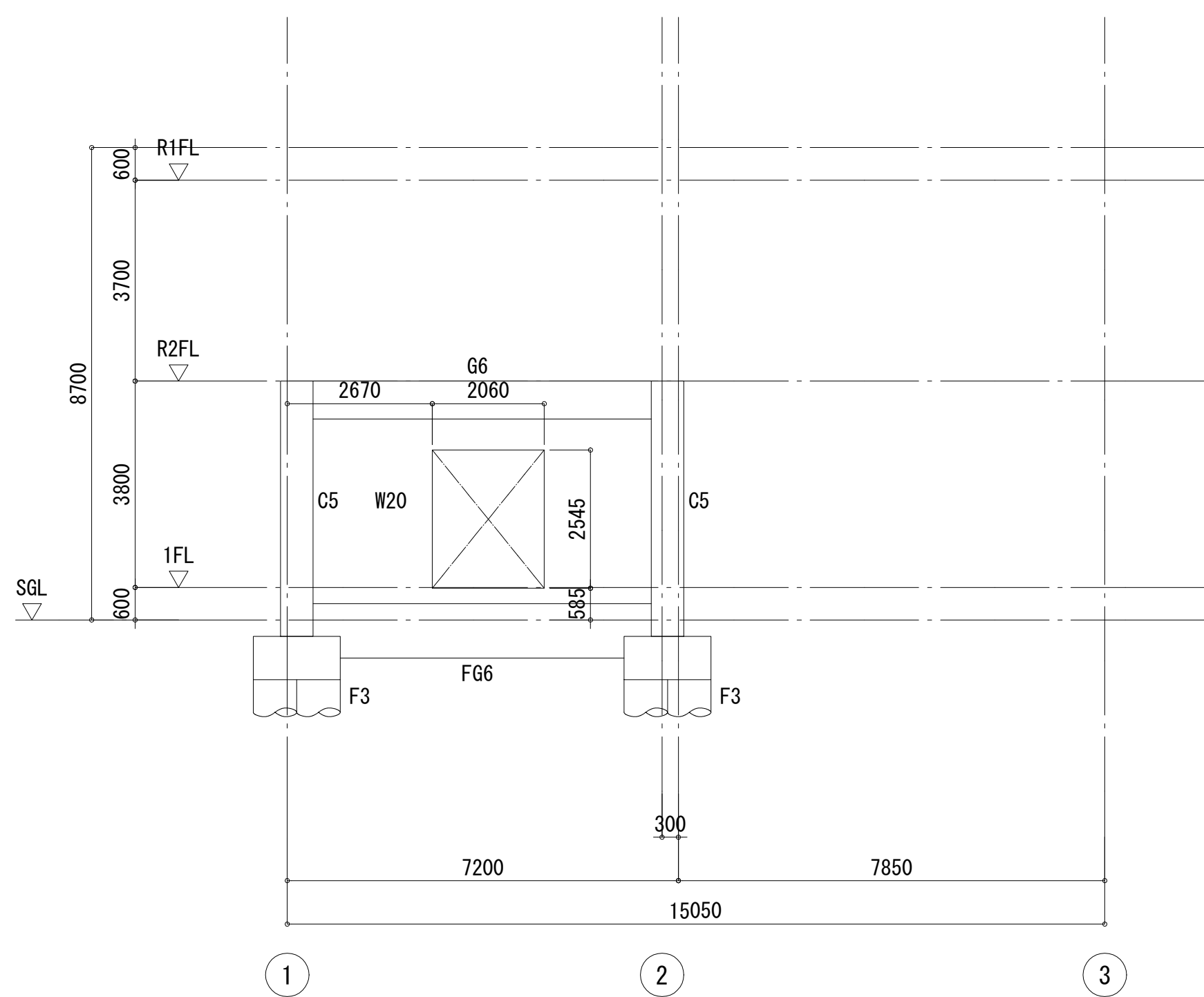


1階床梁・1階柱・壁伏図 S=1/200 (A3)  
S=1/100 (A1)

注) 特記なき限り下記による。  
1. 1階床スラブ符号は(S2)とし、スラブ天端=IFL-300とする。  
2. 基礎梁天端=IFL-300とする。  
3. ◀は鉛直スリット、◁は水平スリット (共に構造スリット) を示す。





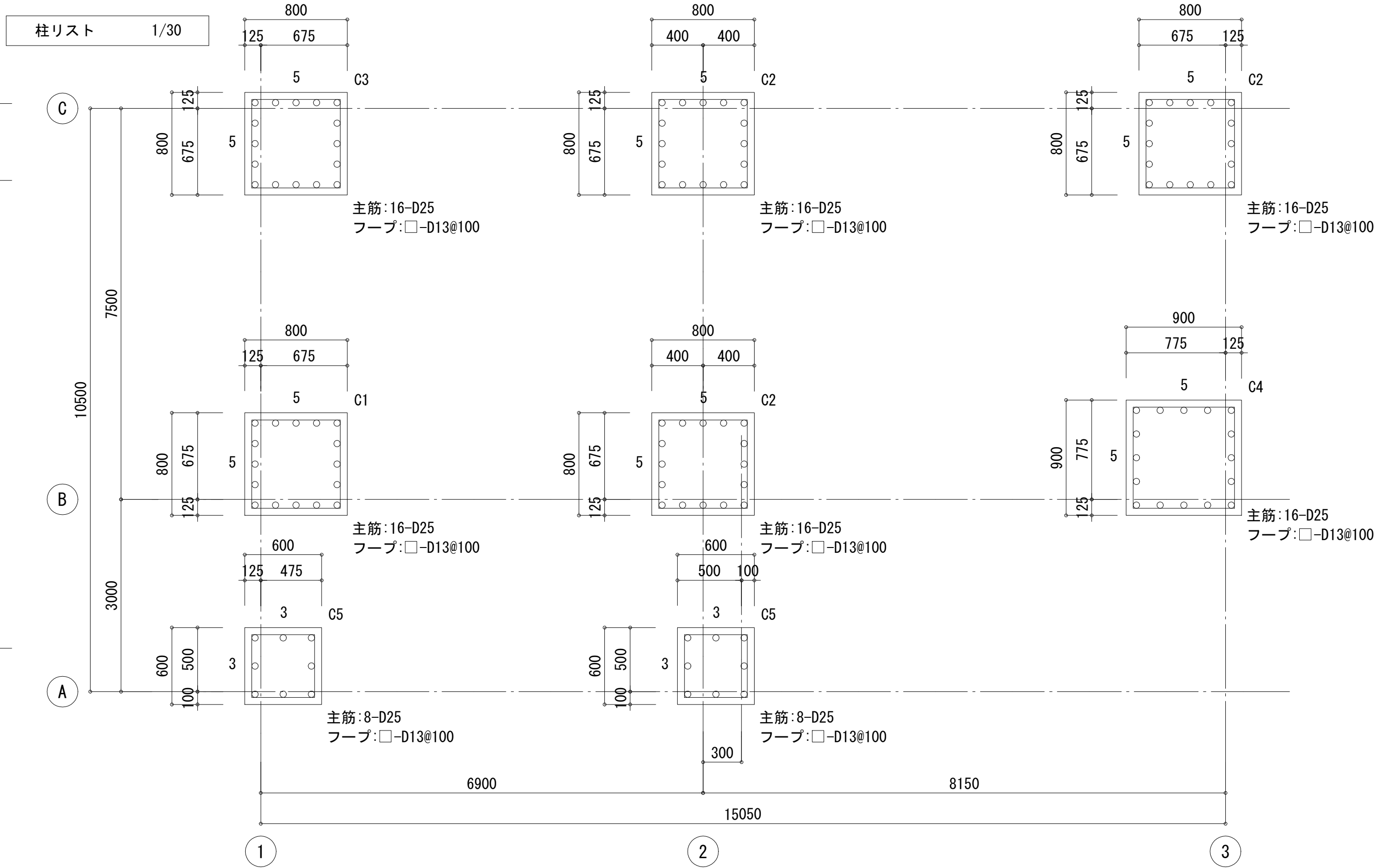
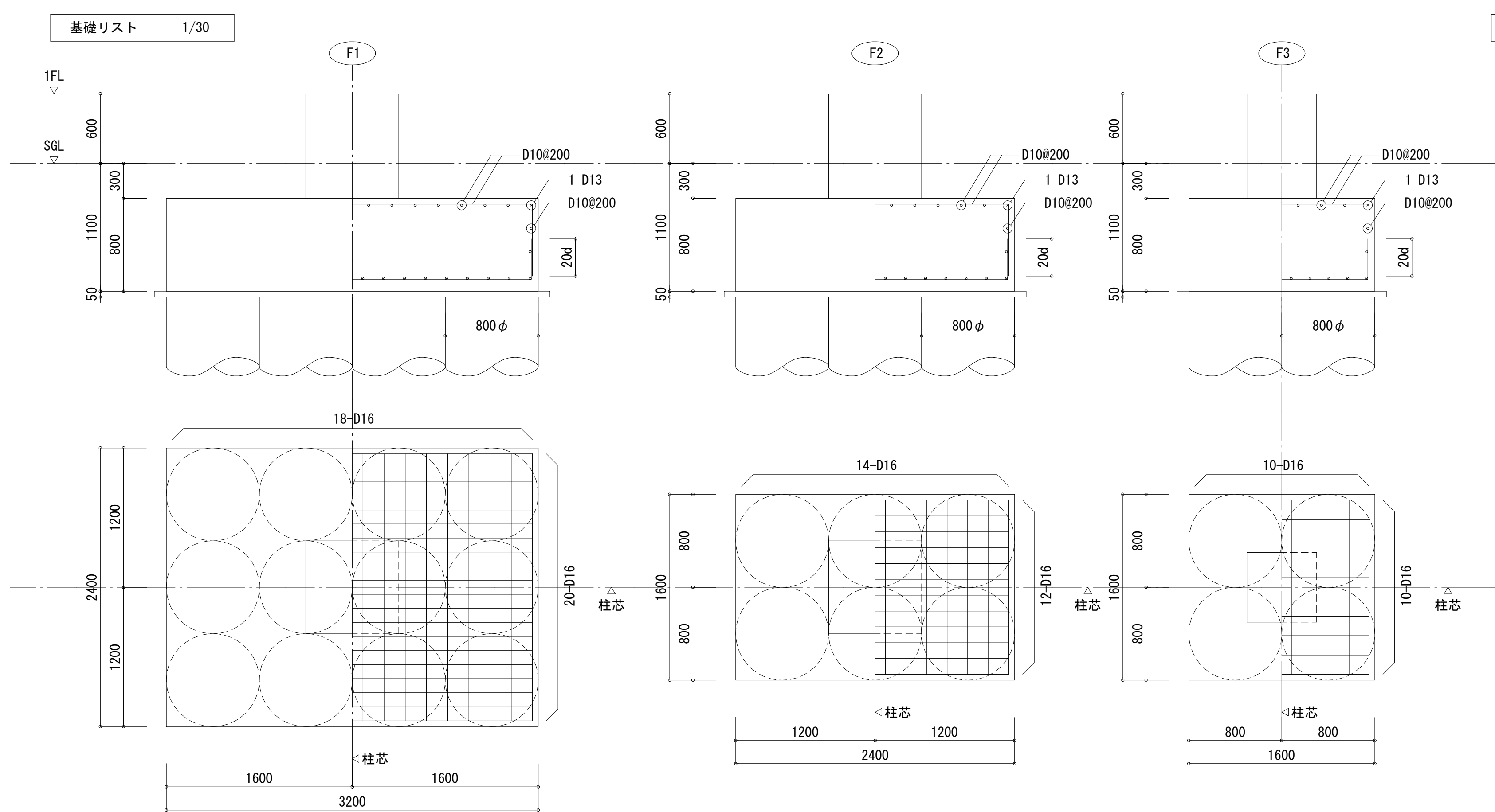


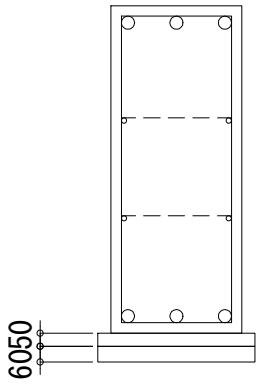
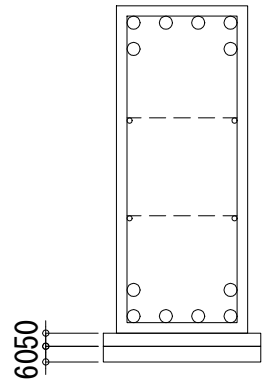
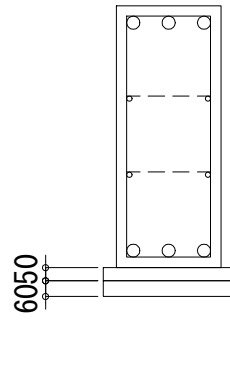
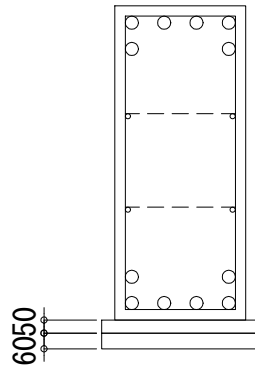
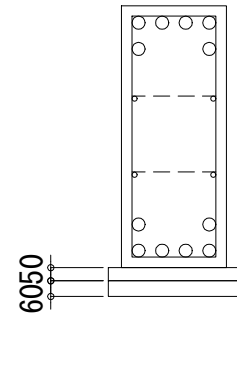
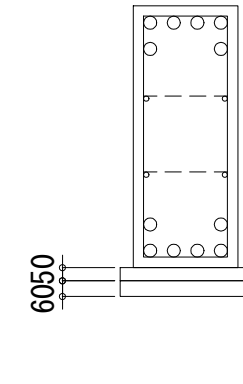
軸組図共通

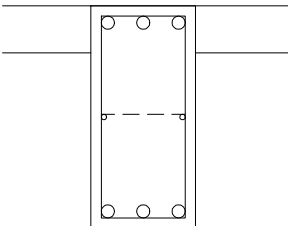
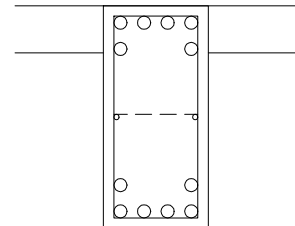
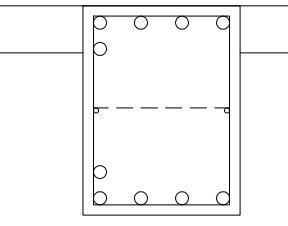
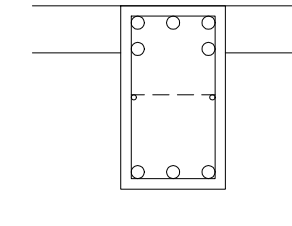
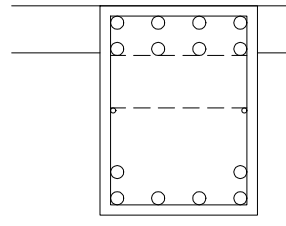
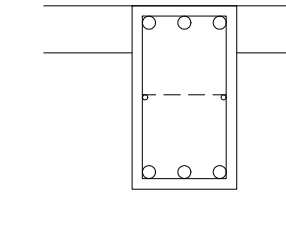






注) 特記なき限り下記による。

1. SGL=標高11.47m, 1FL=SGL+600とする。
2. 基礎梁天端=1階床スラブ天端=1FL-300とする。
3. ◀は鉛直スリット、◁は水平スリット(共に構造スリット)を示す。

図 名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事				No. <u>B-7</u>	
	軸組図					
縮尺		S=1/200 (A3) S=1/100 (A1)				
	課長	係長	設計	写図		
岡山市水道局配水部施設整備課						



基礎梁リスト		1/30					
		特記無き限り下記による。 1. 幅止め筋はD10@1,000程度とする。 2. 柱に取り付ける基礎梁主筋の定着長さは40d以上とする。					
階	符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6
	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
1 F	断面						
	B × D	500x1250	500x1250	400x1000	500x1200	400x1000	400x1000
	上端筋	3-D25	6-D25	3-D25	6-D25	6-D25	6-D25
	下端筋	3-D25	6-D25	3-D25	6-D25	6-D25	6-D25
	スタラップ	□-D13@200	□-D13@200	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@100	□-D13@200
	腹筋	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10	4-D10

大梁リスト		1/30		特記無き限り下記による。 1. 幅止め筋は2F・3FはD10@1,000程度、B1F・1FはD13@1,000程度とする。 2. 柱に取り付ける梁主筋の定着長さは40d以上とする。			
階	符号	G1	G2	G3	G4	G5	G6
	位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
R 1 F・ R 2 F	断面						
	B × D	400x850	400x850	600x800	400x700	600x800	400x700
	上端筋	3-D25	6-D25	5-D25	5-D25	8-D25	3-D25
	下端筋	3-D25	6-D25	5-D25	3-D25	6-D25	3-D25
	スタラップ	 -D13@200	 -D13@200	 -D13@200	 -D13@200	 -D13@100	 -D13@200
	腹筋	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10	2-D10

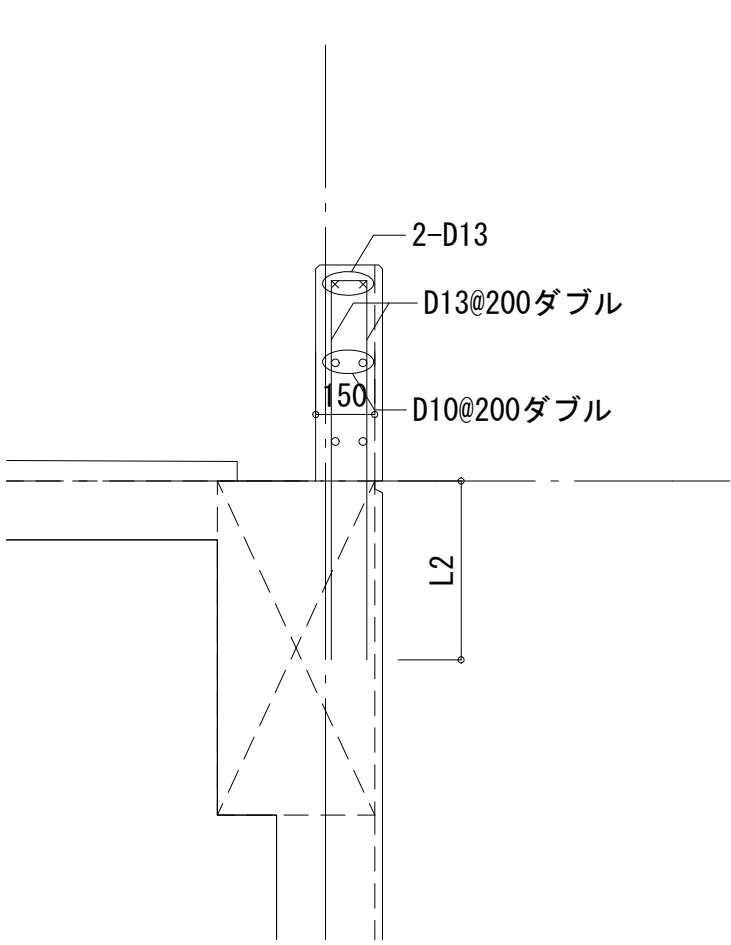
スラブリスト		特記無き限り下記による。 1. 最上階スラブに打込配管をしてはならない。			
符号	版厚	位置	短辺方向（主筋方向）	長辺方向（副筋方向）	
			全断面	全断面	
S1	150	上	D10D13 @150	D10D13 @150	屋根
		下	D10 @150	D10 @150	
S2	200	上	D13 @100	D13 @150	1階床
		下	D13 @100	D10 @150	
CS1	150～120	上			庇
		下			
		上	D13 @200	D10 @200	
		下	D10 @200	D10 @200	

小梁・基礎小梁リスト 1/30		特記無き限り下記による。 1. 幅止め筋はD10@1,000程度とする。 2. 柱に取り付ける梁主筋の定着長さは40d以上とする。			
符号	位置	B1		FB1	
		端部	中央	端部	中央
断面					
B × D		600x800		500x1200	
上端筋		6-D22	4-D22	7-D22	5-D22
下端筋		4-D22	7-D22	7-D22	9-D22
スタラップ		□-D13@200		□-D13@100	
腹筋		2-D10		4-D10	

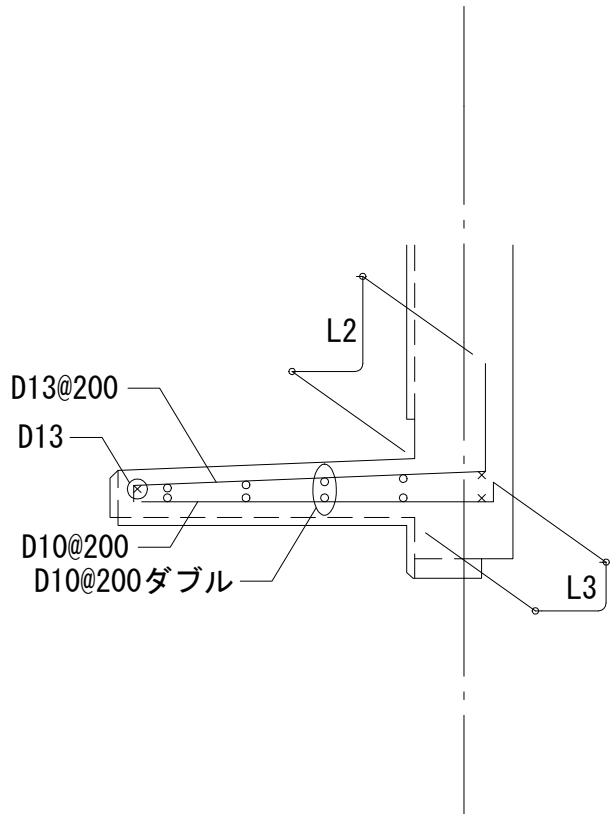
- 主筋の継手
- 柱、梁、基礎梁の主筋の継手はガス圧接を原則とする。
  - 上記継手を重ね継手とする場合は工事監理者の承諾を得ること。  
その場合の重ね継手長さは40d以上とすること。

特記無き限り下記による。  
1. 幅止め筋はD10@1,000以下とする。    2. 構造スリットは完全スリットとし位置は伏図・軸組図による。振れ止め筋は鉛直・水平共にD13@400とする。

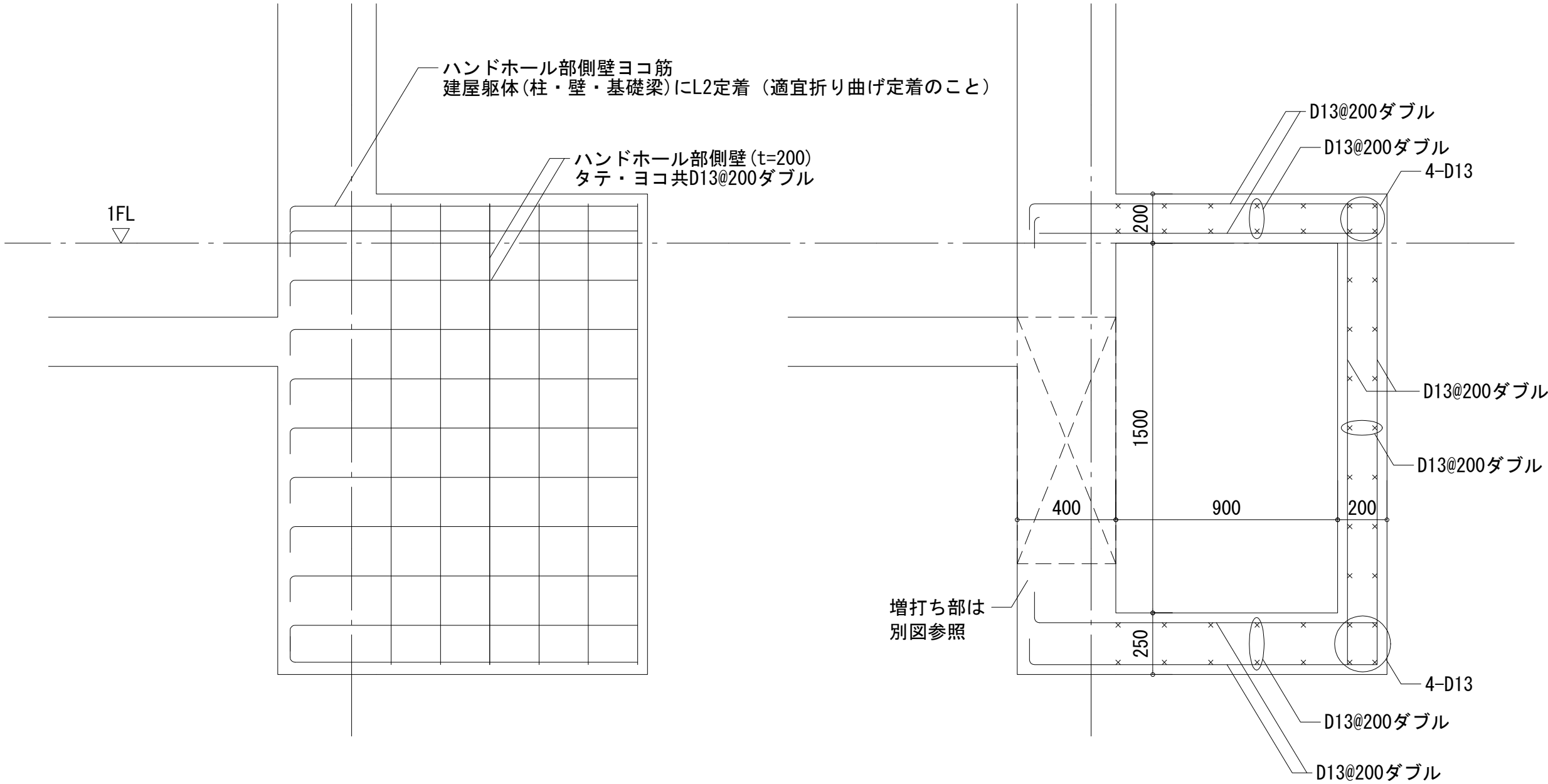
符号	EW20	W20	EW25	W25	
断面					
タテ筋	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル	
ヨコ筋	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル	D13 @200ダブル	
開口補強筋	タテ	4-D16	4-D16	4-D16	
	ヨコ	4-D16	4-D16	4-D16	
	斜め	2-D13シングル	2-D13シングル	2-D13	
備考	鉄筋の重ね継手長さは40d以上とする。		鉄筋の重ね継手長さは40d以上とする。		



パラベット配筋詳細図 1/20

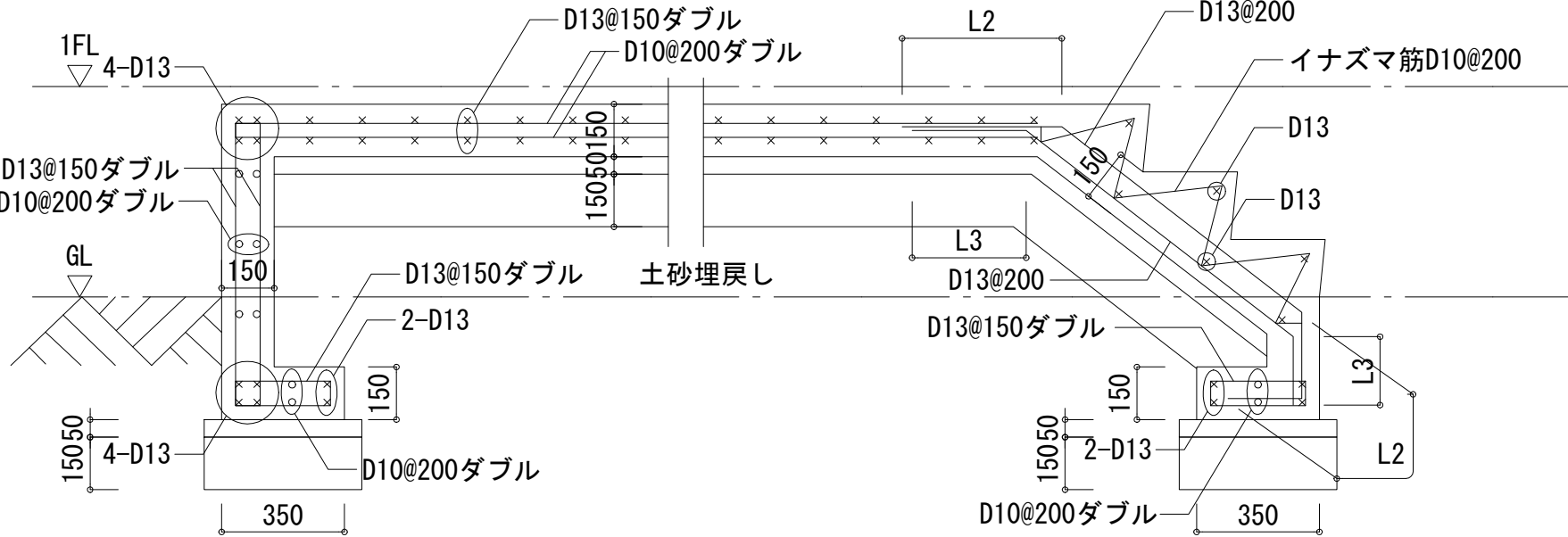


RC底配筋詳細図 1/20

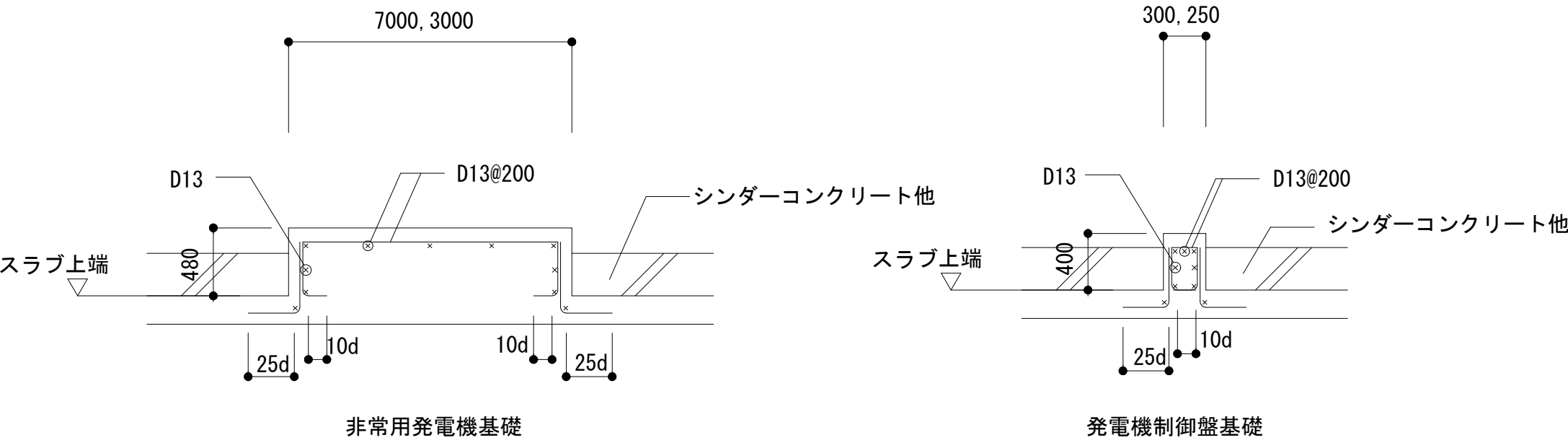
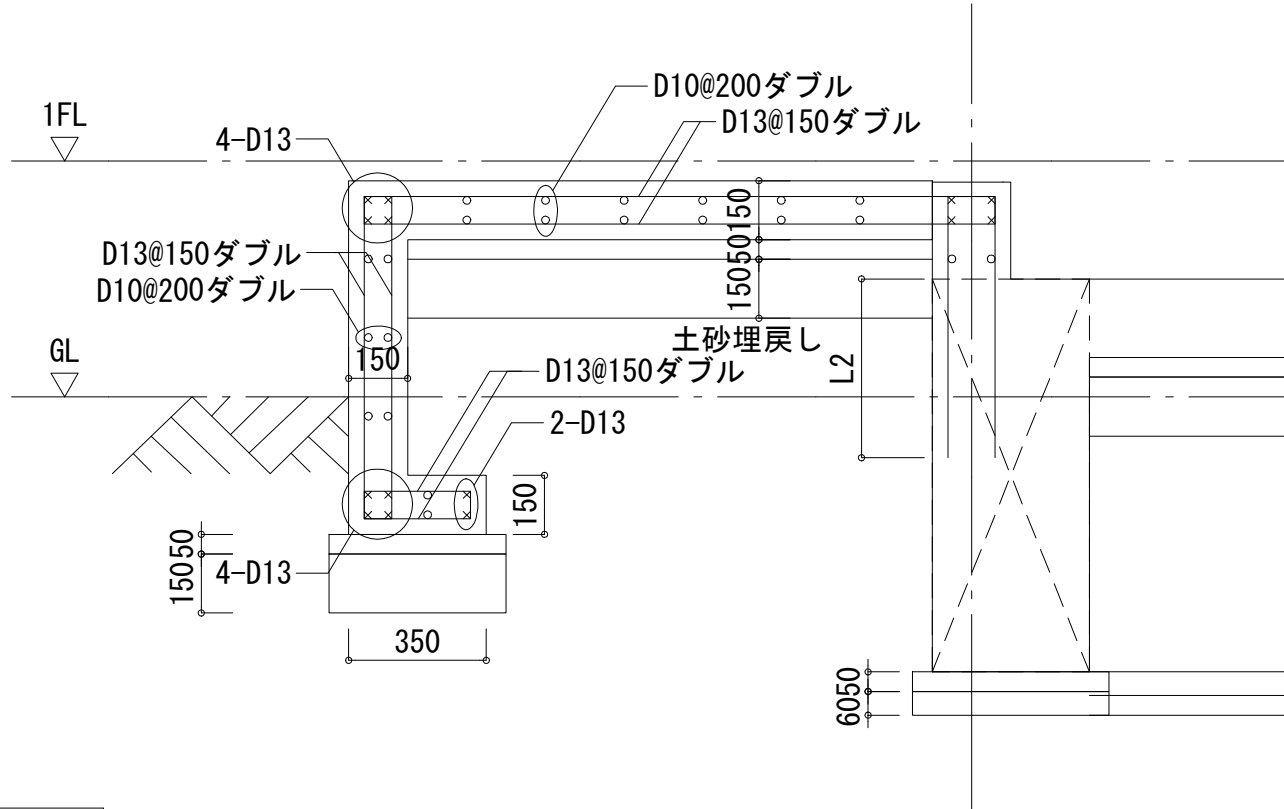


ハンドホール部配筋詳細図 1/20

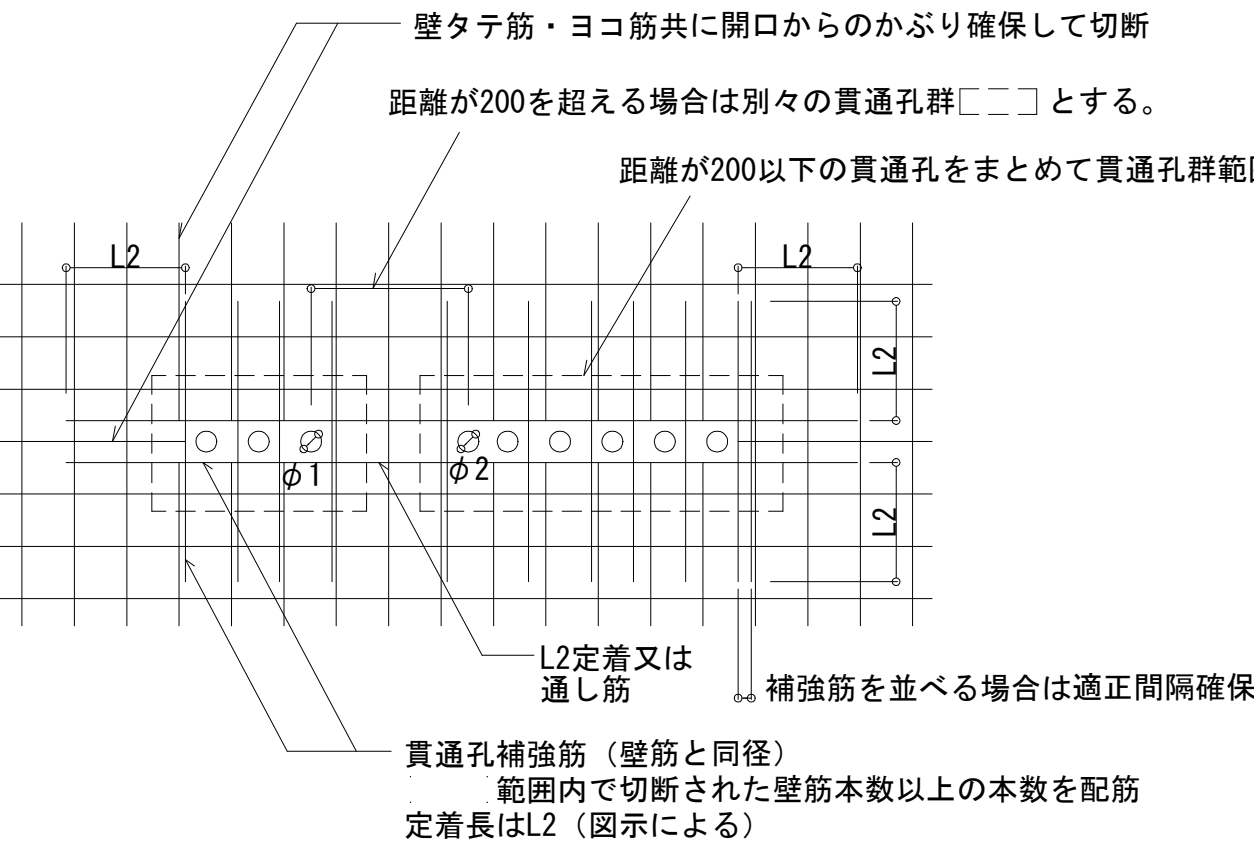
注) ハンドホール壁の貫通孔補強は「壁貫通孔補強要領」によること。



出入口ポーチ配筋詳細図 1/20

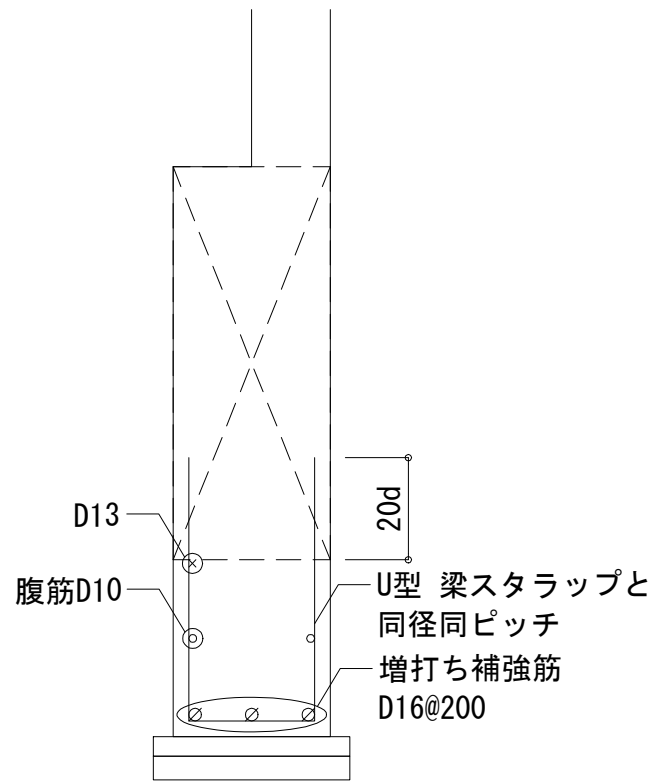


機器基礎配筋要領図



壁貫通孔補強要領

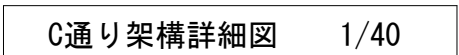
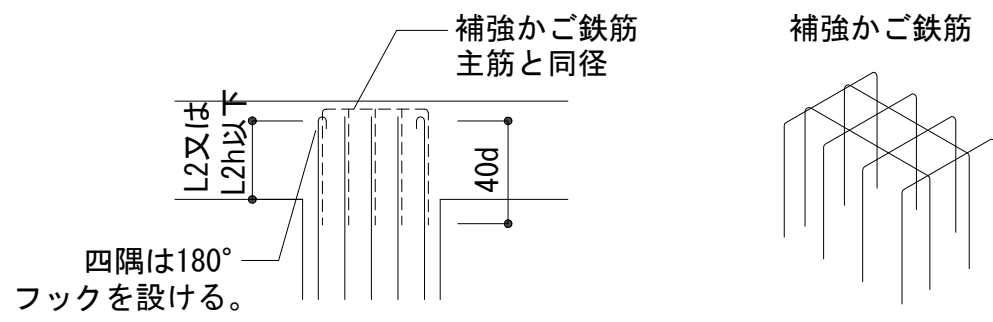
注) 直径200mm以上の貫通孔については、  
単独の開口として壁リストに示す開口の  
補強筋を配筋のこと。



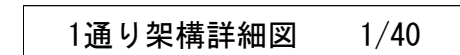
基礎梁増打ち配筋詳細図 1/20



柱頭部主筋定着長 $L_2$ または $L_2h$ 以下の場合は下図の補強要領とすること。



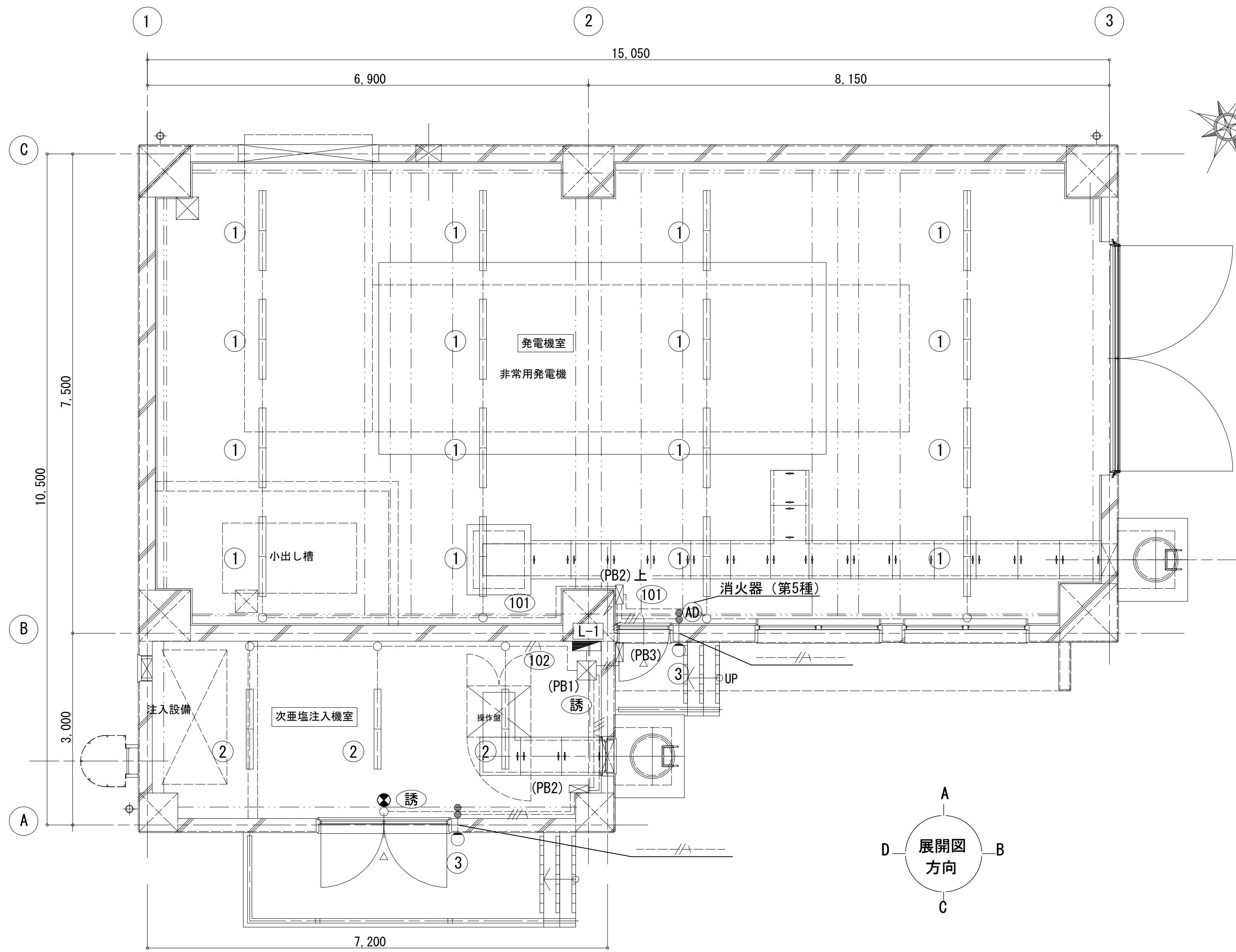
注) 1. 壁開口補強筋の本数は各辺、各隅一カ所あたりの本数を示す。



注) 1. 壁開口補強筋の本数は各辺、各隅一カ所あたりの本数を示す。

図 名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事					No. B-10	
	架構詳細図						
	縮尺						
	S=1/40 (A3) S=1/80 (A1)						
	課長	係長	設計		写真		
岡山市水道局配水部施設整備課							





(電灯) 平面詳細図  
S=1: 50 (A1)  
S=1: 100 (A3)

注記 (電灯)

1. 特記なき配管配線は下記による。

-----EM-IE1. 6*2 E2. 0 (E19) ・屋内露出部分 (発電機室)	-----EM-IE2. 0*2 E2. 0 (E19) ・屋内露出部分 (発電機室)
-----EM-IE2. 0*2 E2. 0 (G16) ・屋外露出部分 (発電機室)	-----EM-IE2. 0*3 E2. 0 (E19) ・屋内露出部分 (発電機室)
-----EM-IE1. 6*2 E2. 0 (HIVE16) ・屋内露出部分 (次亜塩注入機室)	-----EM-IE2. 0*2 E2. 0 (HIVE16) ・屋内露出部分 (次亜塩注入機室)
-----EM-IE2. 0*3 E2. 0 (HIVE16) ・屋内露出部分 (次亜塩注入機室)	

2. 器具類の凡例は下記による。

①, ②, ③ は、照明器具姿図を参照のこと。

● 埋込形ワイドハンドルスイッチ (ネーム・位置表示付) 1P15A×1

○ : 丸形露出ボックス・1方出

(PB1): SS300\*300\*150 (樹脂製)

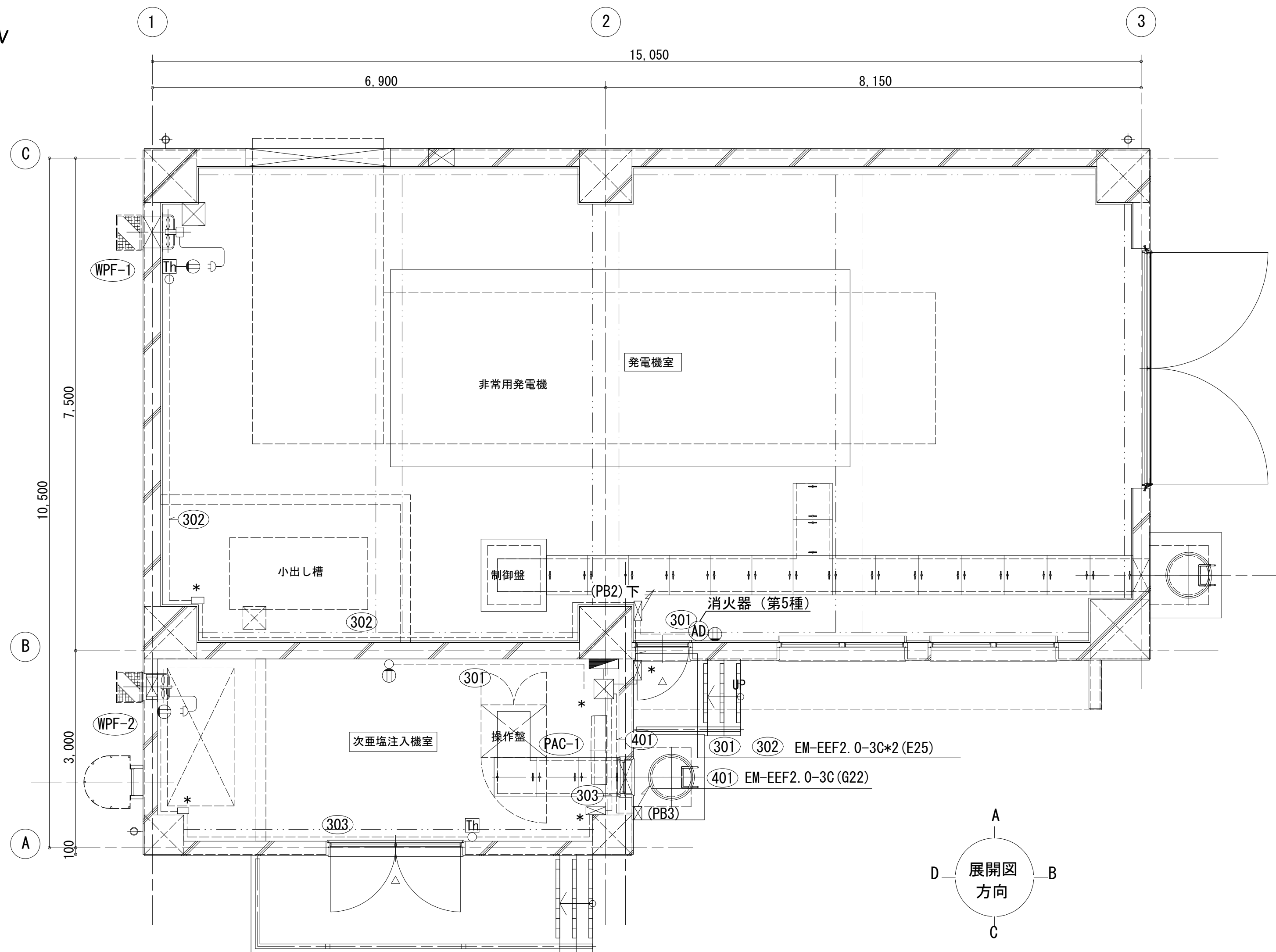
○ : 丸形露出ボックス・2方出

(PB2): SS200\*200\*100 (次亜塩注入機室: 樹脂 発電機室: WP-SUS)

○ : 丸形露出ボックス・3方出

(PB3): SS200\*200\*100 (WP-SUS)

□ : ユニバーサルエルボ



(機器電源・コンセント) 平面詳細図  
S=1: 50 (A1)  
S=1: 100 (A3)

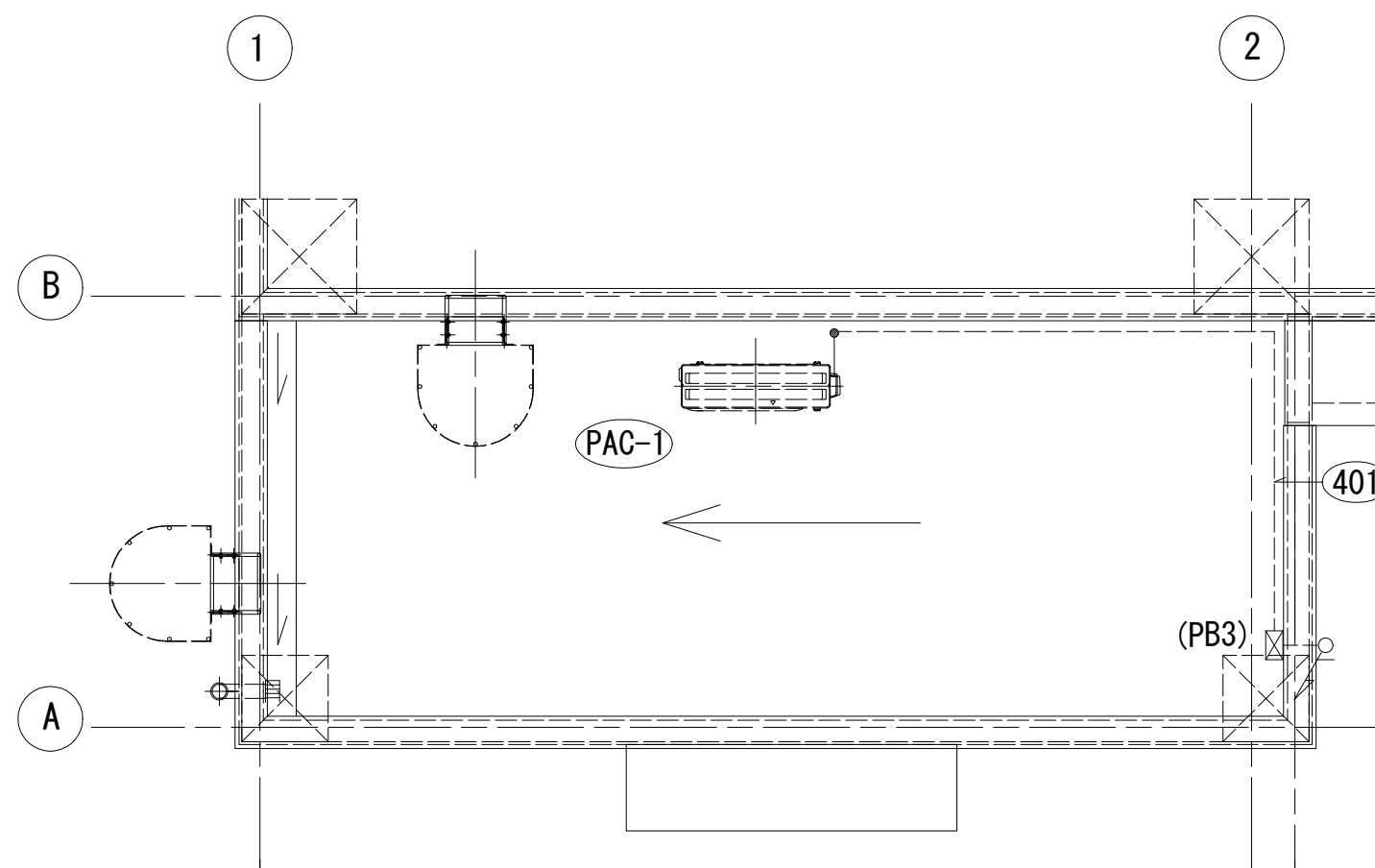
注記 (機器電源・コンセント)

1. 特記なき配管配線は下記による。

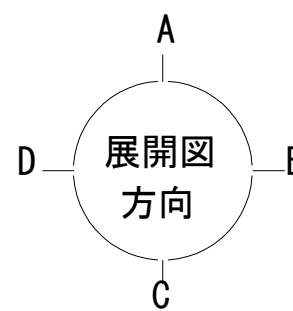
-----EM-EEF2. 0-3C (E25) ・屋内露出部分 (発電機室)
-----EM-EEF2. 0-3C (HIVE28) ・屋内露出部分 (次亜塩注入機室)
-----EM-EEF2. 0-3C (G22) ・屋外露出部分
-----EM-EEF2. 0-3C (7" リサ#24-22) ・室外機接続部分

2. 器具類の凡例は下記による。

- ① 埋込形コンセント2P15A×2ET・1個用露出スイッチボックス  
TH 有圧換気扇用温度スイッチ (別紙姿図参照) ・3個用露出スイッチボックス  
(PB3): SS200\*200\*100WP-SUS  
\* ブルックス、露出ボックス類の凡例は電灯平面詳細図参照

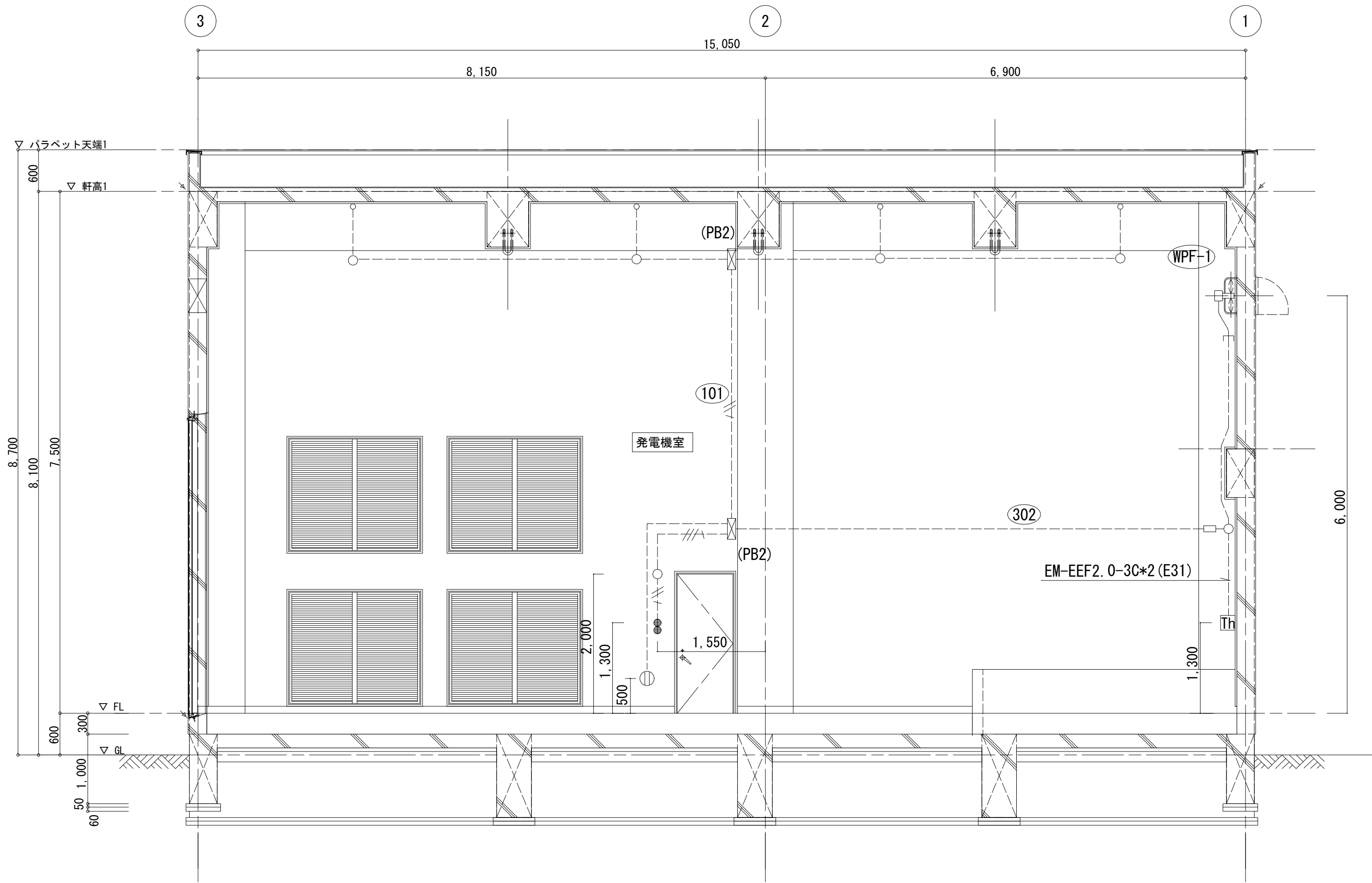


(機器電源・コンセント) 屋上・平面詳細図  
S=1: 50 (A1)  
S=1: 100 (A3)

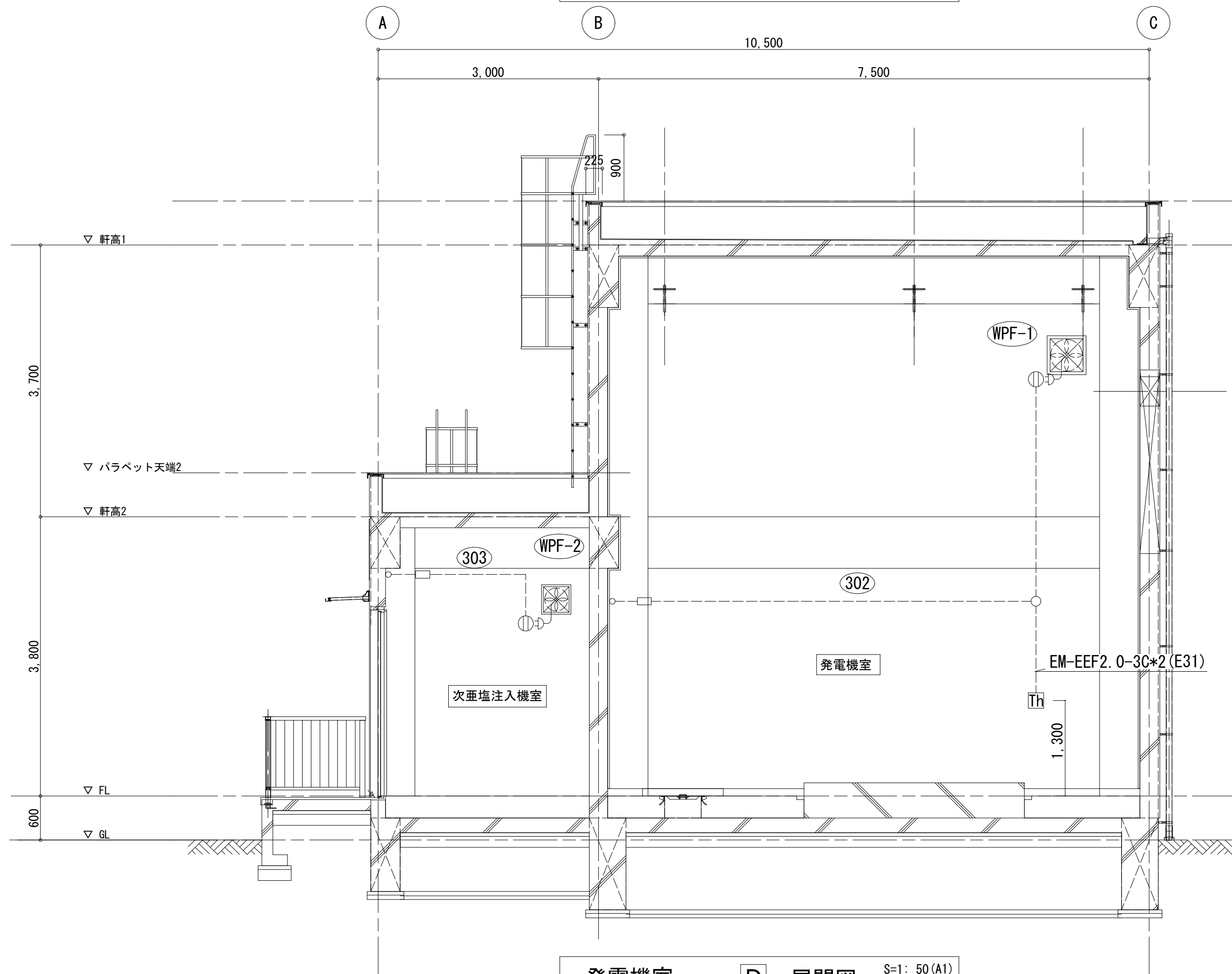


図名	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事 建築電気設備 平面詳細図	№ AE-2
縮尺	S=1/100 (A3) S=1/50 (A1)	
課長	係長	設計
岡山市水道局配水部施設整備課		

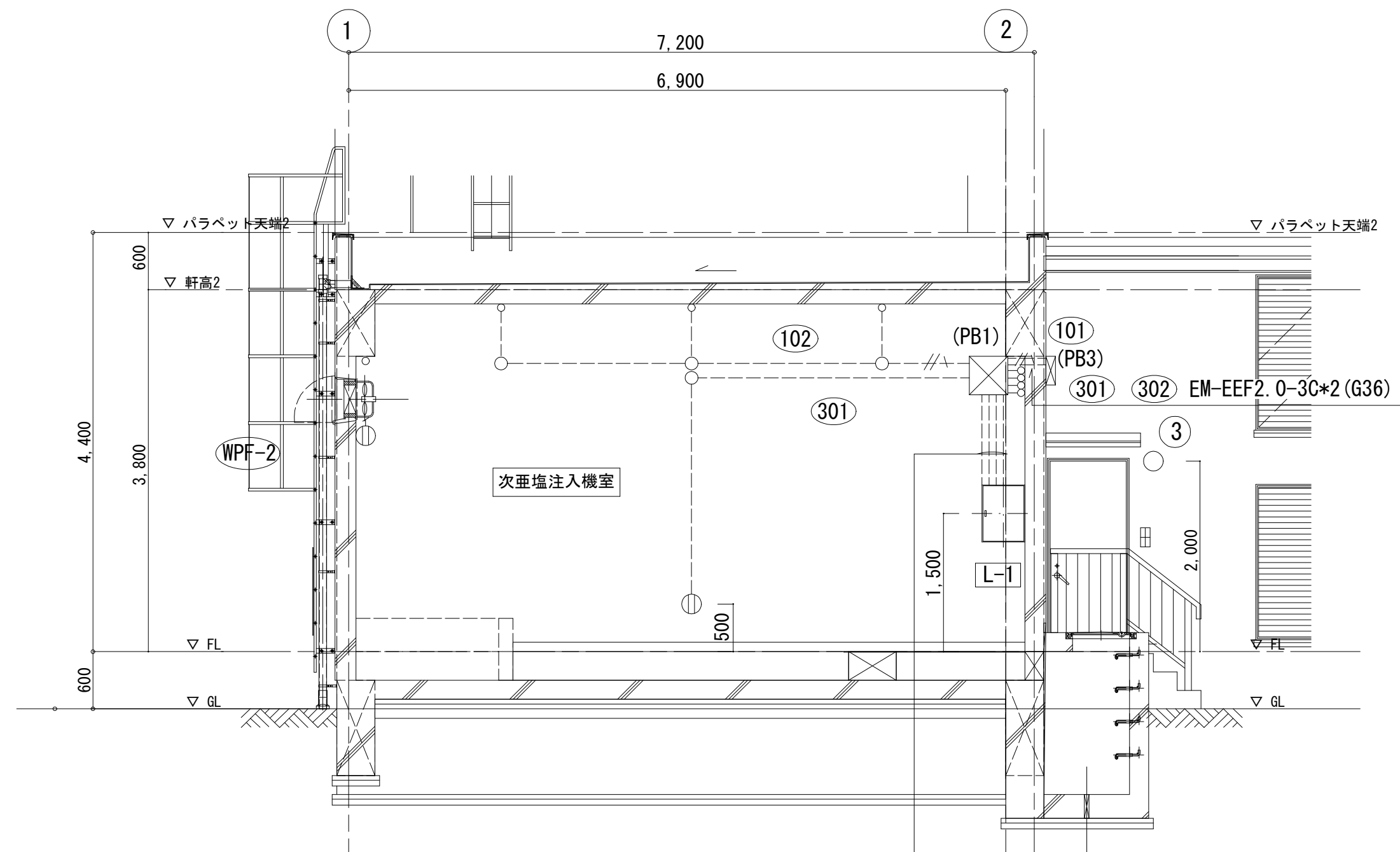




発電機室 C 展開図 S=1: 50 (A1)  
S=1: 100 (A3)

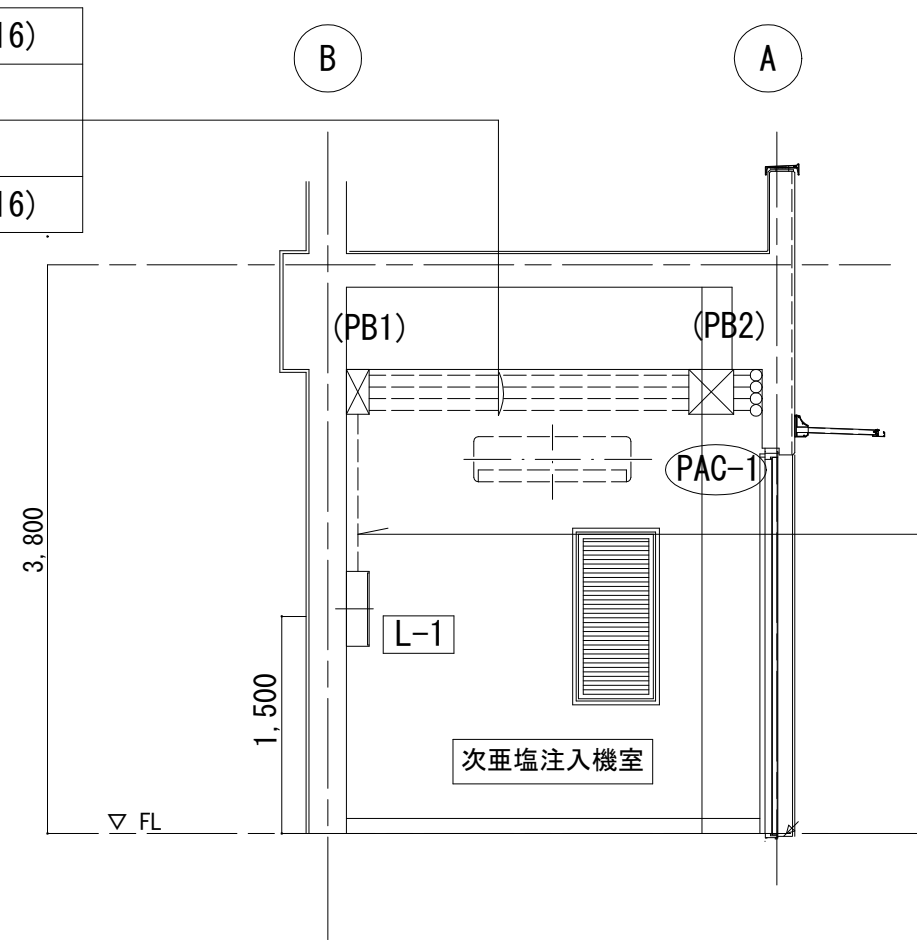


発電機室 D 展開図 S=1: 50 (A1)  
S=1: 100 (A3)



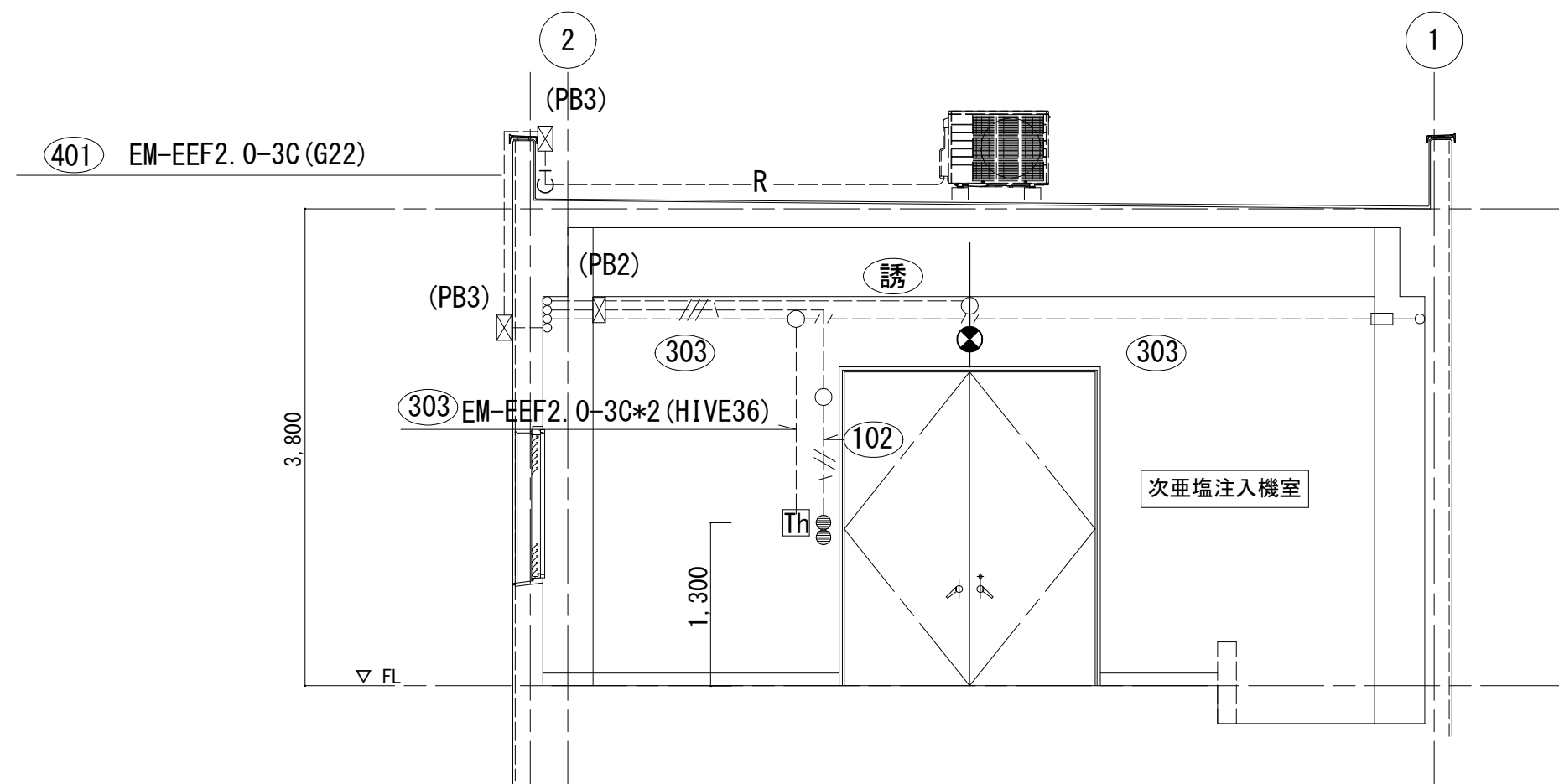
次垂塩注入機室 A 展開図 S=1: 50 (A1)  
S=1: 100 (A3)

102	EM-IE2. 0*2 E2. 0 (HIVE16)
303	EM-EEF2. 0-3C (HIVE28)
401	EM-EEF2. 0-3C (HIVE28)
誘	EM-IE1. 6*2 E2. 0 (HIVE16)

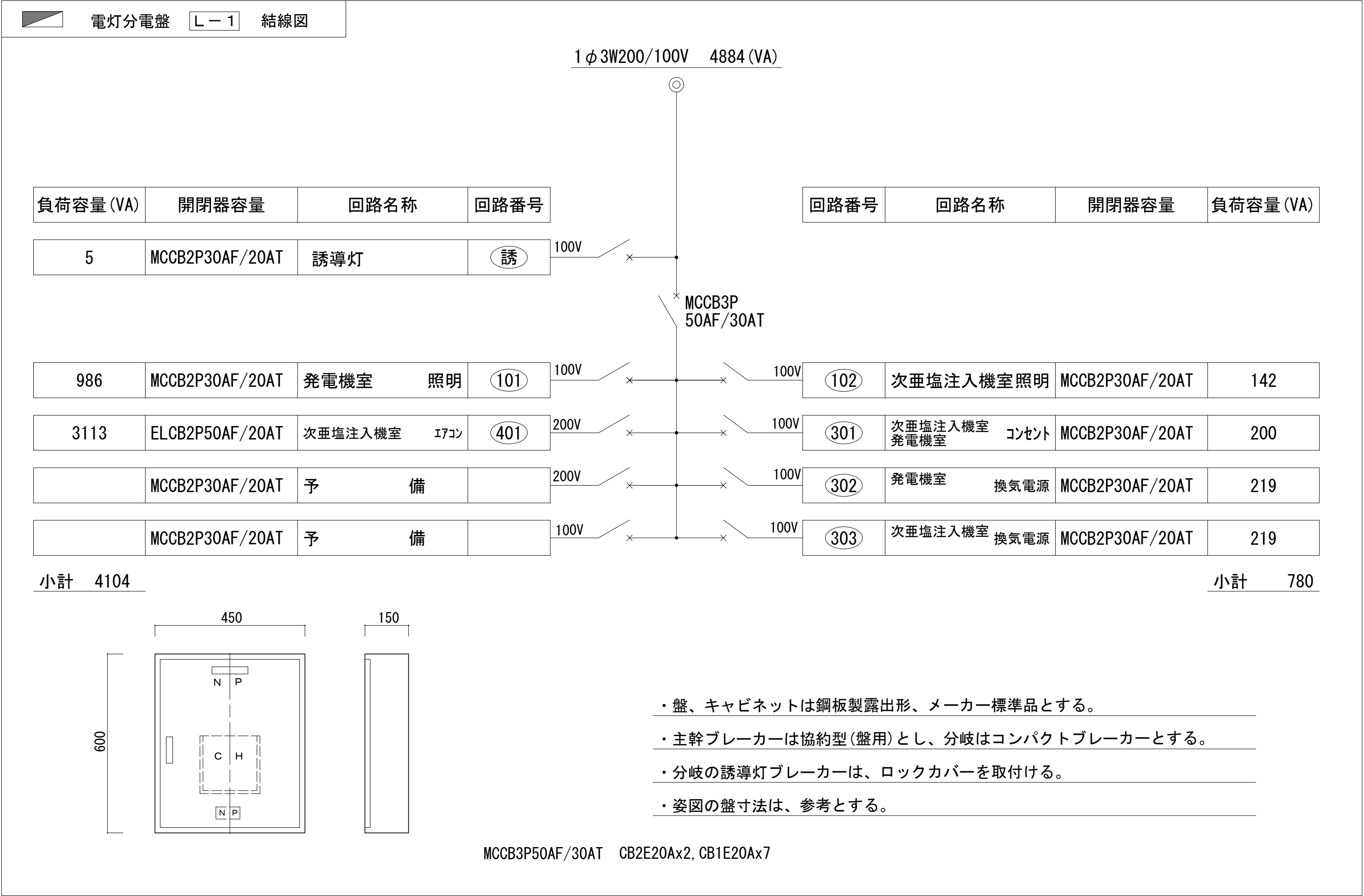


次垂塩注入機室 B 展開図 S=1: 50 (A1)  
S=1: 100 (A3)

101	EM-IE2. 0*4 E2. 0 (HIVE28)
102	EM-IE2. 0*4 E2. 0 (HIVE28)
301	EM-EEF2. 0-3C*3 (HIVE36)
302	EM-EEF2. 0-3C*2 (G36)
303	EM-EEF2. 0-3C (HIVE28)
401	EM-EEF2. 0-3C (HIVE28)
誘	EM-IE1. 6*2 E2. 0 (HIVE16)



次垂塩注入機室 C 展開図 S=1: 50 (A1)  
S=1: 100 (A3)



## 岡山市建築設備工事（機械）仕様書

### I 工 事 概 要

- 1 工 事 場 所
- 2 建 物 概 要

岡山市中区祇園824番地の1 ほか1件

建 物 名 称	構 造	階 数	延べ面積（㎡）	消防法令別表1	備 考
発電機棟	RC造	平屋建て	134.47㎡	(15) 項	

### 3 工 事 種 目 (○印のついたものを適用する)

工事種目	工 事 種 別				
	発電機室	次亜塩素酸注入機室			
・ 衛生器具設備					
・ 給水設備		○			
・ 排水設備					
・ 給湯設備					
・ ろ過循環設備					
・ 消火設備					
・ ガス設備					
・ 空調調和設備		○			
・ 冷暖房設備					
・ 換気設備	○	○			
・ 自動制御設備					
・ 厨房器具設備					

### II 工 事 仕 様

#### 1 共通仕様

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)最新版（以下「標準仕様書」という）及び公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）最新版及び公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）最新版による。

#### 2 特記仕様

- 1) 適用項目番号に○印のついたものを適用する。
- 2) 特記事項のうち選択する事項は○印のついたものを適用する。ただし○印のない場合は※印を適用する。

通 用		特 記 事 項
①	機 材	岡山市公共建築課機材器等指定名簿に規定するものとし、同等品とする場合は監督員の承認を受ける。図示する品番・寸法・姿図及び形状は参考であり、製品及び製造所を指定するものではない。また、図示する形状及び配管などの取出し位置により、特定製造業者の製品を指示、限定しない。「図等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品目に該当する機材を使用する場合は、その判断基準、配座事項を満たすものとする。
②	主任技術者等の資格	※ 資格の区分 ①（級管工事施工管理技術士）②（級管工事施工管理技術士） ・ 適用しない
③	工事用電力、水、その他	本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きの費用はすべて受注者の負担とする。
④	技 能 士 の 適 用	○ 配管施工（建築配管作業） ○ 熱絶縁施工 ○ 冷凍空気調和機器施工 ・ 建築板金技能士
⑤	工 事 用 仮 設 物	※ 関連工事の関係者が設置する足場、作業構台の類は無償で使用できる。
⑥	土 工 事 (埋設配管は23による)	イ) 埋戻しは ・ 山砂の類 ○ 根切り土の中の良質土 ロ) 残土処分は ※ 構外に搬出し適切に処理 ※ As.Coは適所に処理すること ・ 構内堆均し ・ 構内の指示ある場所に堆積
7	発 生 材 の 処 理	引渡しを要するもの ※ なし ・ あり（ ・ 機器類 ・ 配管材料 ・ ）
8	説 明 板	監督員と協議のうえ、設備機器類（ボイラ、冷凍機、各種ポンプ、空気調和機など）及び一連の装置などの取り付け要領を記載した説明板を作成し、指示する箇所に付ける。
⑨	電気容量及び機器表示	イ) 電動機出力、燃料消費量等は、原則として表示された値以下とする。 ロ) 機器類の能力、容量等は原則として表示された値以上とする。
10	負 担 金	・ 給水引込負担金 （ ※ 別途 ・ 本工事） ・ ガス引込負担金 （ ※ 別途 ・ 本工事）
⑪	電 線 ・ 電 線 管	イ) 特記なき電線は600V耐燃性ポリエチレン絶縁電線とする。 ロ) 特記なき電線管は薄鋼電線管又は監督員の承認を得た場合は同一外径のねじなし電線管とすることができ。 ハ) 可とう電線管は第2種金属可とう電線管とする。
12	機器付属の制御盤	標準仕様書によるほか下記による。 ・ 運転ブロック図に適合するものとする。 ・ ボイラ及び冷凍水機等の付属盤の始動スイッチ2次側に、煤煙濃度計用電源端子を設ける。 ・ 接続及び端子は、仕様書を（ ※ 適用する。 ・ 適用しない。） ・ インバータ用の制御及び操作盤は、仕様書を（ ※ 適用する。 ・ 適用しない。）
13	塗 装	塗装業者は、 ※ 監督員の承認する業者 ・ 日本塗装工業会会員 様管の内見えがかり部（戸根等の内部を含む）は全て塗装を施すこと。（電線管含む）
⑭	保 温	イ) 保温の種類、材料、施工順序及び厚さは標準仕様書による。 ロ) 保温材質は下記による。 ○ 給排水、通気、過渡層理 （○ ポリスチレンフォーム ・ グラスウール） （床下、屋外露出、暗渠内はポリスチレンフォームとする。） ・ 給湯管、銅板製水槽、貯湯槽等 （※ グラスウール） ・ 消火管 （ ・ グラスウール ・ ポリスチレンフォーム） ・ 蒸気管 （※ ロックウール） ・ 排気筒、煙突、煙導 （※ ロックウール） ○ 空調設備配管、ダクト （※ グラスウール） ・ 排煙ダクト （※ ロックウール） ・ 排気筒 （ ・ ロックウール ・ グラスウール） ハ) 屋内露出（ ・ 機械室 ・ 書庫 ・ 倉庫）の配管、ダクトの保温は屋内露出（一般居室、廊下）に替り替える。 二) 屋外設置機器の外装仕上げは（ ・ スチール鋼板 ・ 溶融74にみよ重鉛鋼板）とする。 ホ) 屋外（多面露出）配管の外装仕上げは ○ スチール鋼板 ・ 溶融74にみよ重鉛鋼板）とする。 ヘ) ビット配管の外装仕上げは（ ・ 着色74にみよ重鉛鋼板 ・ 保温なし）とする。 ト) 保温厚さを標準仕様書以上とする場合には特記する。
備考		
1 屋内露出及び機械室、倉庫、書庫の配管にはバンド・樹脂を付け取付ること。		
2 水循環は特記のある場合のみ保温を行う。		
3 建築基準法施行令第129条の2の5第1項第7号に該当する防火区間などを貫通する給排水管及び通気管並びに消火管は貫通する部分及び前後1,000mmをロックウール保温材にて保温を施すか、建設省告示第1422号（平成12年）又は国土交通大臣認定の方法を適用すること。		

一

般

共

通

事

項

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

亜鉛鍍面地下処理

防 振 継 手

フレキシブルジョイント

はつり工事

補修など

他工事との取合い

配管表示

土中埋設配管周囲の保護砂及び埋め戻し土・盛土

埋設表示

支持金物、固定金具等

ポンプの電動機の機数

ポンプの名板

保守工具

岡山市標準施工図

耐震措置

4 漏し類下の排水露出管は保温を施さない。

5 保温を施す屋外露出配管の支持部は全て防湿性能を有する合成樹脂製支持台（丸形）によること。  
また、支持バンドは原則としてラッキングのより支持を施す。

6 コンクリート埋設の鋼管類にはプラスチックテープ（JISZ1901 厚さ0.4mm）1/2重ね2回巻きとする。

7 埋設フレキシブル継手にはペトララム系防水テープを1/2重ね1回巻きの上、プラスチックテープを1/2重ね1巻きとする。

亜鉛鍍面の地下処理はエッチングプライマ塗りとする。  
・ 鋼製フランジ付ベローズ形（接液部SUS304） ※ 合成ゴム製  
・ ポリテトラフルオロエチレン製(3山)  
※ 鋼製フランジ付ベローズ形（接液部SUS304） ・ 合成ゴム製  
既存のコンクリート床・壁等の貫通部の穴明けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。  
工事の施工に伴い既成部分を汚染または損傷した場合は、既成にない補修をする。  
イ) 鉄筋コンクリート部の貫通箇所及び開口部の補強、その他天井のボード切込み及び地下の補強は  
・ 本工事 ※ 別途工事  
ロ) コンクリート壁、床及び梁等における設備機器、風道、配管等の新入れ及び貫通スリーブ部は  
・ 本工事 ※ 別途工事  
ハ) 機器付属の制御盤及び操作盤以降の配管、配線は ※ 本工事 ・ 別途工事  
ニ) 別述室類への渡り配線の接続は ・ 本工事 ※ 別途工事  
ホ) 機器のコンクリート基礎 屋上設置のもの ・ 本工事 ※ 別途工事  
屋内設置のもの ・ 本工事 ※ 別途工事  
屋外設置のもの ・ 本工事 ※ 別途工事  
ヘ) 自動制御の電線管は ・ 本工事 ・ 別途工事  
ト) 自動制御の電線の配線は ・ 本工事 ・ 別途工事  
チ) 自動制御盤と自動制御機器との配線の接続は ※ 本工事 ・ 別途工事  
配管機器等は監督員の指示する箇所に文字印を記入し、弁にはプラスチック札を取付けること。札の文字等は影とり読みとし、SUSチェーンにて取付けのこと。

イ) 管周囲の保護 ※ 山砂の種類 ・ 根切土の中の良質土  
ロ) 埋戻し土・盛土 ※ 根切土の中の良質土 ・ 山砂の種類  
イ) 埋設表示テープ ※ 要（※ 給水 ※ 消火 ※ ガス ・ 排水 ・ 圧送管） ・ 不要  
ロ) 埋設標示柱・埋設標示ピン（※ 要 ・ 不要）  
消費ポンプの電動機の機数は（ ・ P ・ P ）  
水中ポンプの名板は監督員の指示により見やすい所に取付けのこと。  
下記の保守点検に必要な工具一式を提出する。  
・ ポンプ ・ 送風機 ・ 吸出口 ・ 樹 ・ その他  
参照 ※ する ・ しない  
設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。また、機器、配管、風道などの対策対策のため、必要な計画書を監督員に提出する。ただし、重量1kN以下の軽量な機器については、設備機器の製造者の指定する方法で確実に行えばよいものとする。  
イ) 機器の据け及び取付け  
設計用水平地震力は、機器の質量（自由表面を有する水槽その他の貯槽にあつては有効質量）に、地域係数と、次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

設計用標準水平震度		・ 特定の施設				・ 一般の施設			
設置場所	機器種別	・ 重要機器	・ 一般機器	・ 重要機器	・ 一般機器				
上 層 階	機 器	2. 0	1. 5	1. 5	1. 0				
	防振設置機器	2. 0	2. 0	2. 0	1. 5				
	水 槽 類	2. 0	1. 5	1. 5	1. 0				
中 間 階	機 器	1. 5	1. 0	1. 0	0. 6				
	防振設置機器	1. 5	1. 5	1. 5	1. 0				
	水 槽 類	1. 5	1. 0	1. 0	0. 6				
地下・1階	機 器	1. 0	0. 6	0. 6	0. 4				
	防振設置機器	1. 0	1. 0	1. 0	0. 6				
	水 槽 類	1. 5	1. 0	1. 0	0. 6				

・ 上層階とは２～６階建の場合は最上層、７～９階建の場合は上層２階、１０～１２階建の場合は上層３階、１３階建以上の場合を上層４階とする。  
中間階とは地階、１階を除く各階で上層階に該当しないもの。  
重要機器は、次のいずれかに該当するものをいう。また一般機器とは重要機器以外をいう。  
・ 給水機器（ ）  
・ 排水機器（ ）  
・ 換気機器 ・ 空調機器 ・ 熱源機器 ・ 防災機器  
・ 監視制御設備 ・ 危険物貯蔵装置 ・ 火を使用する設備  
・ 避難経路上に設置する機器  
ロ) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の１／２とする。

スリープ

振れ止め

道路使用

21

22

23

24

25

26

27

28

29

大便器・小便器

洗浄用タンク

洗浄用タンク固定金物

大便器用洗浄弁

温水洗浄便座

陶器の色

陶製又はプラスチック製の注意板の取付けは

※ 設計図による。 ・ 取付ける。  
※ 防錆珐瑯器製とする。 ・ 設計図による。  
※ フタ固定金物付とする。 ・ 設計図による。

節水機構とする。  
温水洗浄便座は、次の機能を有するほか、JIS A 4422（温水洗浄便座）によるものとする。  
・ 温風乾燥機能 ・ 暖音装置 ・ 操作ボタン  
監督員の指示による。

1

2

3

4

5

6

量水器

量水器類

管 類

親メータは水道事業者からの借用、子メータは買取りとする。  
※ 水道事業者の指定品とする。 ・ その他  
下記のものとは本仕様による。  
イ) 一般配管用  
・ 水道用硬質塩化ビニル管（SGP-VB ・ SGP-VD ・ SGP-VA） ・ 水道用ポリエチレン二層管  
・ 水道用硬質塩化ビニル管（ ・ VP ・ HVP） ・ 水道用高性能ポリエチレン管（HPEE）  
・ 架橋ポリエチレン管 ・ ゴム管  
○ その他（SUS）  
ロ) 土間配管、コンクリート壁中  
・ 水道用硬質塩化ビニル管（SGP-VD） ・ 水道用ポリエチレン二層管  
・ 架橋ポリエチレン管 ・ ゴム管 ・ その他  
ハ) 地中配管用  
※ 水道用硬質塩化ビニル管（SGP-VD） ○水道用硬質塩化ビニル管（ ・ VP ○HVP）  
・ 水道用高性能ポリエチレン管（HPEE） ・ 水道用ポリエチレン二層管 ・ その他  
ニ) ビット配管用  
※ 水道用硬質塩化ビニル管（SGP-VB ・ SGP-VD） ・ 水道用高性能ポリエチレン管（HPEE）  
・ 水道用硬質塩化ビニル管（ ・ VP ・ HVP） ・ 架橋ポリエチレン管 ・ ゴム管  
・ その他

給

水

設

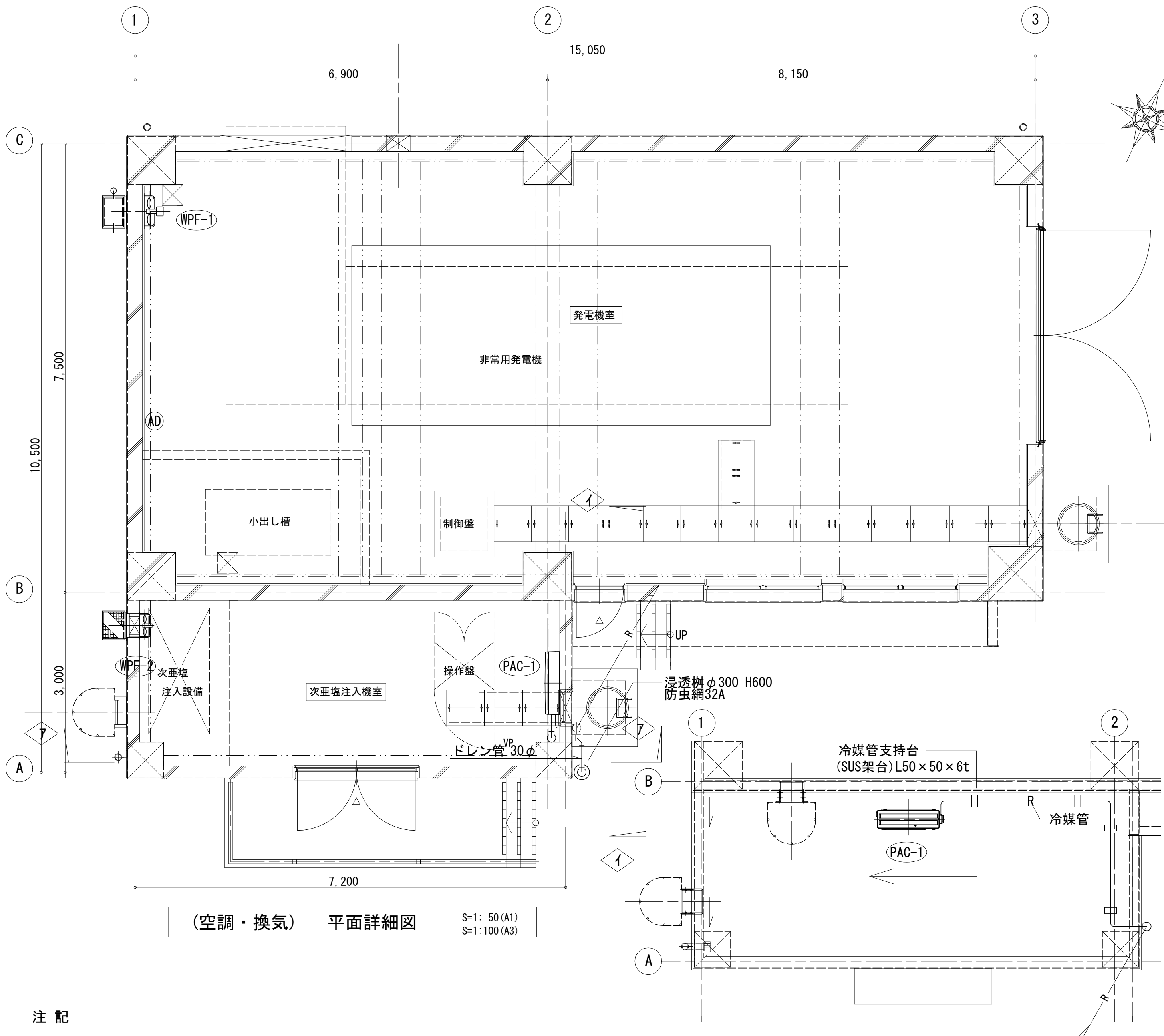
備

給 水 設 備	4	ラインニング鋼管接続	100A以上の接続	※ ねじ込み結合	標準仕様書による	
	⑤	弁 類	イ) 公営水道に直結する配管に使用するものはJIS又はJV 10Kとする。 ロ) 高圧水種以降の配管に使用するものはJIS又はJV 5Kとする。ただし、揚水ポンプに使用するもの及び特記部分ではJIS又はJV 10Kとする。 ハ) 65A以上の鉄製製止切弁、鉄製製造止弁は、ラインニング弁とする。50A以下の仕切弁、青銅製造止弁は管端コア付バルブとする。 ニ) 埋設箇所は埋設用バルブとする。			
	6	定 流 量 弁	取得付る。			
	7	水種周り可とう継手	合成ゴム製（2山以上）			
	⑧	埋 設 深 度	岡山市水道給水装置施工基準に適合する他図示による			
	9	ラインニング鋼管管端処理	※ 管端防食継手	防食コア	その他	
	10	散水栓ボックス	蓋はSUS製製とする。			
	11	給水管の使用許可	※ 給水管所有者に使用許可等の手続きを行うこと。			
	12	水質基準	水道法に定める水質基準を満たすことのできる管、弁、継手を使用すること			
	排 水 設 備	1	屋 内 汚 水 管	・ 便槽付製品	・ 排水用ノールエポキシ塗装鋼管	・ 耐火二層管
		2	屋 内 雑 排水 管	・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）	・ 排水用硬質塩化ビニルラインニング管	・ その他
		3	通 気 管	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）	・ 排水用ノールエポキシ塗装鋼管	・ 耐火二層管
4		屋 外 排 水 管	・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）	・ 排水用硬質塩化ビニルラインニング管	・ その他	
5		排水トラップ	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）	・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）	・ その他	
6		ます	※ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）	・ 硬質ポリ塩化ビニル管（VP）	・ 硬質ポリ塩化ビニル管（RS-VI）	
7		グリーストラップ	・ 耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管（ボツ）任選管	・ 配管用炭素鋼鋼管（白管）	・ その他	
8		マンホール鎮	フタ材質	・ 樹脂コーティング	・ 樹脂製	
9		共 栓 鎮	※ 岡山市標準施工図	・ 塩化ビニル製ます	・ 樹脂製ます	
10		ブル排水管	・ 既設コンクリート製ます	・ その他		
11		排水処理	SUS製炭素鋼管	※ 取得付る	・ 取得付ない	
給 湯 設 備		1	管 類	・ スパイ鋼鋼管（※ 拡管式	・ 溶接接合	・ その他）
	2	弁 類	・ 鋼管製（	・ 保温付	・ 保温なし）	
	3	膨張水槽の保温	・ 架橋ポリ塩化ビニル管	・ ボリ塩化ビニル管		
	4	給湯用簡易ボイラ	・ 耐熱性硬質塩化ビニル管（VP）	・ 耐熱性硬質塩化ビニル管（VP）	・ 耐熱性硬質塩化ビニル管（VP）	
	5	ラインニング鋼管管端処理	JIS又はJV 5Kとする。ただし、特記部分は 10K とする。			
ろ 過 循 環 設 備	1	ろ 過 装 置	※ 施工する	・ 施工しない		
	2	ポンプ廻り配管	ガスバーナはガスタイプとする。			
	3	循環配管	SUS製コア内蔵継手（100A以上防熱コア）			
	4	弁 類				
	5	保 温				
消 火 設 備	1	屋内消火栓箱	・ 1号消火栓（	※ 国土交通省仕様	・ その他）	
	2	消火栓弁の耐圧	・ 易操作性 1号消火栓（	※ 国土交通省仕様	・ その他）	
	3	消 火 栓 弁	・ 2号消火栓（	・ ドラム式	・ リール式	
	4	保 温	※ 2号消火栓（	・ ドラム式	・ リール式	
	5	フレキシブルジョイント	※ 鋼製フランジ付ペローズ形（接液部SUS304）			
	6	消 火 ポ ンプ	※ ユニット型 制動盤はユニット組み込みとする。	※ 日本消防設備安全センター認定品とする。		
ガ ス 設 備	1	供給ガスの種類	・ 都市ガス（	※ 13A 発熱量 46MJ/m3	）	
	2	管	・ 液化石油ガス（	※ 発熱量 100.47MJ/m3	）	
	3	ガスメータ	イ) 一般配管用			
	4	ガスメータの取付	・ 配管用炭素鋼鋼管（	・ 白管	・ 黒管）	
	5	緊急遮断弁の取付	・ ポリエチレン被覆鋼管	・ ガス用ステンレス鋼フレキシブル管		
	6	供給方式	ロ) 地中配管（土間を含む）	・ ポリエチレン被覆鋼管	・ ガス用ポリエチレン管	
ス 設 備	1	ガスメータ	・ 塩化ビニル被覆鋼管			
	2	ガスメータの取付	※ メータはガス供給業者より借用、千メータは買取りとする。			
	3	緊急遮断弁の取付	（・ マイコンメータ	・ その他）		
	4	供給方式	※ 本工事に含む	・ その他		
	5	ポンプ廻りの配管	・ 本工事に含む	・ その他		
	6	プロパン庫置成機構	・ ポン	・ バルクタンク		
備	1	ガスメータ	※ 自動切替式			
	2	ガスメータの取付	指定の箇所に取付ける			
	3	緊急遮断弁の取付	※ 岡山市標準施工図による	・ 公共建設設備工事標準図（機械設備工事編）施工73(b)		
	4	供給方式	・ 一般 300mm以上	・ 車庫通路 600mm以上	・ 1,200mm以上	
	5	ポンプ廻りの配管	※ 伸縮継手	・ 溶接配管	・ 機械的接合	
	6	プロパン庫置成機構	・ 継手の組合せ			
備	1	ガスメータ	※ あり（	・ 流電導接法	・ その他）	
	2	ガスメータの取付	耐震設計にあたり「ガス耐震設計マニュアル（一般建築用）平成11年10月」「高層建築物用ガス設備耐震設計・施工指針」の手引き昭和62年11月」いずれも社団法人日本ガス協会発行を参照する。			
	3	緊急遮断弁の取付	備書			
	4	供給方式	1 埋設配管の継手部周りの防食処理は、標準仕様書 第6編第2章			
	5	ポンプ廻りの配管	都市ガス設備2.2.5よりガス事業者の承認する工法による。			
	6	プロパン庫置成機構	2 配管の吊り及び支持は絶縁処理を施す。			
備	1	ガスメータ	3 塗装仕上げにおいて仕様書以外に必要な箇所は明記する。			
	2	ガスメータの取付	4 マグネシウム陽極の設置基準			
	3	緊急遮断弁の取付	① 低圧埋設配管で溶接接合による100A以上の鋼管部分の延長が3m以上ある場合は、絶縁継手を取り付け、さらにマグネシウム陽極（犠牲陽極）を設置する。			
	4	供給方式				
	5	ポンプ廻りの配管				
	6	プロパン庫置成機構				

ガ ス 設 備			
	<p>② 中間圧・中圧設置設備の場合は埋設延長にかかわらず絶縁継手とマグネシウム陽極を取り付ける</p> <p>③ その他埋設配管場所が酸性の強い土壌、腐蝕性の強い薬品を扱う工場敷地及びその周辺、湿地帯、海水の影響を受ける場所、鉱さい等による埋立地等、特に腐蝕性が強いと判断される場所の場合は、防食措置を別途検討する。</p>		
空 気 調 和 ・ 冷 暖 房 ・ 換 気 設 備	①	設計用温度湿度条件 (温湿度調整目標値)	国土交通省大臣官庁審判部監修の建築設備設計基準(最新版)
	2	冷水・温水・冷温水管	・ 配管用炭素鋼鋼管(白管) ・ ステンレス鋼鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HFPE)
	③	ドレン管	・ 配管用炭素鋼鋼管(白管) ・ 汚物(凝結水)強化ビニル管(RF-VP) ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(VP) ・ 結露防止層付硬質強化ビニル管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管(カラーVP)
	4	冷却水管	※ 塩化ビニルライニング鋼管 ( ・ SGP-VB ・ SGP-FVB ) ・ ステンレス鋼鋼管 ・ 高性能ポリエチレン管(HFPE)
	5	膨張・空気抜き・補給水管	※ 配管用炭素鋼鋼管(白管) ・ 高性能ポリエチレン管(HFPE)
	6	油 管	・ 配管用炭素鋼鋼管(黒管)
	⑦	冷媒配管	※ 断熱材被覆鋼管(標準仕様書による) ・ 機器の標準品(保温共)
	8	弁 類	JIS又はJIS 5K とする。ただし、特記部分は 10K とする。
	9	ファンコイルユニット	イ) ・ 流量調整弁を付与 ロ) ・ 定流量弁( ・ ダイアフラム式流量可変式 ・ カートリッジオリフィス形) 取付 ハ) 遠方操作スイッチの渡り配管 ※ 本工事 ・ 別途工事 ニ) 遠方操作スイッチの渡り配線 ※ 本工事 ・ 別途工事 ホ) 遠方操作スイッチのプレートは金属製とする。 ヘ) ドレンパンは ・ SUS 製 ・ 鋼板製 ・ 合成樹脂製 特及びスリットの材質は ※ アルミニウム製 ( ※ 着色する ・ 着色しない) イ) 低速ダクトとする。 ロ) 矩形ダクトは、 ・ アングル工法 ・ コーナポルト工法 ハ) 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm鋼板製とする。
	⑫	防煙・防火ダンパ	防煙ダンパは、 ※ 電気式 ・ 空気式 ダンパ復帰機構は、 ※ 遠隔式 ・ 手元式 電気式防煙ダンパ動作用電源、電圧はDC24V、0.6A以上とする。 取付位置は図示による。材質はアルミニウム製とする。 イ) シーリングディフューザ形吹出口には、下記のチャンバを設ける。 ネック径が200φ以下 400×400×250H ネック径が200φを越えるもの 500×500×300H ロ) 外壁に面するガリにチャンバ等を設ける場合には原則として排気を設ける。 イ) シーリングディフューザ形吹出口接続チャンバ及び図示したダクト並びにチャンパ類とする。 ロ) 内貼チャンパ類の寸法表示は、外形寸法とする。 ハ) 吹出口以外の内貼したチャンパには点検口(450×500)を設ける。 形式はビード管式(コック付)とする。取付は図示による。 標準仕様書及び図示の箇所のほか、下記の箇所に取付ける。 ・ 温水ボイラの温水管入口部 ・ 空気調和機器の送気風道、外気風道及び給気風道 ・ 冷温水管寄せ(注)及び冷温水管寄せの各送り管 機器付属以外の温度計は ※ 円形のバイメタル式(100φ以上) ・ フルデン管式 イ) 空気漏りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に 空気抜き弁装置を設ける。 ロ) 自動空気抜き弁にはストレーナを取り付ける。 ロ) 自動空気抜き弁にはストレーナを取り付ける。 中央機械室の冷却水管・冷温水管等の吊り及び支持は、防振吊り金物又は防振支持金物で行う。
	13	風量測定口	
	14	吹出口チャンバ	
	15	消音内貼り	
	16	瞬間流量計	
	17	温度計	
	18	冷温水管の空気抜き	
	19	防振吊り金物及び 防振支持金物	
	⑳	温度調節器・湿度調節器	
	21	エアフィルタの予備品	取付高さは ※ 1,300mm ・ mm イ) 空気調和機又はフィルタチャンバ(被着枚数の50%以上を予備品(特付)として納める。 ただし、自動巻取形の場合は100%とする。 ロ) ファンコイルユニットは機種毎に30%以上、また、空冷ヒートポンプ室内用は100%に当たるフィルタを予備品(特付)として納める。 最低1枚とする。 ※ 100%に当たる予備品を納める。 ・ 納めない。
	22	グリスフィルタの予備品	
	23	防振基礎	イ) 送風機の防振基礎(防振ゴム使用の場合)の総繰効率は %とする。 ロ) ポンプの防振基礎(防振ゴム使用の場合)の総繰効率は %とする。 イ) 屋内露出部の保温化粧カバーは ㊟ 樹脂製 ・ 鈑亜鉛鉄板 ・ その他)とする。 ロ) 屋外露出部は ㊟ ステンレス鋼板 ・ 樹脂製化粧カバー ・ 溶融アルミニウム亜鉛鉄板 ・ その他)
	㉑	冷媒配管の保温カバー	
	25	保温	イ) 全熱交換機( ・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 ロ) 送気ダクトは保温 する。 ・ しない。 ハ) ポンプは保温 する。 ・ しない。 ニ) ポンプ回りの防振継手、フレキシブル継手は保温 する。 ・ しない。 ホ) 換気ダクト( ・ 給気ダクト ・ 排気ダクト) は保温する。 エ) 空調本体は将来工事の為、スリーブ(樹脂製キャップ付き)のみ今回工事とする。 ※ 業務用機器「第一種特定製品」のフロン類はフロン排出抑制法に従って処理すること。 ・ 家庭用機器( ・ 室外機にフロン回収後、取外し指定場所保管 ・ 本工事対象外) ・ 吸収式冷温水機( ・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物) ・ 吸収式冷凍機の吸収液( ・ 産業廃棄物広域認定制度 ・ 産業廃棄物)
	26	スリーブ	
	27	冷媒等の処理	

図 内	山浦浄水場発電機棟ほか建築工事 No. AM-1	
	岡山市建築設備工事(機械)仕様書	
	縮尺	NON
	課長	係長
	設計	写図
岡山市水道局配水部施設整備課		





(空調・換気) 平面詳細図 S=1: 50 (A1)  
S=1:100 (A3)

注 記

\* 屋外設置の室外機基礎は、コンクリート製既製品(500L)×2個とする。

\* 室内機のワイヤリモコンは、指定の位置に取り付けのこと。

\* 冷媒管の屋内露出部分は樹脂製冷媒管化粧カバーを設け、屋外露出部分は、ホースリフレフォーム100mm  
+ステンレス鋼板ラッキングで防露施工のこと

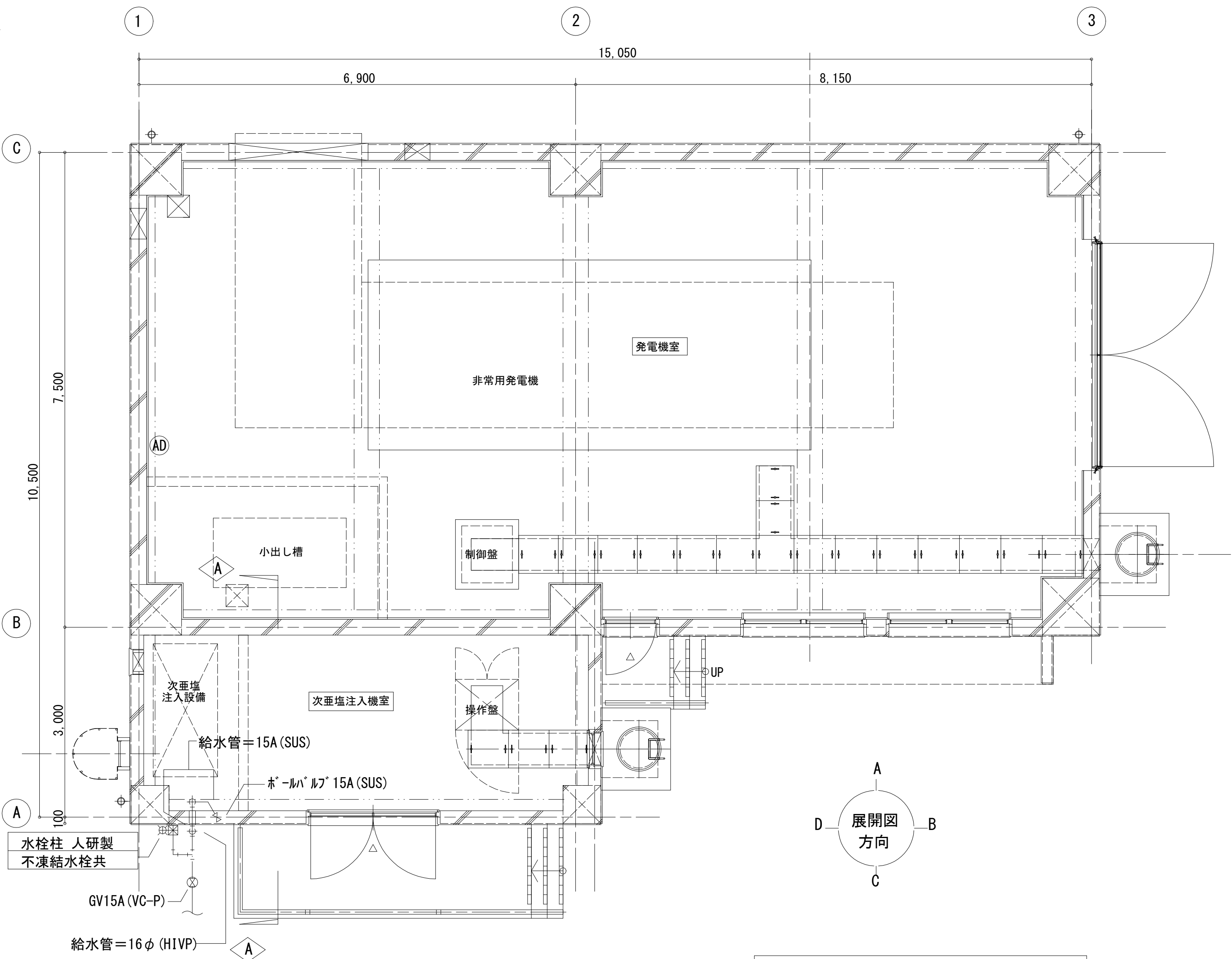
\* ドレン管の排水先は最寄りの雨水樹に接続、放流のこと。

冷媒管リスト

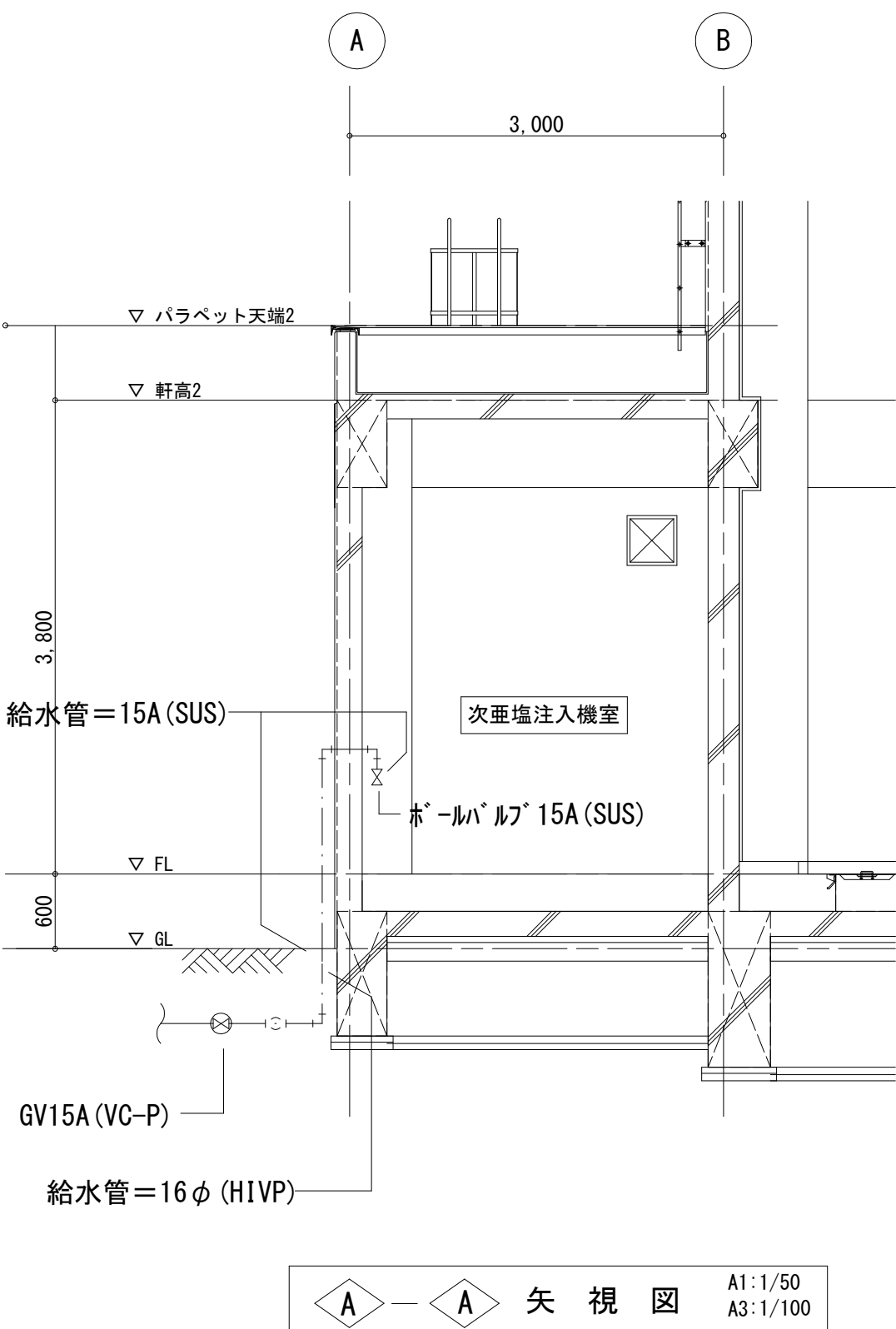
記号	液管 / ガス管	備 考
PAC-1	9.5φ / 15.9φ	室内機～室外機の連絡配線 EM-EEF2.0-2C×2を共巻き

空調、換気・機器表

記 号	名 称	仕 様	数 量	備 考
PAC-1	空冷ヒートポンプ式 パッケージエアコン	壁掛け形 冷房能力 7.1kW 暖房能力 8.0kW (室内機) ファン電動機 48W (室外機) ファン電動機 90W 圧縮機電動機 1.70kW 電源: 1φ200V ワイヤリモコン、他付属品一式共 (消費電力) 冷房・2.49kW 暖房・2.49kW	1	SZRA80BYNV (三菱工業(株)相当品)
WPF-1	有圧換気扇	排気用 低騒音型 400φ×3400m3/h×80Pa×1φ×100V×150W 排気用ワイヤリモコン-(SUS製400φ用、防火ダンパー及び防虫網付き)	1	EFW-40DSA2 W-40TDBM (三菱電機(株)相当品)
WPF-2	有圧換気扇	排気用 低騒音型 SUS製 250φ×900m3/h×40Pa×1φ×100V×25W 排気用ワイヤリモコン-(SUS製250φ用、防虫網付き)	1	EF-25ASXC2-HC W-25SBM (三菱電機(株)相当品)

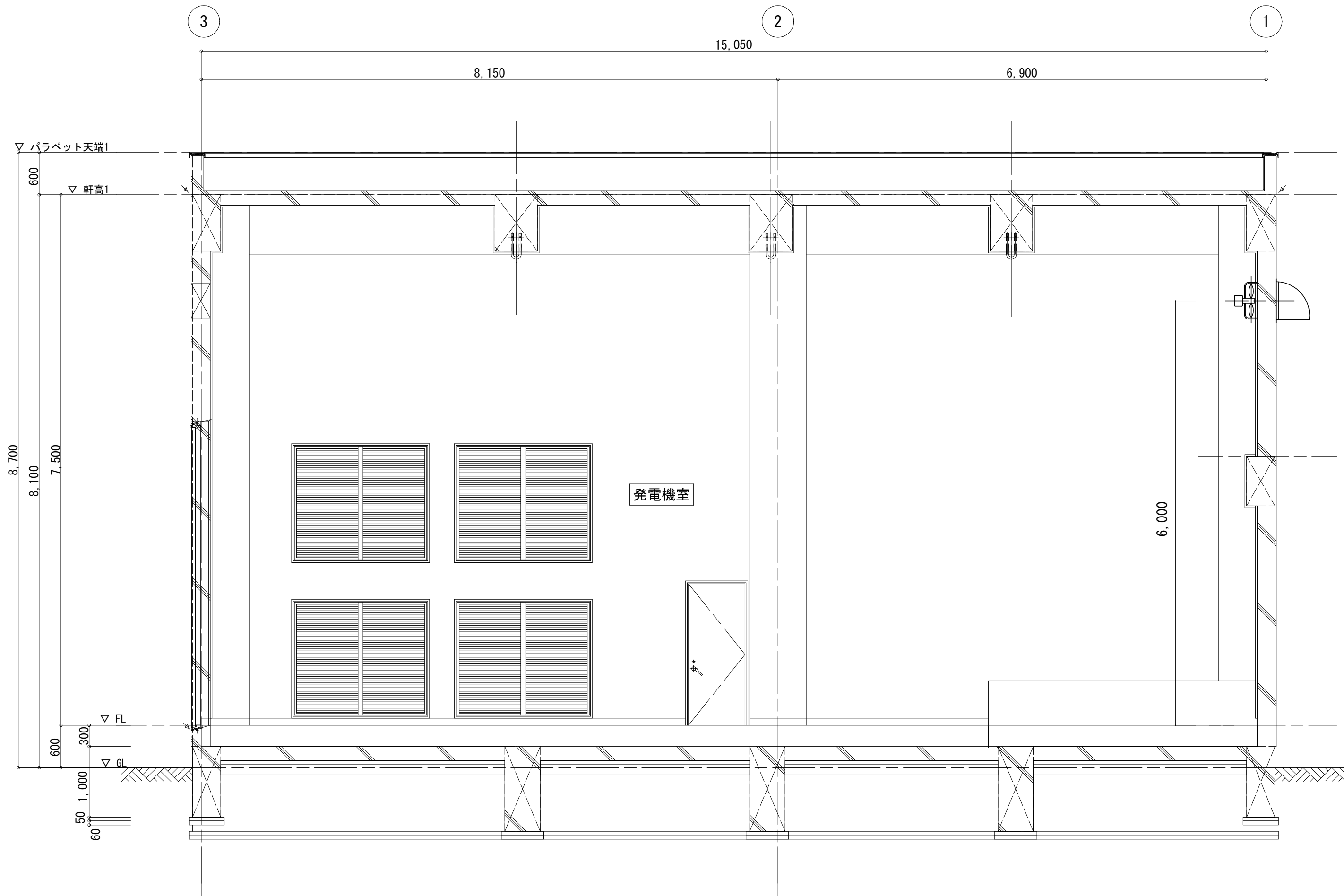


(衛生) 平面詳細図 S=1: 50 (A1)  
S=1:100 (A3)

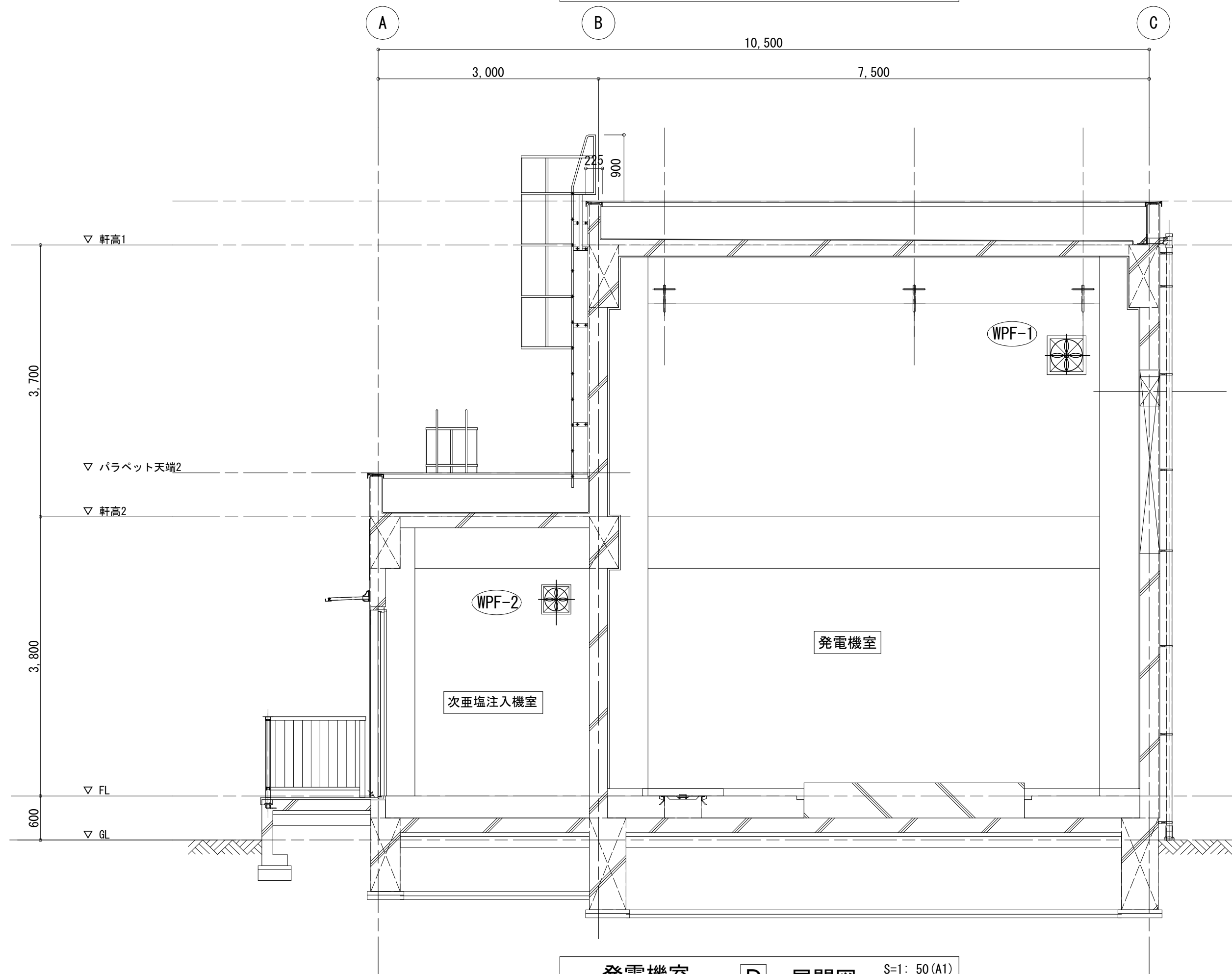


注記

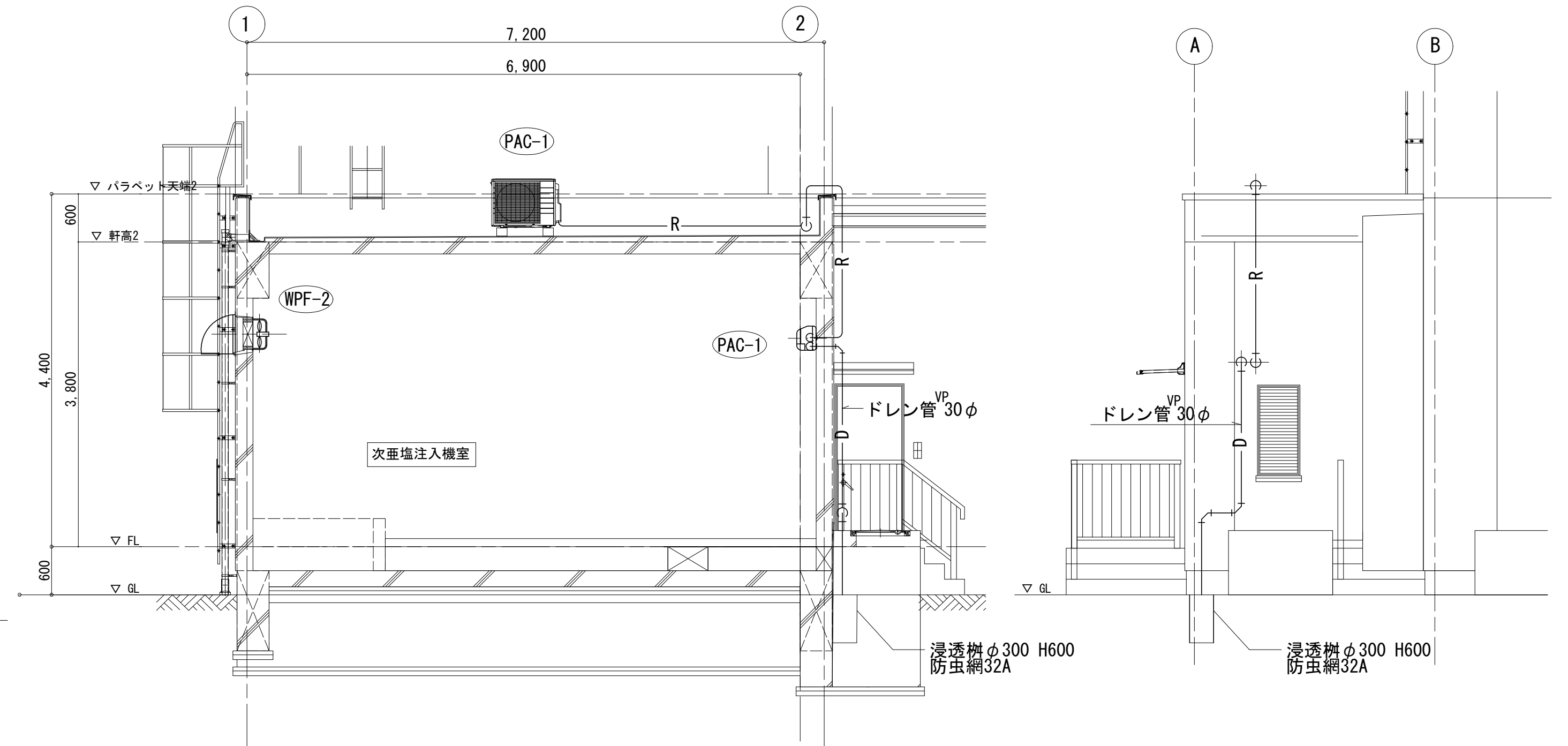
- 給水管=16φ(HIVP)の土被りは、600mmとする。
- 給水管=15A(SUS)の屋外配管は、ホースリフレフォーム20mm+ステンレス鋼板ラッキングで防露施工のこと。



発電機室 C 展開図 S=1: 50 (A1) S=1: 100 (A3)

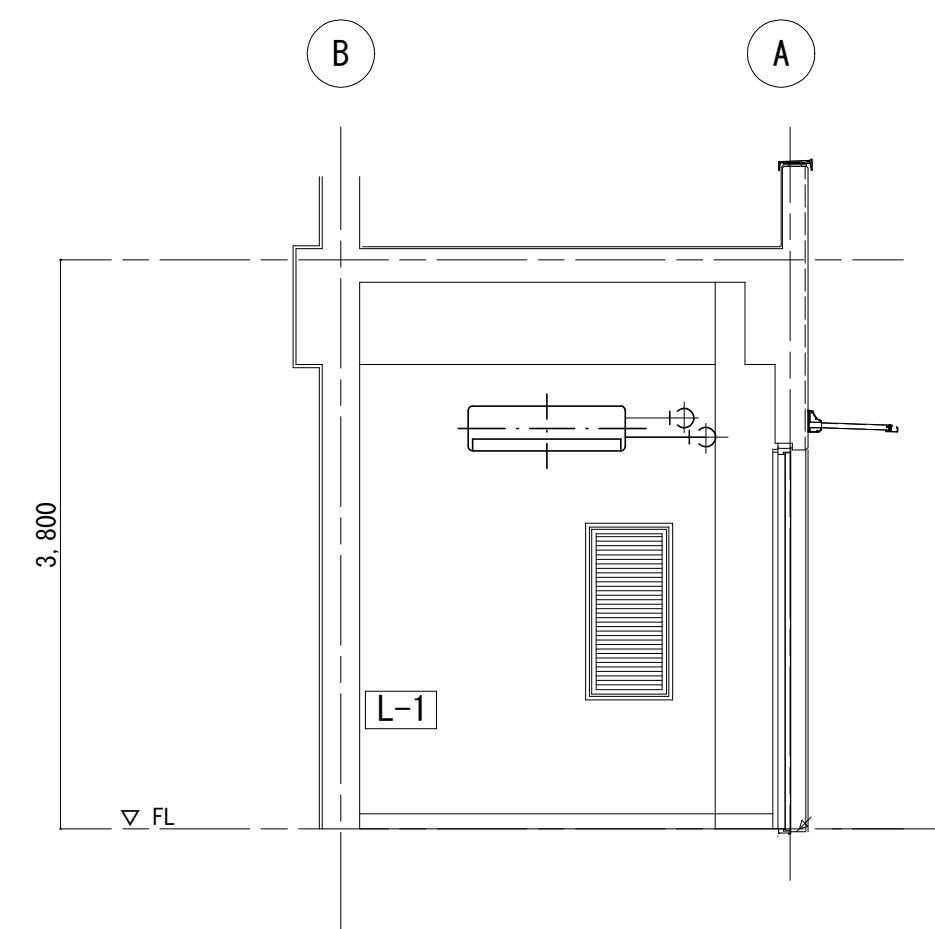


発電機室 D 展開図 S=1: 50 (A1) S=1: 100 (A3)



次亜塩注入機室 矢视图 S=1: 50 (A1) S=1: 100 (A3)

次亜塩注入機室 矢视图 S=1: 50 (A1) S=1: 100 (A3)



次亜塩注入機室 B 展開図 S=1: 50 (A1) S=1: 100 (A3)